

# 福島県方言に関する口語コーパスの収集とその分析

幡 早夏

(東京外国語大学大学院博士前期課程)

## 0. 福島県方言概説

### 0-1. 使用地域と人口

福島県は、東北地方の最南端に位置する県である。面積は約13万km<sup>2</sup>で、東には太平洋を臨み、北は東北地方（宮城県・山形県）、南は関東地方（茨城県・栃木県・群馬県）、西は中部地方（新潟県）に隣接している。人口は約200万人、約70万世帯（2005年1月現在：福島県庁のホームページより）が居住している。県内には、阿武隈山地と奥羽山脈という二つの山脈が走っており、これにより、浜通り（阿武隈高地以東域）・中通り（阿武隈高地と奥羽山脈とに挟まれた阿武隈川を中心とする平地域）・会津（奥羽山脈以西域）と三区分されている。一般に、この区分が方言区画の大枠ともされている。

### 0-2. 系統・方言差

#### 0-2-1. 地理的特徴

福島県方言は、日本語の東北方言に属する。さらに、東北方言の中でも最南端であり、北関東の方言と隣接していることから、北関東の方言とも類似している点が多い。

#### 0-2-2. 系統・方言差

菅野宏（1982:366-370）では、福島県の方言を10の方言区画としている。大きくは、浜通り、中通り、会津の3つに分かれるが、その中の分類は以下のとおりである。

浜通り：2区画

相馬方言圏①・磐城方言圏②

中通り：4区画

信達方言圏①・安達安積方言圏②

田村方言圏③・県南方言圏④

会津：4区画

会津平方言圏①・南会津東方言圏②

南会津西方言圏③・檜枝岐方言圏④

中でも、福島県南西端の檜枝岐方言圏④は、アクセント等の諸特徴から他と性質の異なる方言である。東京式に似たアクセント型を持つ檜

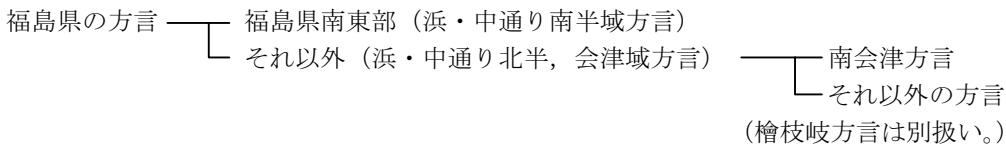


図1 福島県方言区画

菅野宏（1982:367）

枝岐方言を除いて、無アクセントに属する。また、大橋勝男（1992:100-101）では、別の分類をしている（図2）。

図2 大橋勝男（1992）による方言分類



### 0-3. 先行研究

福島県方言の先行研究としては、音声・文法を全般的に扱った概説的なものに児玉卯一郎（1974）、菅野宏（1982）、大橋勝男（1992）などがある。アクセント研究には森下喜一（1996）、グロットグラムとして東北・北海道の社会的動向を扱ったものには井上史雄・玉井宏児・鎌水兼貴（2003）などがある。また、日高水穂（2000）にも福島県方言に関する断片的な文法記述がある。

### 0-4. 音声・音韻

#### 0-4-1. 母音の特色

福島県方言は、[i]と[e]の区別が曖昧であり、その中間音[ɛ]の母音が用いられることが多い。また、語頭の[i]と[u]の区別も曖昧であり、この場合は中舌母音[i]（北半域では[ɯ]）が用いられることが多い。これは主に[ei]と[su]、[ɛi]と[tsu]、[d̪i]（あるいは[z̪i]）と[d̪u]（あるいは[z̪u]）に顕著である。なお、菅野宏（1982：369）によると、檜枝岐方言では、「[i]と[e]の区別を持つ」とあり中間的な音はないのだと推察される。児玉卯一郎（1974：51）には次のような記述がある。

（中略）元来の方言では [i] と [e] の区別がなく、福島県用の人名索引などには「い・えの部」と言ふように一緒にしたのが多い。これは畢竟「伊藤」と「江藤」との発音に厳密な区別ができないために外ならない。

（旧漢字は筆者が新漢字に直して表記した。）

このような特徴は、現在では、特に若い世代ではあまり見られなくなっている。音声としては共通語と同じ5母音に加えて、[ɛ]と[i]（あるいは[ɯ]）の母音も観察されるが、音韻体系としては/ie a o u/の5母音であると言って差し支えないのではないだろうか<sup>1</sup>。

#### 0-4-2. 子音の特色

子音の特色としては以下のようなことが挙げられる。

<sup>1</sup> 参考までに、福島県方言ではないが、隣接する山形県鶴岡市の方言の母音体系について、井上史雄（1994）「鶴岡方言の音韻」が詳しい。ここでは、母音体系の古体系・新体系・現体系を考察しており、現在は5母音体系であるとしている。福島県方言でも同じことが起こっていると考えるのも妥当であると思われる。

### (1)語中のガ行音

ガ行鼻濁音を持ち、語中のガ行音は鼻音[ŋ]で発音される。また、「行く」も[行 ɲū]と発音されることがある。

### (2)前鼻音

前鼻音とは、音韻論的に濁音音素の前には入りわたり鼻音が現れるものである。井上史雄(1968:81)の地図によると、前鼻音には、福島県を横断する形で境目があり、境界線の北側には前鼻音が存在し、南側には前鼻音は存在しない。しかし、今回の調査では信達方言の話者には前鼻音は観察されなかったが、南会津東方言の話者1名には前鼻音が観察された。この特徴がどの地域にどれほど残っているかについては詳細な調査が必要である。

### (3)有声化

福島県方言には、無声子音[k t t̪ ts]が有声子音[g d d̪ ðs]で実現する有声化現象がある。これは、東北六県や栃木県・茨城県等でも顕著に見られる現象である。例えば、頭／atama／という単語は、／t/が有声化して[adama]と実現する。有声化は、形態素境界のない母音間で起こる。しかし、形態素境界のない母音間であっても、起こらない条件がある。以下に、その条件と有声化現象が起こらない環境を列挙する。

促音・撥音・長音の直後 無声化母音の前後 擬音語 形態素境界 漢語外来語  
また、菅野宏（1982:369）によると、檜枝岐方言は有声化を示さないとある。

## 0-4-3. アクセント

アクセントは、東京式に似た型を持つ檜枝岐方言を除いて、無アクセントである。また、大橋勝男（1992）には、「少年層などは、型知覚はないが、語の発音をしてもらうと、東京式の型に一致することがよくある」、森下喜一（1996:233）には、「年齢が若年化するにつれて、有型化の兆しが現れてきた」との記述もある。

## 0-5. 文法概略

文法概略については、コーパスからのデータを基に作成し、2.テキストの例による文法概説で詳しく述べることとする。

## 0-6. 言語文化関連サイト

福島県庁 <http://www.pref.fukushima.jp/>

行政一般の情報もさることながら、福島県のプロフィール、歴史、交通、観光・レジャー・データブックなども公開されている。さらに、市町村の画像や動画も見ることができる。県内の行事や郷土資料の情報もある。福島の昔話も動画と音声で楽しむことができる。

福島市役所 <http://www.city.fukushima.fukushima.jp/>

行政に関することが主であるが、観光客に向けて福島の物産などの紹介もされている。

会津若松市役所 <http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>

行政以外には、歴史や人物、文化に関することも知ることができる。特に新撰組や野口英世については詳しく掲載されている。

## 1. 調査及びコーパス作成の概説

### 1-1. 調査概要

2004年8月に福島県内の2地点で筆者が自然談話資料を収集した。以下にインフォーマントの属性を示す。

氏名	年齢	誕生年	性別	言語形成期を過ごした場所（6～13歳）
【信達方言】				
A S.J	83	1921	男性	福島県福島市松川町
B H.T	81	1923	女性	福島県福島市松川町
C T.S	76	1928	女性	福島県福島市松川町
D K.K	82	1922	女性	福島県安達郡安達町
E S.K	82	1922	女性	福島県郡山市田村町
F F.H	83	1921	女性	福島県福島市（結婚後秋田に外住歴有）
【南会津東方言】				
G W.N	77	1927	女性	南会津郡下郷町

信達方言は、上記5人と筆者を含めた6人の会話であり、南会津東方言はインフォーマントと筆者の一对一の会話である。信達方言の会話には筆者も参加しているが、なるべく口を挟まないようにしたので、筆者の発話は非常に少ない。南会津東方言は質問形式で、質問をきっかけに会話をはじめるという形式である。両方言とも基本的には共通語で行ったが、筆者が信達方言話者と言うこともあり、ごく希に信達方言が混じることもあったかもしれない。

### 1-2. コーパス作成の概要

文字化したコーパスは、信達方言60分、南会津東方言90分の談話である。文字化の凡例・方針は全て国立国語研究所（2003）『全国方言談話データベース日本のふるさとことば集成（第7巻）群馬・新潟』の凡例にしたがっている。凡例を以下に抜粋し、独自に規定したこととも含めて本コーパス作成に際しての凡例を示す。

#### <文字化と共通語訳>

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共に語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「—」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。無助詞の場合は「ɸ」で示す。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表わす。

#### <発話単位>

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発音を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

#### <発話番号>

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。 例：1A

<話者記号>

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A、B、C、D……のように、アルファベットで示した。

<固有名詞>

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当箇所を、A、B、C、X1、X2、X3などのアルファベットに置き換えた。談話の場にいる人物は、A、B、C…のように示し、話題の中の第三者は、X1、X2、X3…のように示した。

歴史上の人物や、有名人の人名は、記号に置き換えず、会社名、店名などもそのまま記している。

<記号>

。 (句点) : ポーズがあつて、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる箇所。

、 (読点) : 基本的に息をついた箇所、または、ポーズのある箇所。

? : 疑問を表わしている箇所。必ずしも上昇イントネーションというわけではない。

() : あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした箇所。

{ } : 笑、咳、咳払い、間、などの非言語音。

×× : 言い間違いや言い淀みなど。

＊＊ : 聞き取れない部分。

// : 対応する共通語訳が不明な部分。

[] : 方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

|| : 注意書きなど。

## 2. テキストの例による文法概説

### 2-1. 名詞

#### 2-1-1. 指示詞と人称代名詞

指示詞と人称代名詞については児玉卯一郎（1974:98-101）が詳しい。以下に表を抜粋する。

表1 指示詞

	近称	中称	遠称	不定称
事物	コイヅ コレ	ソイヅ ホイヅ ソレ ホレ	アイヅ アレ	ドイヅ ドレ
方向	コッチ コッチャ	ソッチ ホッチ ソッチャ ホッチャ	アッチ アッチャ	ドッチ ドッチャ

場所	ココ ココラ	ソコ ホコ ソコラ ホコラ	アスコ アツク アツコ アソコ アソコラ	ドコ ドコラ
----	-----------	------------------------	----------------------------------	-----------

(児玉卯一郎 1974 : 98-101 を基に筆者が作成)

表2 人称代名詞

一人称	オレ, オラ, アタシ, ワタシ, ワカ°
二人称	ニシ, ニシャ, オメ(一), アンタ, ワカ°
三人称	コイツ, ソイツ, ホイツ, アイツ
不定称	ダレ, ドナタ, ドイツ

(児玉卯一郎 1974 : 98-99 を基に筆者が作成)

参考までに、人称代名詞に関してコーパス中の用例数を示すと以下のようであった。一人称と二人称の結果を表にした。三人称に関しては、検索した結果では、指示詞として用いられているものだけであった。また、不定称はダレのみが使用されていた。

表3 コーパスの用例における一人称代名詞と二人称代名詞

		信達	南会津東	合計
一人称	オレ	24	79	103
	オラ	20	48	68
	アタシ	0	0	0
	ワタシ	21	1	22
一人称／二人称 <sup>2</sup>	ワカ°	6	30	36
二人称	ニシ	0	0	0
	ニシャ	1	0	1
	オメ(一)	4	14	18
	アンタ	23	0	23

信達方言では一人称にオレ・オラ・ワタシの3つが同頻度で使用されているのに対し、南会津東方言でも3つの併用があるものの頻度はオレが最も多い。二人称は地域差が顕著に表れ、信達方言ではアンタが、南会津東方言ではオメ(一)が多く用いられるようである。ワカ°については別の機会に譲る。

## 2-1-2. 格

ここでは例示するだけにとどめ、詳しい考察は今後の課題とする。用例は主に信達方言から検索し、なるべく同じインフォーマントの用例を載せる。方言差が見られた場合は、

<sup>2</sup> 一人称であるか二人称であるか、あるいは別の人称を表わしているのか判断しかねるので、ここでは併せて用例数のみ示すことにする。

適宜示すこととする。

(1)主格 ガ°／φ

主格はガ°及びφで表される。

<ガ°>

134B : アー ホンジャ ハー ヨガッタ モシ トーモロコシφ  
ああ それじやあ もう よかった。もし とうもろこし [が]

ホシーンダッタラ ヤオヤサンガ° クッカラナイ  
欲しいんだったら 八百屋さんが 来るからね。

<φ>

2B : ンダガラ アトデ コノコエφ キーデ アー コレφ C サンノコエダ  
ながら、あとで この声 [を] 聞いて ああ これ [は] Cさんの声だ

ア一 コレワ F サンφ シャベッタンダ アー コレワ  
ああ これは Fさん [が] しゃべったんだ。ああ これは

D チャンダヨッテ ワタシφ オシエッカラ アド  
D ちゃんたよって 私 [が] 教えるから あと [で]。

テキスト中ではガで主格を表わすよりもφが用いられるほうが多いようである。前接名詞の有生／無生による使い分けはないが、参考までに区別して表にした。

表4：コーパスの用例におけるガとφ（述語が動詞のもの）

前接名詞	ガ	φ
有生物	13	28
無生物	11	46
合計	24	74

(2)属格 ノ／ガ°

属格はノが主であるが、南会津東方言のインフォーマントはガ°を用いている部分も見られた。佐々木冠（2004）には、水海道方言において属格はno、所有格はngaであるという分析があり、ここでもこれに準じるのではないかと考えられる。

<ノ>

310B : ドゴノヒトダガ シンニノ  
どこの人だか 知らないの。

<カ°> (南会津東方言)

イヤ ソノホガニ コンダ ツトメッタンダ コー コー  
いや その他に 今度は 勤めていたんだ。 こう こう

ジム ャッテダ ウーン ソンジャガ オラφ ヒヤグショ一φ  
事務 やっていた。 うん。 それだから 私[は] 百姓[を]

ヤッテダッテ オレカ° テワ ミンナヨッカ キレーナンダ  
やっていたって、 私の 手は みんなより、 きれいなんだ。

(3)対格 オ/φ

対格はオ及びφで表される。

<オ>

518B: アッパイ アノ トリアケ° ダッテ ムガシワ ナニカ ユワレカ°  
あるでしょ。あの トリアゲだって 昔は 何か 謂れが

アンデショツツーノ アソゴワ アノ ナンテユー ムゴーガラ ズーット  
あるんでしょって言うの。 あそこは あの なんていいう 向こうから ずっと

キテモ コッチカラ イッテモ イチバン タガイドゴロデ  
来ても こっちから 行っても 一番 高いところで

ヤマノコンモリシタナガニ アル アレデナイ  
山のこんもりした中に ある。 あれでね

ブッソーナドゴダッタンダヨナイ ンダガラ アソゴントゴニ ヒソンデ  
物騒なところだったんだよね。 だから あそこのところに 潜んで

イデデ トリアケ° ダンダベ タビビトノ サイフ才  
いて 取り上げたんでしょ。 旅人の 財布を。

<φ>

16B: オー キカ° キーデッコド D チャンφ テフギφ  
おお 気が 利いていること。 D ちゃん[が] 手拭[を]

モッテキテクレタ  
持つて来てくれた。

テキスト中ではオで対格を表すよりもφが用いられるほうが多いようである。前接名詞の有生/無生による使い分けはないが、参考までに区別して表にした。

表5：コーパスの用例におけるオとφ

前接名詞	オ	φ
有生物	1	1
無生物	13（通路：3）	132（通路：13）
合計	14	133

また、オ／φの他に「ントコ」も対格相当の要素ではないかと考えられる。しかし、これはまだ対格相当と断定してよいかは今後の課題であり、このような例が見られたことを報告しておく。秋田方言の文法を扱っている日高水穂(2000)には次のような記述もある。

【秋田方言に関して】対象物が有生物（厳密には植物は含まないので「有情物」）である場合には、特にその名詞句をとりたてて、助詞「トコ」を用いることがある。(中略)他方言に目を遣ると、対象格助詞として「トコ」を用いる秋田県・山形県・福島県北西部を間に挟んで、北は津軽地方（青森県）、南は新潟県北部・福島県南東部から栃木県・茨城県にかけて「コト」を対象格助詞として用いる方言があることも、その傍証となろう。（【】内は筆者補注）

福島県方言の文法を概観した大橋勝男(1992:104)にも、「目的・対象を示す「ゴド」「ドゴ」格助詞の項目に、「主に北半域に「ドゴ」が用いられ、南半域に「ゴド」が用いられている。」とある。ただ本コーパスの中では「トコ」ではなく必ず「ントコ」で現れている。以下に用例を示す。

<ントコ>

378B : ナイ チカイガラッテナイ シテ ウヂノ アノ X7 ンドゴ  
ね。 近いからってね。 [そ] して 家の あの X7 [を]

オグッテキタリ シタンダゲド ナンカ アノヒト ソーナンダヨ  
送ってきたり したんだけど なんか あの人 そうなんだよ

バーチャンッテ ユワッチャガラ エーット オモッタンダヨネ  
おばあちゃんって 言われたから えーっと 思ったんだよね

ソシタラ X5 チャンノ ムスメナノカナッテ \*\*  
そしたら X5 ちゃんの 娘なのかなって \*\*

この対格相当ではないかと考えられる「ントコ」は信達方言では上記の1例のみだが、南会津東方言では11例観察された。共通語の「NPのところ」とは用法が異なり、場所を表しているわけではない。NP-ントコのNPが有生物の場合に用いられるようであるが、用例の検討が必要である。

#### (4)与格 ニ／サ

予格はニ及びサによって表される。しかし、テキストの例によると、サが使用されるのはまれで主にニが使用されるようである。

<ニ>

22C : テフギ φ モッテダヒト φ アノ テー φ ウツグシガラ ホレ  
手拭〔を〕 持っていた人〔が〕 あの 手〔が〕 きれいだから ほら

コノヒト三 ゴツツオシテヤリナ ヒトツツ ツカンデ  
この人に ご馳走してあげなさい 一つ つかんで。

<サ>

440C : タジマノインチョーサ イッテ \*\*  
田島の院長に 言って \*\*。

(南会津東方言)

オメ イド φ キッチャラ タイヘンダモノー ホンナ ナオスニ  
あなた 糸〔が〕 切れたら 大変だもの。 そんな 直すに。

ウーン ソユーノワ ダレサモ ヤラセネ ウン  
うん。 そういうのは 誰にも やらせない。 うん。

#### (5)位格 ニ／サ

位格は予格と同じニ及びサによって表されるが、予格とは逆にサの方が頻繁に現れる。

##### (5-1)方向格

<ニ>

358B : ソシテ イマ アノ ロンク° ライフ三 イッテンノガイ  
そして 今 あの ロングライフに 行っているのかい？

<サ>

412A : ロンク° サ イッテナイ  
ロングに 行ってない。

また、方向格にはエも用いられることがあるが、南会津東方言で一例見られただけで、圧倒的にサが使用されている。

##### (5-2)場所格

<ニ>

87D : シタラバ ケサ オレ φ ハダゲ三 イダノ  
そしたら 今朝 私〔は〕 畑に いたの。

<サ>

227F : ア ソー ナエキ。ワ サンボン マイトシ サンボン ウエテ カゾグデ  
あ そう 苗木は 三本。 每年 三本 植えて 家族で

ナンカイモ タベラレルクライ デギンデショ? ケッコウ ワタシワ  
何回も 食べられるくらい できるんでしょ? 結構。 私は

アキタニ イダドキ オッキナ ハダゲデ ソレゴソ コノクライノ ハダゲサ  
秋田に いた時 大きな 煙で それこそ このくらいの 煙に

ウエトイダノ スイカバンφ シタノ ヤマノウエサ アカ。ツテ  
植えておいたの [の] スイカ番 [を] したの 山の上に あがって。

場所格はφでも表されることがあるようである。しかしこれは一例のみであるため、さらに用例を検討する必要があり、報告として示しておく。

<φ>

624B : アノ ノーキョーンドゴφ ムガシノ ノーキョントゴφ  
あの 農協のところ [に] 昔の 農協のところ [に]

シユーカイジョφ ツグッテ  
集会所 [を] 作って。

(6)道具格 デ

道具格はデで表される。

<デ>

738C : カッテモラワンニガ\*\* ホンデ シンブンカ。ミズ コー ツグッテ  
買ってもらえなかった。それで 新聞紙で こう 作って

アナφ アゲデ ホデ ホタルφ ニケ。ランニクレダゾッテ  
穴 [を] 開けて。それで ホタル [が] 逃げられないくらいだぞって

ハリズ アゲデ ホゴサ シバッテ イッチョグノ  
針で 開けて そこに 縛って 入れておくの。

(7)共同格 ト

共同格はトで表される。

<ト>

914F : コーリヤマワ ニシダト ミホダト カタ カタ カタ  
郡山は ニシダと ミホダと カタ カタ カタ

(8)到達格 マデ

到達格はマデで表される。

386D : コナイダ コナイダ アノ コナイダ コナイダ アノ バスデ クットギ  
こないだ こないだ あの こないだ こないだ あの バスで 来る時

ワタシφ アノ アンダφ アンダφ ドゴマデ  
私 [は] あの あんた [は] あんた [は] どこまで

イク。ンダイツツーガラ イヅモ ドゴマデ イク。ンダイツツーガラ  
行くんだって言うから いつも どこまで 行くんだって言うから

イヂバン ブットマリマデ イク。ッテ オレφ ユッタノ  
一番 ブットマリまで 行くって 私 [は] 言ったの。

(9)比較格 ヨリ／ヨカ

比較格はヨリ及びヨカで表されるようである。しかし、信達方言ではヨリが、南会津東方言ではヨカが観察されるという差があった。

<ヨリ>

194E : サッキノ サッキノ スイガヨリ コレφ アマイミデダ {笑}  
さっきの さっきの スイカより これ [は] 甘いみたいだ。 {笑}

<ヨカ> (南会津東方言)

ソンジヤガラ ヤッパ ミンナ トショリダベ オレヨカ  
そうだから やっぱり みんな 年寄りでしょ 私より。

### 2-1-3. 主題 ワ／φ

主題はワ及びφで表される。頻度についてはここでは触れない。

<ワ>

935B : イマノコドモドワ ゼンゼン チカ<sup>。</sup> ウ\*\*  
今の子供は 全然 違う\*\*。

<φ>

946B : ホダ オトーサンφ エラガッタンナイ イマノ オトーサンφ  
そうだ。お父さん [は] 偉かつたのね。 今のお父さん [は]

カラッキシナイ ヨワクテナイ  
からつきしね。 弱くてね。

## 2-2. 動詞

### 2-2-1. ヴオイス

#### 2-2-1-1. 可能

可能表現は、語幹に {rare}<sup>3</sup>が後接することによって表現される。母音語幹には／rare／，子音語幹には／are，e／が後接する。／are，e／は、状況可能・能力可能の区別はなく併用される。

<are>

462E：ウッカリ キカンニナイ ワカ<sup>。</sup> イニ セート イナイトナイ  
うっかり 聞けないね。 自分の家に 生徒〔が〕 いないとね。

ソユーワケダ  
そういうわけだ。

<e>

703B：キヨーワ アノ アレサ イッテキタデショ フグシマニ ソシタラ  
今日はあのあれに行ってきたでしょ 福島に。 そしたら

コゴイラノヒトデナイヒトカ<sup>。</sup> イダンダッテ デ ソレオ  
ここら辺の人でない人が いたんだって。 [それ]でそれを

キケダガラ ヨガッタッテ ユッテ  
聞けたから よかったって 言つて。

／(r) are／と／e／の内訳を示すと表6のようになり、／e／が使われる頻度は非常に少ないと言える。

表6：可能表現の分布：／(r) are／と／e／の内訳（2方言の合計）

		子音語幹動詞	母音語幹動詞	強変化	合計
(r) are	肯定	6	3	0	9
	否定	18	2	1	21
e	肯定	1	0	0	1
	否定	2	0	1	3
合計		27	5	2	34

可能表現の否定には、／anai／や／ane／も用いられるが、多くの場合は／ni／が用いら

<sup>3</sup> 代表形を {rare} とし、その異形態を//で表す。

れる。／ni／が後接する場合、可能の接辞／(r)are／の re は撥音化が起こり n になる。この現象は、授受を表す「くれる」や「知る」の否定形にも起こり、／kun-ni, sin-ni／となる<sup>4</sup>。すなわち、語幹末の r を含む音節は撥音化しやすいと言える<sup>5</sup>。多くの場合、語幹末の re+否定で re が撥音化し否定の形式が／ni／であるとき (-nni) は可能の否定を表わすが、單なる動詞の否定である ra+否定「取らない」であるなら／ton-ne／であるので、／ni／は可能の否定に用いられるようである。ただし、「くれる」や「知る」には可能の否定でなくとも／ni／が用いられる<sup>6</sup>。

## 2-2-1-2. 受身

受身の表現は、語幹に {rare} を後接することによって表現される。

404E : ホンダガラ ドゴダイッテ キガッチャッテ ショーカ<sup>°</sup> ネーナイ  
      そうだから どこだいって 聞かれたって しようがないね。

「する」は、信達方言では sareru が使用されているのに対して、南会津東方言では sirareru が使用されている。

### 【信達方言】

436F : ノ カラ ハケン サレテ シノブビヨーインニ イッタ  
      × から 派遣 されて しのぶ病院に 行った。

### 【南会津東方言】

● ナニホド イダヅラ シラッチ ユギ フット ユギンナガサ  
      何ほど いたずら されて 雪 [が] 降ると 雪の中に  
  
ブンノメラッチ ホシテ ヤマホド ユギ ログニンデ カゲデ  
      ぶちのめられて そして 山ほど 雪 [を] 六人で かけて  
  
ソーシテ ソンナゴド シテモ ガッコーデ ヤメラセネガッタンダガラ  
      そして そんなこと しても 学校で やめさせなかつたんだから。

テンスとも関係することはあるが、受身の場合、過去には／ta／と共に／tya／の形式があり、／-reta／の音連続が／-ttypa／になる。すなわち、{rare} の re が促音化されると共に {ta} も／tya／の形式をとる。これは受身にだけ起るのではなく、授受を表す「くれる」の完成相過去にも観察され、／kure-ta／と共に／kut-tya／の形式がある。この場合も／-reta／の音連続が／-ttypa／になる。すなわち、2つの形式の違いは意味的に異なるのではない。なお、本稿では触れていないが、可能の／-reta／にも起こるようだが、本コーパス

<sup>4</sup> 動詞の否定形に関しては、否定形を調査する際の課題としたい。

<sup>5</sup> ただし、派生語幹がある場合には動詞の語幹にまではその規制は及ばない。

<sup>6</sup> 2-2-3.否定を参照されたい。

では用例が得られなかった。

### 2-2-1-3. 使役

使役の表現は、語幹に／sase, rase／が後接することによって表現される<sup>7</sup>。ここで、2例のみしか得られなかつたが、母音語幹動詞について見てみたい。2例中2例が／rase／を使用して使役を表している。

#### 【南会津東方言】

- ソーシテ ソンナゴド シテモ ガッコーデ ヤメラセネガッタンダガラ  
そして そんなこと しても 学校で やめさせなかつたんだから。
- ソンジャガラ ヤッパ ガッコーデワ ヤメラセランニツツンダワイナー  
だから やっぱり 学校では やめさせられないって言うんだよね。

上の例は使役の／rase／に可能の接辞／rare／が後接したものである。信達方言で母音語幹動詞の例が1例も得られなかつたが、少なくとも南会津東方言では／sase／より／rase／が優勢であると言える。また、別枠で考えなければならないものとして「する」の使役が saseru あることが挙げられる。今回、その例が1例得られた。

#### 【南会津東方言】

- ヤッパ アノ イロイロ アンズゲデ ワサ サセンニワ  
やっぱり あの いろいろ 預けて 遊び [を] させるには
- ヤッパ アンブナグ ネーモン ソーユーノオ ジギ コンドモワ  
やっぱり 危なく ないもの そういうのを そのうち 子供は
- クーガラ コーヤッテ クツツア イッチモ \*\*モ ヌゲネモノ  
食べるから こうやって 口に 入れても \*\*も 抜けないもの。

### 2-2-2. テンス・アスペクト

#### 2-2-2-1. テンス

状態動詞「イル」のテンスについて見ることにする。まず日高水穂(2000)に秋田方言に関する以下のようにある。

(中略) 〈現在〉の存在を表す場合にタ形を用いるのは、東日本方言に広く見られる現象である。「エダ」は〈現在〉だけでなく〈過去〉にも用いられるが、〈過去〉であることを明確にするためには、(中略)「エテアッタ(有声化して「エデアッタ」)」(県北部・中央部)、「エタッタ(有声化して「エダッタ」)」(県南部)を用いることになる。

<sup>7</sup> /ase/の形は、子音が連続した場合、前から2つ目の子音が落ちるという規則によって導き出せるので、ここでは基底形としての表示のみを記す。以下同様である。子音語幹動詞の場合、/sase, rase/のどちらが基底であるか判断しにくいか、/rase/は誘導によるところが大きかつたため/sase/で代表しておく。

本コーパスにおける「イル」の用例では、イルが 5 例（信達：2, 南会津東：3）、イタが 11 例（信達：6, 南会津東：1）<sup>8</sup>、イタッタが 3 例（信達：2, 南会津東：1）であった（表 7）。イルは現在を含む未来を表わしており、イタッタは過去を表わしている。ここでのイタは過去を表わしており、上記のように現在を示しているものは見られなかった。イタ・イタッタが秋田方言と同じように「〈過去〉であることを明確にするために」用いられるのか、あるいは使い分けがあるのかは今後の課題である。

<イル>

502C : カニサワニ イル  
カニサワに いる。

<イタ>

87D : シタラバ ケサ オレφ ハダゲニ イダノ  
そしたら 今朝 私 [は] 畑に いたの。

<イタッタ>

443A : アダチノ ヤグバンドゴニ イダッタンダ  
アダチの 役場の所に いたんだ。

また、2-2-1-2.受身でも述べたように、過去の／ta／には／ta／と共に／tya／の形式があり、／-reta／の音連続が／-tya／になるという特徴がある。

## 2-2-2-2. アスペクト

アスペクトを表わす形式は、進行相現在で「テ（イ）ル」、進行相過去で「テ（イ）タ、ツタ」が用いられる。「ツタ」に関して、ここでは、暫定的にアスペクトとして扱い、今後詳しい分析をしたい。

<テ（イ）ル>

343C : ナンツー ソノハナシ ホダゴド ユード オゴラレッカンナイ  
なんていう その話。 そんなこと 言うと 怒られるからね。

マコ。ニ イマ イネガラ ゼーゲンチョモ ソゴラニ イダンデワ  
孫に。 今 いないから いいけれども。 そこらに いたのでは

キッコエデナ バーサマ ナニ カダッテンダ  
聞こえてね。 おばあちゃん 何 語っているんだ。

<sup>8</sup> 名詞を修飾しているもの、「イタラ」のような仮定を表すものは省いて数えた。

<テ（イ）タ>

890C：オックリゲーッチャッタ ショーメンサ ホシタラ ツキ。  
ひっくり返ってしまった 正面に。 そしたら 次

ヨメヨ ナニφ ヤッテタンダ  
読めよ 何〔を〕 やっているんだ。

<ッタ>

854D：オレワ センセニ オゴラッチャゴドφ アンダ アノナイ  
私は 先生に 怒られたこと〔が〕 あるんだ。 あのね

センセカ° ホンφ ヨンデダベ ホンφ  
先生が 本〔を〕 読んでいたでしょ。 本〔を〕

ヨンデグラバ オレφ テワスラφ シッタノヨ  
読んでいたら 私〔は〕 手遊び〔を〕 していたのよ。

### 2-2-3. 否定

否定には語幹に／ane, ana-i／<sup>9</sup>を後接させる2つの形式があるが、本コーパスでは／ane／の使用が多かった。また先述したように、可能の否定には多く／ni／が用いられる<sup>10</sup>。／ni／が使用される場合は、必ず／-rene／のreが撥音化していかなくてはならない。すなわち、「食べられない」は／tabe-rare-ne（或は tabe-rare-nai）／でなければ／tabe-ran-ni／であり、＊／tabe-rare-ni／の形式は存在しない。これはreの撥音化に伴い、neからnje[ne]<sup>11</sup>、njeからniに変化したものだと考えられる。これについては井上史雄(2003:123)に次のような記述がある。

福島県では、「～レナイ」のrが変化したときに「～ンニエ」という発音になった。たとえば「クレナイ」は「クンニエ」になった。しかし、「ニエ」というのは本来の五十音図にもないまれな発音なので、「ニ」というよくある発音に変えた。

<ネ>

529D：イマワ ナンダガ ソレワ ワガンネ ムガシダベ  
今は なんだか それは 分からない。 昔でしょ。

<ニ>

769C：ホダカ° ナ ナオ シンニ  
そんなもの なお 知らない。

<sup>9</sup> 子音語幹には／ane／、母音語幹には／ne／である。代表形は{ane}とする。

<sup>10</sup> 語幹末子音がrの一部の動詞の否定にも用いられる。

<sup>11</sup> 本稿では触っていないが、筆者が小名浜を訪ねた際にそのように発音している話者もいた。さらに、井上史雄(2003)によると、[nje]は福島市付近で古くから使われていたとある。

なお、本稿で／ni／が使用されるのは可能の否定と一部の動詞の否定と述べたが、可能と同形の接辞を用いる受身の否定にも使用されるようである。しかし本コーパスからは用例が得られなかった。

### 3. コーパス

#### 3-1. 信達方言（一部）

1F：ハイッテンダヨ ハイッテルヨ

入ってるんだよ。入ってるよ。

2B：ンダガラ アトデ コノコエφ キーデ アー コレφ C サンノコエダ  
ながら、あとで この声〔を〕 聞いて ああ これ〔は〕 C さんの声だ

アー コレワ F サンφ シャベッタンド アー コレワ  
ああ これは F さん〔が〕 しゃべったんだ。 ああ これは

D チャンダヨッテ ワタシφ オシエッカラ アド  
D ちゃんやりって 私〔が〕 教えるから あと〔で〕。

3C：アー ゾーガイ アー スイガキリ アノ デヨーズダナイ F チャン  
ああ そうかい。 ああ スイカ切り あの 上手だね、 F ちゃん。

4F：ワタシφ ヘタダゲドモ マー<sup>1</sup>  
私〔は〕 下手だけども まあ。

5C：アノナイ ゲートボールφ ヤッテダンダゲド スイガφ  
あのね ゲートボール〔を〕 やってたんだけど、 スイカ〔が〕

クイダクテ エーッショケンメー ヤッタノ  
食べたくて 一所懸命 | ゲートボールを | やったの

アセφ カギカギ  
汗〔を〕 かきながら。

6F：ヤメル ヤメルッテネ オーサワキ° シテ ヤメチャッタ  
やめる やめるってね 大騒ぎして やめてしまった。

7C：ウン オーサワキ° シテ ヘデモ ヘッテモ ゼワ スイガφ  
うん。 大騒ぎして 入らなくても 入っても いいわ スイカ〔を〕

クー タノスミ φ アンダガラ ソーシタラ コンドワ Fサン  
食べる 楽しみ [が] あるんだから。 そうしたら 今度は Fさん  
Fサンツーヒトカ° イッショーケンメー コレ ハヂデュー ウー ナンボダ  
Fさんっていう人が 一所懸命。 これ 八十 ん一 いくつだ?

8F: サン サン  
三 三。

9C: サン? サンデ エッショケンメ ヒトンデ キッテンダ オレラ φ  
三? 三で 一所懸命 一人で 切っているんだ 私たち [が]  
クカ° ナ アド φ ミナ ワガゾー アハハーッテ ミデンノ  
食べるものを。 あと [は] みんな 若造で、 あははって 見ているの。

10F: ドーザ  
| スイカを切り終わって | どうぞ。

11E: C サンノコエバッカ ハイッチャッテンヂヤナイガ  
Cさんの声ばっかり 入ってしまっているんじやないか?

12C: ホレ ホンダ ハイ キー ホンダ オメラダ  
ほら それじやあ はい ×× それじやあ あなたたち [がしやべる番] だ。

13E: コンドφ オメ φ シャベレガ オメ φ シャベレ  
今度 [は] あなた [が] しゃべれって? あなた [が] しゃべれ。

14C: コンダ オメ φ シャベレ ナニ ホレ ログオンサ  
今度は あなた [が] しゃべれ。 なに ほら 録音に

イッチク° ンダヅーガラ  
入れて行くって言うんだがら。

15D: ハイ テフギオ モッテキマシタ アヅグナッチャッタ ハー テフギ  
はい 手拭を 持ってきました。 熱くなっちゃった もう この手拭。

16B: オー キカ° キーデッコド D チャンφ テフギ φ  
おお 気が 利いていること。 Dちゃん [が] 手拭 [を]

モッテキテクレタ  
持つて来てくれた。

17F : キカ° キーデ チャント テフギφ モッテキテクレタ  
気が 利いて ちゃんと 手拭 [を] 持ってきてくれた。

アリカ° ドナイ  
ありがとうね。

18D : コレ ゴミ ゴミ  
これ ゴミ ゴミ。

19F : ウー ゴミ コッチニ アル コレ コレ コレニ ゴミ φ  
うう ゴミ [入れは] こっちに ある。 これ これ これに ゴミ [を]

イレッカンネ  
入れるからね。

20D : ンヂヤ コレ ゴミワ オイデンカイ  
それじやあ これ ごみは 置いていくのかい？

21E : コゴノ ウエサ コレφ タダンデ アケ° トキナサイ  
ここに 上に これ [を] たたんで 上げて置きなさい。

22C : テフギφ モッテダヒトφ アノ テーφ ウヅグシガラ ホレ  
手拭 [を] 持っていた人 [が] あの 手 [が] きれいだから ほら

コノヒトニ ゴツツオシテヤリナ ヒツツ ツカンデ  
この人に ご馳走してあげなさい 一つ つかんで。

23D : ナニオ？  
なにを？

24C : スイガ  
スイカ。

25D : スイガダベ  
すかでしょ。

26C : ウーン  
うーん。

27F : ソーヨ テーφ フイテ ウン シテ R チャンニ ヒツツ  
そうよ。 手 [を] 拭いて。 うん [そう] して。 R ちゃんに 一つ

アケ<sup>。</sup> ナ キレーニ フイテダヨ コーデ ネー<sup>グ</sup> チヤント  
あげなさい。 きれいに 拭いてだよ こうで なく ちゃんと、

オッキードゴ<sup>。</sup> アケ<sup>。</sup> テ チョーダイ  
大きいところ [を] あげて ちょうどい。

28E : イチバン イチバン ンマイドゴナイ  
一番 一番 おいしいところね。

29F : ソー ソー ソー ソー ソレ イー ソレ  
そう。 そう。 そう。 そう。 それ いい それ。

30D : ンマイ マンナガノ ウマイドゴ<sup>。</sup> ドーヴ  
おいしい 真ん中の おいしいところ [を] どうぞ。

31R : アリカ<sup>。</sup> トーゴザイマス  
ありがとうございます。

32F : シオワ シオ  
塩は？ 塩。

33C : \*\*ダッテ イーンダヨ ソーユードギワ ピヤット オイデ ハイ  
\*\*だって いいんだよ。 そういう時は ピヤッと 置いて はい

ドーヴッテ  
どうぞって。

34D : ハイ シオモ アリマスカラ  
はい 塩も ありますから。

35R : アー ハイ アー チャー<sup>。</sup>  
ああ はい ああ じゃあ。

36D : シオワ ターダ コレ コイツツア モッテキタンダケレド ターダ  
塩は ただ これ これに [入れて] 持ってきたなんだけれど ただ。

ホンヂャ テーデ コー フッテ ヤッテクダサイ  
それじゃあ 手で こう ふって やってください。

37R : アー ハーイ  
ああ、はい。

38E : イーガラ ホーベンダ ツカッテクダサイ D チャン  
いいから 方弁だ。 使ってください D ちゃん。

39F : ソーヨ クダサイナンテ ユワンダッテ イーガラ ワカ<sup>。</sup> ホーノコトバデ  
そうよ くださいなんて 言わなくたって いいから 自分の方の言葉で

ヤッテミナ  
やってみなさい。

40D : テーデ トッテ ペタペタペタペタッテ ヤッテクダサイ  
手で 取って ペタペタぺたぺたって やってください。

41E : ヤッテクダサイワ ダメヨ  
やってくださいは ダメよ。

42F : ワカ<sup>。</sup> ホーノ ホラ チブンノ ヨシクラノコトバデ イマキットイタノ  
自分の方の ほら 自分の 吉倉の言葉で。 今切って置いたの

ソレゅ イタダイテガラ マダ  
それ [を] いただいてから また。

43E : アンタ コレデ アセゅ フガナイデヨ  
あんた これで 汗 [を] 拭かないでよ。

44C : ホダヨ ソレ アンナイ フイダ フイダカ<sup>。</sup> ナデ テーサ  
そうだよ。 それ あのね 拭いた 拭いたもので 手に  
  
モッテッテ \*\*。  
持つていって \*\*。

45D : ナンダイ ホイダ コレ ミナ  
何なの それじやあ これ 全部

46C : フイダカ<sup>。</sup> ナワ  
拭いたものは。

47E : タベル タベル  
食べる。 食べる。

48D : トッテ クッタラバ  
取って 食べたら。

49B : ハイ  
　　はい。

50C : スイガ φ フイダガ° ナワ オイデガラ  
　　スイカ [を] 拭いたものは 置いてから。

51F : イタダキマス  
　　いただきます。

52D : トッテ クッテクンチ トッテ クッテクンチ  
　　取って 食べてちょうだい。 取って 食べてちょうだい。

53F : R チャン ウント イーナー コレ  
　　R ちゃん すごく いいなあ これ。

54B : イー コトバ φ デダ ホラ  
　　いい 言葉 [が] 出た ほら。

55F : イー コトバ φ デタ デタ  
　　いい 言葉 [が] 出た 出た。

56B : クンチーッティウノ  
　　「くんち」っていうの。

57E : ハイ イタダキマース オシオ φ ドゴサ イッチャッタ  
　　はい いただきます。 お塩 [は] どこに 行っちゃった？

58D : アー シオ φ コッチダヨ  
　　ああ 塩 [は] こっちだよ。

59F : C サン トッテアケ° ルネー ヒックリガエシタガラ ハイ  
　　C さん 取ってあげるね。 ひっくり返したから はい。

60C : クイダクテ モッテタンダ  
　　食べたくて 持ってたんだ。

61F : アー イタダイタ C サン トッテアケ° デネー ハイ A サン コレ  
　　ああ いただいた。 C さん 取ってあげてね。 はい A さん これ。

A サンニ アケ° テヨ デ ソノツキ° アンダ アー アンダ φ  
A さんに あげてよ。 [それ] で その次 あんた。 ああ あんた [は]

マダ テー フガネガ  
まだ 手 [を] 拭かないか。

62E : ワタシワ デブンカラ トッチャッタ イヤー アマイ スイカダ  
私は 自分から 取ってしまった。 いやあ 甘い スイカだ。

63C : アー ゴツツオサン  
ああ ご馳走さん。

64D : ホントデスカ  
本当ですか？

65F : アラ C D チャンサ イチバン チッチャイネ アンタ コレ  
あら Cさん Dちゃんに。 一番 小さいね。 あんた これ

トッテ コレ トッテ ハイ イタダギマース D チャン ソレ キンネデ  
取って これ 取って。 はい いただきます。 Dちゃん それ 切らないで

ナンダイ  
なんだろう。

66D : アンマリ オレ デッカイガラ  
あんまり 私 大きいから。

67F : アラ オッキノ？ ア ソー<sup>1</sup>  
あら 大きいの？ あ そう。

68E : クイヅライガラ ソレヂヤ  
食べづらいから それじやあ。

69D : アンマリ アヅクテ クイヅライガラ  
あんまり 厚くて 食べづらいから。

70F : ア ソー アヅグシテヤンネド ワルイド オモッテ  
あ そう。 厚くしてやらないと 悪いと 思って。

71C : アヅグネーンダゾイ スイガワ  
厚くないんだよ スイカわ。

72F : イタダギマス オイシ  
いただきます。 おいしい。

73C : チッチャイ ヒトワ フタツモ クワセ  
[スイカが] 小さい 人は 二つ 食べなさい。

74R : コレ タネ♂ シタニ ステテモ イイ?  
これ タネ [は] 下に 捨てても いい?

75B : イイヨ  
いいよ。

76F : ソッチノホーサ ブンナケ<sup>。</sup> テクダサイ  
そっちのほうに 捨ててください。

77D : オイデクッカイ?  
置いてくるか?

78E : ショーカ<sup>。</sup> ネーナイ イー タネワ  
しようがないね。 いい タネは。

79F : イイ  
いい。

80C : ンマイ  
おいしい。

81E : スイガ♂ デデ ライネン イッパイ ナッカモシンニ  
スイカ [が] 出て 来年 いっぱい なるかもしれない。

82F : ソノウヂ スイカカ<sup>。</sup> デルデショ  
そのうち スイカが 出るでしょ。

83C : ンマイ  
おいしい。

84E : アーマイ  
甘い。

85F : ウン  
うん。

86C : ドッカラ キタンダン? オネーチャンワ ドッカラ キタンダン?  
どこから 来たの? おねえちゃんは。 どこから 来たの?

87D : シタラバ ケサ オレφ ハダゲニ イダノ  
そしたら 今朝 私 [は] 畑に いたの。

88F : ドッカラッテ ソッカラダヨ  
どこからって そこからだよ。

89D : ソシタラバナイ X1 サンφ キタノ アノ チョーナイカイチョーサン  
そしたらね X1 さん [が] 来たの。あの 町内会長さん。

\*\* シッパッテ  
\*\* ひばって。

90C : ネーチャンφ ドッカラ キタンダン?  
ねえちゃん [は] どこから 来たの?

91B : ワザト ワザト  
わざと わざと。

92D : ナンダッテ スイガφ ゴロゴロ ナッテンダナイッテ イウガラ \*\*  
なんだって スイカ [が] ゴロゴロ なってるんだねって 言うから \*\*

アンダ モッテッテ クーガイッテ ユッタノ  
あんた 持って行って 食べるかい?って 言ったの。

93E : クーガイヂャネーンダデ D チャン モッテカセーッテ  
食べるかいじゃないんだよ D ちゃん。持って行きなさいって

ユワネクチャ クーガイダッタラ オレφ クーゾイッテ イウヒトφ  
言わなくちゃ。 食べるかいだったら 私 [は] 食べるよって 言う人 [は]

イネーンダッテ オセダッケナ  
いないんだって 教えたでしょ。

94D : ソレワ ソーダベゲレド  
それは そうだろうけど。

95E : ソンナニ イッパイ ナッテンノ ソンナニ イッパイ  
そんなに いっぱい なっているの? そんなに いっぱい

ナッテンノガイ?  
なっているのかい?

96C : コトシワ イキカ<sup>。</sup> ゼーガラナイ モー イマワ ハーナイ キセヅ  
今年は 活きが いいからね もう 今は もうね 季節。

97E : スバラシナイ  
素晴らしいね。

98F : ナンデモネ ナンデモ  
なんでもね。 なんでも。

99C : ゼンブ チッチャクテモ デッカクテモ  
全部。 小さくとも 大きくとも。

100D : タベル?  
食べる?

101F : タベルワヨー ヨロコンデ モッテキテ モラエレバ  
食べるわよ、 喜んで。 持って来て もらえれば。

102C : モッテクンノ タイヘンダ  
持ってくるの 大変だ。

103E : ヨグ デヨージンツグッタナイ  
よく 上手に作ったね。

104F : コレ D チャンノウヂノハダゲ?  
これ D ちゃんの家の畑?

105E : ソーダッテ チブンデ ツグッタノ  
そうだって。 自分で 作ったの。

106F : アラー ソーナノ ワタシ<sup>φ</sup> マダ ヤマカ<sup>。</sup> タガラ オグッテキタンダカト  
あら そうなの 私 [は] また 山形から 送ってきたのかと  
オモッテタ  
思っていた。

107D : ヤマカ<sup>。</sup> ダガラ フタツ<sup>フ</sup> オーキーノ<sup>φ</sup> モラッタノヨ  
山形から 二つ 大きいの [を] もらったよ。

108F : ウン オグッテキタノ?  
うん 送ってきたの?

109D : オグラッテキタノ ソイヅモ アンダ  
送られてきたの それも あるんだ。

110F : コレワ D チャン♂ ツクッタノ  
これは D ちゃん [が] 作ったの。

111D : コイヅワ オライノ  
これは 私の家の。

112F : ウワー スコ。 イヂヤナイノ  
うわあ すごいじゃないの。

113E : コトシワ テンキガ。 イイカラ ヒデリダカラ スイカモ アマイヨネ  
今年は 天気が いいから 日照だから スイカも 甘いよね。

ナッタデショ ソシテナイ  
なったでしょ？ そしてね。

114B : モモモ ンマイヨナイ アマイ  
桃も うまいよね 甘い。

115F : ウン モモネ  
うん 桃ね。

116E : モモモ オイシーネー<sup>一</sup>  
桃も おいしいね。

117F : ウーン コトシワ モモモ アマイシサ  
うーん 今年は 桃も 甘いしさ。

118E : オグッタノガイ B サンラ  
送ったのかい？ B さんたち。

119B : オグッタ ハー トトイダッテ  
送った もう。 届いたって。

120F : オグッタンダ ハー オレーノデンワ♂ ドンドン キタ  
送ったんだ もう。 お礼の電話 [が] どんどん 来た。

ネ ドンドン キタ ハー  
| B に対して | ね。 ドンドン 来た もう。

121B : キノーマデニ ハー ナナ ナナケンカラ キタ ハー  
昨日までに もう 七 七件// 来た もう。

122D : コノカワ ϕ オレ ϕ モッテンカンナイ  
この皮 [は] 私 [が] 持って行くからね。

123F : ユエバ イーノニ  
言えば いいのに。

124D : コノカワ オレ ϕ モッテンカラ アヅメドイデクダサイ  
この皮 私 [が] 持って行くから 集めていおいてください。

125F : ハイ コゴニ イレドギナサイ  
はい ここに 入れておきなさい。

126E : ライネンカラ コンド タノムワ ワタシ チョーブ チョーブデ  
来年から 今度 賴むわ。 私 [が] 丈夫 丈夫で  
イダラ ドゴサ タノンデ イーガ ワガンナクテヨ  
いたら。 どこに 賴んで いいか 分からなくてさ。

127F : マタ キッカラ ワタシ ϕ  
また 切るから 私 [が]。

128E : \* \*  
\* \*

129F : ケンチョノホワナイ オギナワ ダメダッテ ユッテヨゴシタカラ ンダガラ  
県庁の方はね 沖縄は ダメだって 言ってよこしたから だから  
コッチノ クニミノホーノ  
こっちの 国見の方の

130B : トーモロコシ ϕ オグッタノガイ  
とうもろこし [は] 送ったのかい?

131F : デーチャンカ° オグッタミタイナノ  
おじいちゃんが 送ったみたいなの。

132B : アー ソーカイ  
ああ そうかい。

133F : ヤサイ φ オグッテキタッテ イウガラ トーモロコシ φ  
野菜 [を] 送ってきたって 言うから とうもろこし [は]

ハイッテダガッタラ ハイッテダッテ イウガラ ホンヂヤ  
入っていたかって聞いたら 入っていたって 言うから それじやあ

イイツツッテ ャンナガッタノ  
いいって言って やらなかつたの。

134B : アー ホンヂヤ ハー ヨガッタ モシ トーモロコシ φ  
ああ それじやあ もう よかつた。 もし とうもろこし [が]

ホシーンダッタラ ャオヤサンカ° クッカラナイ  
欲しいんだったら 八百屋さんが 来るからね。

135F : アー ソーガイ  
ああ そうかい。

136B : アノ イヅモ コーヤッテ リヤカー φ ヒッパテクル アノ  
あの いつも こうやって リヤカー [を] ひっぱて来る あの

ヤオヤサン  
八百屋さん。

137F : モシ キタラバ カッテミテクダサイ ゴホンガロッポンデ インダ  
もし 来たら 買ってみてください。 五本か六本で いいんだ。

チッチャイハゴサ コー イレデヤリタイ  
小さい箱に こう 入れてやりたい。

138E : アー スイマセン ドーモ ドーモ  
ああ すみません。 どうも どうも。

139F : マダ キッカラ コンド φ D チャン φ キッテクレル?  
また 切るから。 今度 [は] D ちゃん [が] 切ってくれる。

140E : ワルイワネ モッテキテモラッタリ キッテモラッタリ シテナイ  
悪いわね 持って来もらつたり 切つてもらつたり してね。

141F : イイワイ モチヌシカ° ャッテクレンド ネー?  
いいよ 持ち主が やってくれるんだ。 ね?

142D : コノハンブンワナイ ワタシゅ ケサ アヂミ シタノ  
この半分はね 私 [が] 今朝 味見 したの。

143E : ハンブン ワッテ ハンブン クッチャッタノ アンタゅ ヒトリデ  
半分 割って 半分 食べてしまったの あんた [が] 一人で。

{笑}

{笑}

ワダシ ハンブン アヂミシタッチューガラヨ  
私 [は] 半分 味見したって言うからよ。

144D : アヂミシタケレド コダニ クワンニワイ オレナイ ナンボ  
味見したけど こんなに 食べられないよ 私ね いくら

ナンダッテ  
なんだって。

145F : ヒトリデワネー ソーダヨネー ハイ ハイ  
一人ではね そうだよね。 はい。 はい。

146E : ンダ コレゅ トッテヤッカラ  
それじやあ これ [を] 取ってあげるから。

147F : オー ソレデ コノ カコ<sup>。</sup>ニ イレテ ショッテ モッテキタンダ  
おお それで この かごに 入れて 背負って 持ってきたんだ。

148E : ソー ショッテキタ  
そう 背負ってきた。

149F : ソー ソーナノ イヤイヤ  
そう そうなの。 いやいや。

150E : アレ X2サン イヅダガネ デッカイノ ショッテ キタッタベシタネ  
あれ X2さん いつだかね 大きいの 背負って 来たことあったよね。

ホシテナイ  
そしてね

151F : ソシテ キリガダゅ ダメー ナンテ ユワレデサ  
そして 切り方 [が] ダメ なんて 言われてさ。

- 152E : キリカダ φ アンダナンテ ユワッチャ  
切り方 [が] あるんだなんて 言われた。
- 153D : コレ ホンヂヤ F サンニ キッテモラウガ  
これ それじやあ F さんに 切ってもらうか。
- 154F : アラ ナーニ アンタ φ キルンダト オモッテダ アンタ φ  
あら 何 あんた [が] 切るんだと 思っていた。 あんた [が]  
キリナヨ ホラ タマニワ アナタカ° キッテクダサイ  
切りなさいよ。 ほら。 たまには あなたが 切ってください。
- 155D : ソーガイ ホンヂヤ ドースッペナ コーガ  
そうかい。 それじやあ どうしようかな こうか。
- 156F : ソーヨ モチヌシカ° キッテクレタラ  
そうよ。 持ち主が 切ってくれたら。
- 157E : アノ キリガダ φ アンダナンテ ユワナイガラ キッテクダサイ  
あの 切り方 [が] あるんだなんて 言わないから 切ってください。
- 158F : ユワナイガラ X2 サンミタイニ ソー ユワレット キラレナイカラ  
言わないから X2 さんみたいに。 そう 言われると 切れないから。
- 159B : ンダ X2 サンワ ヤガマシガッタガラナイ  
そうだ。 X2 さんは うるさかったからね。
- 160D : ドースッペナイ コレワ チット ハンパンダガンナイ  
どうしようね これは ちょっと 半端だからね。
- 161F : ヤガマシガッタンダヨ  
うるさかったんだよ。
- 162B : \*\* キッテナンネンダ スイガワ コーユニ キンダナンテナイ  
\*\* 切ってはいけないんだ スイカは こういう風に 切るんだなんてね。
- 163F : イーヨ ゾノママ キリナ  
いいよ。 そのまま 切りなさい。
- 164D : コノママ?  
このまま?

165E : ソノママ キッテ ホシテ マンナガガラ コー マダ キレバ イイノ  
そのまま 切って そして 真ん中から こう また 切れば いいの。

キッテガラ ナニ ヤンノ?  
切ってから どう するの?

166D : コー マンナガガラ キッテ  
こう 真ん中から 切って。

167F : イイカラ アンタワ オモウヨーニ キリナ  
いいから あんたは 思うように 切りなさい。

168B : アンタ φ イツモ キルヨーニ キッテナ  
あんた [が] いつも 切るように 切ってみなさい。

169F : キルヨーニ キッティーンダ アヅメニ  
切るように 切っていいんだ。 厚めに。

170D : ヒトツツ フタツツ ミツツ ヨツツ イヅヅ ムツツ ニ シ ログ  
一つ 二つ 三つ 四つ 五つ 六つ 二 四 六

ナナダ  
七だ。

171F : ナンニン イダイ ナナニンダヨ  
何人 いた? 七人だよ。

172D : ンダベ  
そうでしょ。

173B : イイガラ ナンデモ  
いいから 何でも。

174F : イイデ ダイヂョブダ  
いいよ 大丈夫だ。

175E : ナンデモ イイデ D チャン キーφ ツカワネデ キリナ  
なんでも いいよ D ちゃん。 気 [を] 使わないで 切りなさい。

176F : モッテッテクレルッテ イウガラ  
[皮を] 持って行ってくれるって 言うから。

- 177B : コヤシンスンダッテ ユウガラ  
[皮を] こやしにするんだって 言うから。
- 178F : ソーダヨネ コヤシンナンダガラネ R チャン アト ϕ イイガラ  
そうだよね。 こやしになるんだからね。 R ちゃん あと [は] いいから
- コッチノ アダラシーノ ϕ タベナ  
こっちの 新しいの [を] 食べなさい。
- 179F : ムガスワ アノ  
昔は あの
- 180D : アラ チョット アレダッタナー  
あら ちょっと、 あれだったなあ。
- 181F : イイヨ イイヨ ウスクテ チョード タベヤスイヨ  
いいよ いいよ 薄くて ちょうど 食べやすいよ。
- 182E : タベヤスイヨ  
食べやすいよ。
- 183F : タベヤスイヨ  
食べやすいよ。
- 184D : アンマリ アヅイ  
あんまり 厚い。
- 185E : タベヤスイ アラ ナンデショ一 ワタシ デューエン トッテ  
食べやすい。 あら なんでしょう 私 十円 取って
- ゴチソーンナッテ  
ご馳走になって。
- 186E : A サント B サント アレダベ ハイ C サン ハイ ドーヴ  
A さんと B さんと あれでしょ。 はい C さん はい どうぞ。
- 187C : ハイ ハイ イタダキマース  
はい はい いただきます。
- 188E : イヤイヤ ナンボデモ タベラレンネ  
いやいや いくらでも 食べられるね。

189F : B サンネ A サンダバイ ハイ B サン  
B さんね A さんでしょ。 はい B さん。

190B : ナンダベ マ  
なんでしょう まあ。

191F : D チャンφ ツクッテキテ モラッテナイ  
D ちゃん [に] 作って来て もらってね。

192B : アリカ° タヤ アリカ° タヤ D チャン アリカ° タヤ  
ありがたや ありがたや。 D ちゃん ありがたや。

193F : アリカ° タヤ アリカ° タヤ ネ D チャン イダダキマスヨ  
ありがたい ありがたい。 ね D ちゃん いただきますよ。

194E : サツキノ サツキノ スイガヨリ コレφ アマイミデダ {笑}  
さつきの さつきの スイカより これ [は] 甘いみたいだ。 {笑}

195F : D チャン D チャンφ キリガダφ デヨーヴダガラ  
D ちゃん D ちゃん [が] 切り方 [が] 上手だから

ンマインデナイ  
おいしいんじゃない？

196D : アラ ソー  
あら そう。

197E : アラ ソー  
あら そう。

198D : アラマ ソー  
あらま そう。

199E : アラマ ソーチャナイ {笑} ホーベンφ ツカイナサイ  
あらま そうじゃない。 {笑} 方弁 [を] 使いなさい。

200D : ナンダベ A サンφ ドゴサ イッタノ  
何だろう A さん [は] どこに 行ったの？

201C : テーφ アライサ イッタンデネーガ ワガンネ ワガンネ  
手 [を] 洗いに 行ったんじゃないか？ 分からない。 分からない

キガネ アー オイシ ンマイ ンマイ  
聞いてない。 ああ おいしい おいしい おいしい。

202F : D チャンφ ツグッタ スイガダドワ シラナカッタ  
D ちゃん [が] 作った スイカだとは 知らなかつた。

203D : コレφ ウエデオゲバ ナルンダデ  
これ [を] 植えておけば なるんだよ。

204F : ナンノガイ ダッテ ヤッパ コヤシφ イルヨネ  
なるのかい? だって やっぱり こやし [が] いるよね?

205E : コヤシ \*\* コドシワ トグニ ンマイデショ  
こやし \*\* 今年は 特に おいしいでしょ。

206C : アマイ  
甘い。

207E : ノドφ カワイダガラネ ンマイ  
のど [が] 渴いたからね。 おいしい。

208D : シオφ カゲット ンマイヨ  
塩 [を] かけると おいしいよ。

209F : チョード イイ チョード イガッタ  
ちょうど いい。 ちょうど よかつた。

210B : クロイ スイガモ アンノナイ  
黒い スイカも あるのね。

211E : ライネン スイガ スイガφ イッパイ ウッカモシンニ  
来年 スイカ、 スイカ [を] いっぱい 売るかも知れない。

212B : クロイ スイガモ アンダッテ ナイ  
黒い スイカも あるんだって。 ね。

213C : キーロイノモ アンノネ  
黄色いのも あるのね。

214E : キーロイ スイガワ アヂφ ミダゴドナイゲド オンナヂガイ ヤッパリ  
黄色い スイカは 味 [を] 見たことないけど 同じかい? やっぱり。

215B : オナシダ  
同じだ。

216F : オンナヂダヨ  
同じだよ。

217E : アー ソー  
ああ そう。

218D : カワ ϕ クロイカ<sup>°</sup> ンダッテ カワ ϕ クロイノモ アンダゲド スイ  
皮 [が] 黒いものだって、 皮 [が] 黒いのも あるんだけど ××

オナヂダワイ スイガワ スイガ  
同じだよ、 スイカは スイカ。

219F : ソースット D チャン ハダゲ ソートー ヒロイドゴ アンデショ  
そうすると D ちゃん 畑 [は] 相当 広い所 [が] あるんでしょ？

コノ スイガ ϕ ツグッテットゴ  
この スイカ [を] 作っている所。

220D : オライデ？  
私の家で？

221F : ウン  
うん。

222C : アララララ テーϕ アラウノ  
あらららら 手 [を] 洗うの。

223F : アラララ A サン ハイ モー ヒトツツ A サン ドーザ ソートー  
あららら、 A さん。 はい もう 一つ A さん どうぞ。 相当  
ヒロイトコデショ コノ スイガ ϕ コー デキ  
広い所でしょ？ この スイカ [が] こう ××。

224D : イヤー  
いやあ。

225F : ソーデモ ネーノ？  
そうでも ないの？

226D : サンボンキリ ウエドガネンダ サンボン コッカラ コレクレダ  
三本しか 植えておかないんだ。 三本。 ここから これくらいだ。

227F : ア ソー ナエキ<sup>。</sup> ワ サンボン マイトシ サンボン ウエテ カゾグデ  
あ そう 苗木は 三本。 每年 三本 植えて 家族で

ナンカイモ タベラレルクライ デギンデショ? ケッコウ ワタシワ  
何回も 食べられるくらい できるんでしょ? 結構。 私は

アキタニ イダドキ オッキナ ハダゲデ ソレゴソ コノクライノ ハダゲサ  
秋田に いた時 大きな 煙で それこそ このくらいの 煙に

ウエトイダノ スイカバン<sup>φ</sup> シタノ  
植えておいたの [の] スイカ番 [を] したの。

ヤマノウエサ アカ<sup>。</sup> ッテ イマ カンカ<sup>。</sup> エタラ オッカナクテ ヨグ  
山の上に あがって。 今 考えたら 恐くて よく

アソゴニ ヒトリデ ルスバン シタト オモッテ ワタシ<sup>φ</sup> ヤマノウエダヨ  
あそこに 一人で 留守番 したと 思って 私 [は]。 山の上だよ。

228C : スイカドロボ一<sup>φ</sup> アッタガラ  
スイカ泥棒 [が] あったから。

229F : スイガドロボ一<sup>φ</sup> アッカラ  
スイカ泥棒 [が] あるから。

230B : イマワ モモドロボーカ<sup>。</sup> アッカラサ ケーカイデ ミナ  
今は 桃泥棒が あるからさ、 警戒で みんな

アルイデルツツッタンナイ ヨル  
歩いているって言ったのね 夜。

231F : ウン ソーソーソー  
うん そうそうそう。

232C : ナンダッテ アヤ イチバン ンマイカ<sup>。</sup> ナ<sup>φ</sup> ナイ ナンデ  
なんだって ×× 一番 おいしいもの [を]。 ね。 なんで

アーニイ ヌスムンダベ \*\*\*  
ああいう風に 盜むんだろう。 \*\*\*

233F : ドロボースルヒトワ イーオモイ φ シナイヨ カミサマ φ  
泥棒する人は いい思い [を] しないよ。 神様 [が]

ミテンダガラ  
見てるんだから。

234B : ホダゴドシテ モーゲダーナンテ \*\*  
そんなことして 儲けたなんて \*\*

235F : モーゲダッテネ ゼッタイニ  
儲けたってね、 絶対に。

236D : ナンダベ タイヘンダゴド  
なんだろう 大変だこと。

237C : ホンヂヤ ミンナ テーφ ア テーφ アラッテ  
それじやあ みんな 手 [を] × 手 [を] 洗って。

238F : イヤー オイシカッタ D チャン ゴチソーサンネ  
いやあ おいしかった。 D ちゃん ご馳走さまね。

239D : ア スミマセン ドーモ  
あ すみません。 どうも。

240E : アライナ ドーズ ドーズ サキ アラッテクダサイ  
洗いなさい。 どうぞ、 どうぞ 先 [に] 洗ってください。

241B : アー オイシカッタ アツカッタカラ ヨゲー ンマイ  
ああ おいしかった。 暑かったから 余計 おいしい。

242F : オイシカッタヨ ヨケー ソー コーユー オイシーノ  
242F : おいしかったよ 余計。 そう こういう おいしいの。

243D : ンヂヤ コレ コレ アノ シリッパンホーダゲデモ  
それじやあ これ これ あの //のほうだけでも。

244 アレダネ A サンノ オクサンサ アー モー チョット キレーニ  
あれだね A さんの 奥さんに ああ もう ちょっと きれいに  
シテオゲバ イガッタナー シッパイシタナー  
しておけば よかつたなあ。 失敗したなあ。

245E : ワリガッタ  
悪かった。

246B : イイドゴφ ミナ クッチマッテナイ  
いいところ [は] みんな 食べてしまってね。

247D : イイドゴφ クッテ アンダ シビタφ ヤッテワ ダメダガラ  
いいところ [を] 食べて あんた // [を] あげては ダメだから。

248F : ハシッコ タベナッテ ヤラエネナイ ワル ナイ ゴメンナイ  
端っこ 食べなさいって あげられない。 ×× ね。 ごめんなさい。

アララ キカ° ツカネガッタナ ワルガッタナ  
あらら 気が 付かなかつたな。 悪かつたな。

249E : キカ° キカナイデナイ  
気が 利かなくてね。

250D : ゼーガラ ゼーガラ  
いいから いいから。

251B : ンマイドゴφ ミナ クッチマッタ モッテグド  
おいしいところ [を] みんな 食べてしまった。 持って行くって。

252F : タノムネ  
頼むね。

253B : オネカ° イナイ オネカ° イナイ  
お願いね。 お願いね。

254F : ウン イマ ユッタノ オネカ° イネ イヤイヤ シッパイシタ  
うん 今 言ったこと お願いね。 いやいや 失敗した。

256B : ウン モット シャベリナ ホラ Dチャン モット シャベリナ  
うん もっと しゃべりなさい。 ほら Dちゃん もっと しゃべりなさい。

257F : タノムッテ サッキ ユッタヤヅナイ  
頼むって さつき 言ったことね。

258E : ホ一ヶ° ンφ ダシナサイド  
方言 [を] 出しなさいって。

259B : シャベリナッテ ユッタノ  
しゃべりなさいって 言ったの。

260D : ソーガイ ワガッタ  
そうかい。 分かった。

261B : ンマガッタベ  
おいしかったでしょ。

262D : ンマイガッタ  
おいしかった。

263C : ンマイガッタベ ンメガッタツーンダ  
おいしかったでしょ。 ンメガッタって言うんだ。

264D : ンメガッタッテガ  
ンメガッタって？

265C : ンメーガッタ  
おいしかった。

266F : オモイカ<sup>。</sup> ゲナグ スイカオ イタダイテネ チョード  
思いがけなく スイカを いただいてね。 ちょうど

ヨカッタヂヤナイノ コレ<sup>φ</sup> ハインノニ ネー ワダイカ<sup>。</sup> ナイモノ  
よかったです ジやないの これ [に] 入るのに。 ねえ。 話題が ないもの。

ンデナイト  
そうでないと。

267E : ホントダネ  
本当だね。

268C : スイガ<sup>φ</sup> D チャン<sup>φ</sup> モッテキタガラ  
スイカ [を] D ちゃん [が] 持ってきたから。

269F : シー ヨガッタ ヨガッタ  
んー よかったです。 よかったです。

270E : ヨガッタ ンマガッタナイ コノ スイガ  
よかったです。 おいしかったね。 この スイカ。

271F : イイドギニ モッテキテクレテ チョード R チャンモ チョード  
いい時に 持ってきてくれて、ちょうど R ちゃんも ちょうど

ヨガッタワイ  
よかつたよ。

272E : ホントニ ミカ° ハイッタ スイガダワ コレネ タネワ クロイシネ  
本当に 実が 入った スイカだわ。 これね。 タネは 黒いしね。

アマガッタシネー  
甘かつたしね。

273B : ソーダヨナイ  
そうだよね。

274C : コレ コノカ° ナ コノ ヒニチワ アノー トーリヌゲット ナガ  
これ このものは この 日にちは あの 通り過ぎると 中が

モヤモヤ シンノ  
モヤモヤ するの。

275F : アー モヤモヤ シテクンノネ  
ああ モヤモヤ してくるのね。

276B : ソシテ スカシンナッテナイ  
そして 空かしになってね。

277E : ソシテ オイシクネーノナイ  
そして おいしくないのね。

278B : モサモサンナッテ  
モサモサになって。

279C : モサモサンナッテ イマカ° イチバン ゼードギ  
モサモサになって。 今が 一番 いい時。

280F : ヤッパリ トントンッテ ハダイテミテ トルンデショ? トルトキ  
やっぱり トントンって 叩いてみて 取るんでしょ? 取る時。

281C : ダメ ハ  
ダメ、もう。

282D : ツルナイ ツル カリダカ<sup>。</sup> ナダド ミナ カレデンダ  
蔓ね。 蔓 [が] 枯れたものだと 全部 枯れてるんだ。

ハダゲノカ<sup>。</sup> ナ  
畑のもの。

283C : ウン ダメ イマカ<sup>。</sup> キセヅ  
うん。 ダメ。 今が 季節。

284D : コレ ツルφ デデルカ<sup>。</sup> ナφ カレデンノ ハー  
これ 蔓 [が] 出ているもの [は] 枯れているの。 もう。

ソユーカ<sup>。</sup> ナφ デンダッテ ミナ カレデンダツツオイ ミダラバ  
そういうもの [は]。 出ていても みんな 枯れているんだよ。 見たら。

285C : アオイダッテ ナンダッテ イマカ<sup>。</sup> キセヅ  
青くたって なんだって 今が 季節。

286A : アー ドーモ  
ああ どうも。

287E : イヤイヤ ハラφ マンプグンナリマシタ  
いやいや お腹 [が] 満腹になりました。

288B : アラ ホントニ ハラ イッパインナッタヨ  
あら 本当に お腹 いっぱいになったよ。

289E : ハラφ ハラφ スイガノヨーニ ナッチャッタ  
お腹 [が] お腹 [が] スイカのように なってしまった。

290F : イヤー Rちゃん キョーネー ゲートボールφ ヤッテンノニ  
いやあ Rちゃん 今日ね ゲートボール [を] やっているのに  
  
スイガφ キテルモンダガラ モー ヤメヨー ヤメヨーッティッテ  
スイカ [が] 来ているものだから もう やめよう やめようって言って  
  
ミシナサ  
みんなさ。

291B : スイガφ タベッカラ  
スイカ [を] 食べるから。

292F : スイカ ϕ タベタクテ ハー モー コレデ  
スイカ [が] 食べたくて もう。 もう これで

オワリマショーッテノ ϕ ダメッテ モーイッカイ ヤッタノ  
終わりましょうって言うの [を] ダメって もう一回 やったの。

293C : ホシテ アデ アデルカ。 ナ ϕ アデネンダ ハー  
そして ×× あてるもの [も] あてないんだ。 もう。

カンケー ネーノ ハー ハヤグ シマッテ スイガクイ  
関係 ないの。 もう。 早く しまって スイカ食べ。

294E : スイガクイナイ スイガノキーバッカシテ  
スイカ食べね。 スイカの気ばっかりして。

295D : キーバッカリシテガイ  
気ばっかりしてかい？

296C : ホンテ コッチ ϕ ダレモ コナカッタベシタ ミンナ アッチ ϕ  
そして こっち [に] 誰も 来なかつたでしょ。 みんな あっち [に]

トヅケ。 ギ  
突撃。

297E : ユカイデスナイ スイガオ ゴチソーニ ナッテ ワラッテネ  
愉快ですね。 スイカを ご馳走に なつて 笑つてね。

298F : シアワセ  
幸せ。

299E : ンダガラ X2 サンミデナヒト ϕ サッサド カエッテッゴド ネーンダ  
だから X2 さんみたいな人 [は] さっさと 帰つてること ないんだ

アレ ナイ  
あれ。 ね。

300E : カエッテッカラ ンダ コンドガラ X2 サン ϕ  
帰つてゐるんだから。 そうだ。 今度から X2 さん [が]

モッテキタドギ ϕ D チャン カエッペ  
持つてきたとき [は] D ちゃん 帰ろう。

301E : オラ φ インネ オ φ インネーッテ イウベ  
私 [は] いらない 私 [は] いらないって 言おう。

302C : コッヂニ アノ アマッテンダゲド ウヂワ  
こっちに あの 余ってるんだけど 団扇。

303E : アイ ドーモ スミマセン  
はい どうも すみません。

304C : カシテクンチ  
貸してください。

305E : ドーヴ ツカッテクンチ  
どうぞ 使ってください。

306C : アンダワ ドゴノヒト?  
あんたは どこの人?

307F : ナンダロー  
何だろう。

308E : ナンダベ マ  
何だろう まあ。

309F : シラナイノ? アラマー  
知らないの? あらまあ。

310B : ドゴノヒトダガ シンニノ  
どこの人だか 知らないの。

311D : ドゴノヒト  
どこの人?

312D : コマッタネー センセーニ ニテルヂャナイノ ゲートボールニ クル  
困ったね。 先生に 似ているじゃないの。 ゲートボールに 来る

センセーニ  
先生に。

313E : ソーダヨネ B サンニモ ニテットゴ アッペ  
そうだよね。 B さんにも 似ているところ あるじゃない。

314F : ニテルデショーニ  
似ているでしょうに。

315E : ネー キレーナ カオシテ  
ねえ きれいな 顔して。

316C : センセノムスコサン  
先生の息子さん。

317F : ムスコサン  
息子さん！？

318E : {笑} イチバン オッキーヒトガイ？  
{笑} 一番 大きい人かい？

319F : C サン ソーソーソーソー オネーチャン  
C さん そうそうそうそう おねえちゃん。

320E : ホー  
ほう。

321F : オネーチャン イヂバン オッキー オネーチャン  
おねえちゃん [は] 一番 大きい おねえちゃん。

322E : キレーナ カオシテ ニデッペシタ バーチャンニ  
きれいな 顔して 似ているじゃないの。おばあちゃんに。

323F : ニテルワヨ センセーニモ ニテルワヨ  
似ているわよ。 先生にも 似ているわよ。

324E : ニテル  
似ている。

325B : イヂバン ウエ  
一番 上。

326C : A ソー B サンチノ ムスメサンツツーゴド ワガンナガッタガラ  
あ そう。 B さんの家の 娘さんっていうこと 分からなかつたから、

ドチラサンカラ キタンデスカツツタンドンナイ  
どちらさんから 来たんですかって言ったんだよね。

327E : サイショ ハナシ ϕ シテタデショ クルッテ  
最初 話 [を] していたでしょ。 来るって。

328C : オライノカ° ナ ϕ クルツツッタンダッケガ  
私の家のもの [が] 来るって言ったんだっけか?

329B : ウン  
うん。

330E : キキノカ° シタンダ スミマセン ドーモ  
聞き逃したんだ。 すみません。 どうも。

331C : イヤ ミミ ϕ ツンポンナッタガ キッコエネガッタ  
いや 耳 [が] つんぽになったか 聞こえなかつた。

332F : カネザワベンデ オハナシ シテクダサイ  
カネザワ弁で お話 してください。

333B : アンダイノマコ° ダッテ イヂバン オッキーノワ ハー<sup>一</sup>  
あんたの家の孫だって 一番 大きいのは もう?

334F : ニヂューログ  
二十六。

335B : ニヂューログ? ンダ オッキーンダ  
二十六? それじゃ 大きいんだ。

336C : ニダクレガ コッチノヒト ϕ ワガイ  
二つぐらい こっちの人 [が] 若い。

337E : ワガイ コッチノヒトワネ  
若い。 こっちの人はね。

338F : マダ ワガイ ダイカ° クセーダモンネ  
まだ 若い。 大学生だもんね。

339C : アー ダイカ° クセー<sup>一</sup>  
ああ 大学生。

340F : ダイカ° クセーダガラ コーユー ケンキュー シテルワゲダヨ  
大学生だから こういう 研究 しているわけだよ。

341C : オライデワ アノナイ ダイカ。グサ カネ ネー カネツツーガ  
私の家では あのね 大学に お金 ない お金っていうか

ゼニツツーガ ネーガラ アケ。ランニガッタ  
錢っていうか ないから あげられなかつた。

342E : アダマワ ウント ヨガッタンダゲンチョナイ  
頭は とても よかつたんだけどね。

343C : アダマワ ドーデモ ゼーノ トッテモデネグ ドーデモ ゼーノ  
頭は どうでも いいの。 とってもでなく どうでも いいの。

ナシツー ソノハナシ ホダゴド イウド オゴラレッカンナイ マコ。ニ  
なんていう その話。 そんなこと 言うと 怒られるからね。 孫に。

イマ イネガラ ゼーゲンチョモ ソゴラニ イダンデワ キッコエデナ  
今 いないから いいけれども。 そこらに いたんでは 聞こえてな。

バーサマ ナニ カダッテンダ  
おばあちゃん 何 語ってるんだ。

344F : イナイガラネ  
いないからね。

345C : ンダ  
そうだ。

(中略)

379E : ソーダヨ トラッテンノ ダガラ オシャベリシテ  
そうだよ。 取れてるの。 だから おしゃべりして。

380D : ンヂャ ャッテミッカ オレφ  
それじゃあ やってみるか。 私 [が]。

381E : エ?  
え?

382D : オモシーゴドφ ユッテミッカ  
おもしろいこと [を] 言ってみるか。

383E : ウン ユッテミテ  
うん 言ってみて。

384D : ホンヂャガラ イマ カンケ<sup>。</sup> ッテンノヨ カンカ<sup>。</sup> エデンノヨ  
それだから 今 考えているのよ。 考えているのよ。

385E : カンカ<sup>。</sup> エナクタッテ イイ  
考えなくたって いい。

386D : コナイダ コナイダ アノ コナイダ コナイダ アノ バスデ クットギ  
こないだ こないだ あの こないだ こないだ あの バスで 来る時

ワタシ<sup>φ</sup> アノ アンダ<sup>φ</sup> アンダ<sup>φ</sup> ドゴマデ  
私 [は] あの あんた [は] あんた [は] どこまで

イク<sup>。</sup> ンダイツツーガラ イヅモ ドゴマデ イク<sup>。</sup> ンダイツツーガラ  
行くんだって言うから いつも どこまで 行くんだって言うから

イヂバン ブットマリマデ イク<sup>。</sup> ッテ オレ<sup>φ</sup> ユッタノ  
一番 ブットマリまで 行くって 私 [は] 言ったの。

387E : ウン ブットマリ  
うん ブットマリ。

388D : ブットマリ  
ブットマリ。

389E : ハイ ハイ  
はい。 はい。

390D : タラ ウンテンシュサマカ<sup>。</sup> ナイ トデモ ブットマリッテ  
[そし] たら 運転手さんがね とても ブットマリって  
ナンダイツテイウンダ ドゴダイツテ イウンダ ブットマリッテ  
なんだって言うんだ。 どこだいって 言うんだ。 ブットマリって。

391E : ウン ソーユー テーリューチョワ ネーガラナイ  
うん。 そういう 停留所は ないからね。

392D : ンヂャガラ イヂバン ブットマリッテ ソノ フルテンヂンノドゴナノ  
だから 一番 ブットマリって その フルテンヂンのところなの。

393E : ソーソーソー  
そうそうそう。

394D : ンダベ  
でしょ。

395E : ソー ワカル  
そう 分かる。

396D : シタラ アラ ソーナンテナイ ウンテンシュサン ϕ  
[そ] したら あら そうなんてね 運転手さん [が]。

397F : ワラッテダデショ  
笑っていたでしょ。

398D : ウン タマケ° デンダ  
うん。 ビックリしているんだ。

399F : ブットマリナンテ ユエバネ ナンノゴドダガネ  
ブットマリなんて 言えばね 何のことだかね。

400D : ブットマリナンツッタガラネ ドゴダガ ワガンネベ ムガシワ  
ブットマリなんて言ったからね。 どこだか分かんないでしょ。 昔は

ブットマリダノ ナンダノッテ ユッタモンダ ナイ ソーナ  
ブットマリだの なんだのって 言ったもんだ。 ね？ そうなの。

401F : ブットマリデワ ウンテンシュサン ビックリスルワネ テーリューチョニ  
ブットマリでは 運転手さん ビックリするわね。 停留所に

ブットマリッテ イウドゴϕ ナイシナード オモッテネー  
ブットマリって いう所 [は] ないしなあと 思ってね。

402E : ホダヨナイ  
そうだよね。

403D : ホダベ  
そうでしょ。

404E : ホンダガラ ドゴダイッテ キガッチャッテ ショーカ° ネーナイ  
そうだから どこだいって 聞かれたって しょうがないね。

405D : イヤ ムガシワ ブットマリダノ ナンダノッテ ユッタモンダガソナイ  
いや 昔は ブットマリだの なんだのって 言ったもんだからね。

406F : D チャン ソレデ ヒトツ オボエタワヨ  
Dちゃん それで 一つ 覚えたわよ。

407E : アンダ φ ヒトリダッタンダベ  
あんた [が] 一人だったんでしょ？

408D : ダレモ イネーンダ ホンヂャガラ  
誰も いないんだ。 それだから。

409F : シダガラ ドゴマデダイツテ キータンデショ？  
だから どこまでだいって 聞いたんでしょ？

410D : アノ ソゴノナイ  
あの そこのね。

(中略)

457C : アレ オネーチャン φ キョーワ オヤスミ？  
あれ おねえちゃん [は] 今日は お休み？

458F : ナツヤスミナノヨ  
夏休みなのよ。

459B : ナツヤスミデスヨ  
夏休みですよ。

460C : アー ナツヤスミ アー ソーカ ダイカ° グセー  
ああ 夏休み。 ああ そうか。 大学生。

461F : ダイカ° クセーデスヨ  
大学生ですよ。

462E : ウッカリ キカシニナイ ワカ° イニ セート φ イナイトナイ  
うっかり 聞けないね。 自分の家に 生徒 [が] いないとね。

ソーユーワケダ  
そういうわけだ。

463D : ナヅヤスミダベ ハー  
夏休みでしょ。 もう。

464C : キョーワ キンヨーダー {笑} ナイ ダイカ<sup>°</sup> クセーϕ ナヅヤスミダ  
今日は 金曜だ {笑} ね。 大学生 [は] 夏休みだ。

ホーテ イッパンノアレモ カイシャサ ツトメテルヒトモナイ ナヅヤスミサ  
そして 一般のあれも、 会社に 勤めている人もね 夏休みに

ハイッテルヒトϕ インダガラ ウカウカ ダマッテダホーϕ イインダ  
入っている人 [が] いるんだから うかうか 黙っていた方 [が] いいんだ。

465F : イインダヨ ソーヤッテ キーデ  
いいんだよ。 そうやって 聞いて。

466B : イインダヨ ナヅヤスミダガラ  
いいんだよ。 夏休みだから。

467C : ナヅヤスミダ  
夏休みだ。

468F : ナヅヤスミダガラ コーユー ケンキューϕ シテルワケ  
夏休みだから こういう 研究 [を] しているわけ。

469B : コンドワ ナイ アノ アギンナット サムグナッテクット コンドワ  
今度は ねあの 秋になると 寒くなってくると 今度は

ロンブンデ カガナッカナンネガラ ソーユーノオナイ  
論文で 書かなければならぬから、 そういうのをね、

ソヅギヨーロンブンニ ダサナクチャナンガラナイ コーユーノϕ  
卒業論文に 出さなければならぬからね。 こういうの [を]

セーリシテナイ  
整理してね。

470C : ドッカヌイデ ドッカイレデ ドッカドナイ ンマーグ ヤッテナイ  
どこか抜いて どこか入れて どこかとね うまく やってね。

{笑} アンダワ アダマϕ イーガラ ンマーグ  
{笑} あなたは 頭 [が] いいから うまく。

471B : アンダ ϕ ソーユーノ ϕ ンマーグ ツヅッテクダサイ  
あなた [は] そういうの [を] うまく 練ってください。

シャベリガダ ϕ ンマーグ ツヅッテ シャベッテモラウド  
しゃべり方 [を] うまく 練って しゃべってもらうと。

472C : ンマーグ ツヅッテ シャベンノワナイ カネザワニ カニサワ アノ  
うまく 練って しゃべるのはね、 金沢に カニサワ あの

カニ ϕ イダッタノ カニ カニナイ ヌマモ アッタノ ソレカ°  
カニ [が] いたの。 カニ。 カニね。 沼も あったの。 それが

ブグワッチ カニカ° ニケ° デキタノ ホシテ ント タイク° ロ  
//されて カニが 逃げてきたの。 そして、 ええと、 //

クロオヂサ キタノ クロオヂサ キタラバ ニケ° デ クルウヂ  
クロオチに 来たの。 クロオチに 来たら、 逃げて くるうち、

クロチ ϕ タマッタノ ンダガラ クロオチ クロオチンナッタノ  
黒血 [が] たまつたの。 だから クロオチ クロオチになったの。

473F : トチノナマエカ° ソーナッタノ?  
土地の名前が そうなつたの?

474C : トチノナマエカ° クロオヂ クロヂ タマッテナイ ホシテ  
土地の名前が クロオチ。 黒血 [が] たまつたね。 そして

ヅーット キタラ アノ アノ サワ ϕ タガガッタガラ  
ずっと 来たら、あの、あの、沢 [が] 高かつたから

ホンタラ アシ ϕ オッキヨッチャノ ンダラ アシオダト  
そしたら 足 [が] 折れてしまったの。 そしたら アシオダと

ナッタノ アシ ϕ オ オレダガラ アシオダ  
なつたの。 足 [が] × 折れたから アシオダ。

ソレ ソレオ ツヅーット イッタベ ホーシタッケカ° アシ ϕ  
それ それを ずっと 行つたでしょ そしたら 足 [が]

オッキヨッチャガラ チー ϕ イッパイ デダガラ アガボリンナッチャッタノ  
折れたから 血 [が] いっぱい 出たから 赤堀になつてしまつたの。

ホリノヨーニ チカ<sup>。</sup> デダガラ ホンヂ アガボリ チメー<sup>。</sup> アンダ  
堀のように 血が 出たから、 それで アカボリ。 地名 [が] あるんだ。

ソーユー アガボリッテイウ  
そういう アカボリっていう。

475F : ウン アルヨ  
うん あるよ。

476C : ホシテ グーット イッタッケ コンド アノ ホリキ<sup>。</sup> リ ホリキ<sup>。</sup> リッテ  
そして ずっと 行ったら 今度 あの ホリギリ ホリギリって

ハ一 ホレ イヂョー ソッチャ イカ<sup>。</sup> ンニヨーニ ナッチャッタノ  
もう それ 以上 そっちに 行けないように なってしまったの。

ナイ ホレガラ ショーネガラ コンド カーメーサ  
ね。 それから しようがないから 今度 川前に

キタノ カーノマエサナイ ホシテ カーノマエガラ ニケ<sup>。</sup> デッタ  
来たの。 川の前にね。 そして 川の前から 逃げていった。

ニケ<sup>。</sup> デッタンダガ カーノマエデ シンダンダガ シンニゲンチモ  
逃げていったんだか 川の前で 死んだんだか 知らないけれども

ホンダガラ カーマエッテモ アンノ ホンダガラ カナザワニダゾイ  
それだから 川前っても あるの。 それだから カナザワにだよ。

ナイ オラホワ カミクミカ<sup>。</sup> ホレダベ ゾノ カニ<sup>。</sup>  
ね。 私の家の方は 上組が それでしょ。 その カニ [が]

イダドゴ ホシテ コンド クロヂサ キタラ モー  
いた所。 そして 今度 クロオチに 来たら もう

カミダケント アド アシオダサ キタラバ アシ<sup>。</sup>  
上だけど あと アシオダに 来たら、 足 [が]

オッキヨッタドゴワ シモ ホシテ アガボリサ キテ ホレ アシ<sup>。</sup>  
折れた所は、 下。 そして アカボリに 来て ほら 足 [が]

オッキヨッチャガラ チー<sup>。</sup> ナカ<sup>。</sup> ッチャドゴワ アガボリデ シモ  
折れたから 血 [が] 流れた所は アカボリで 下。

デ アッチャ イッテ カーメーサ イッテ カ カーメーッテ  
[それ] で あっちに 行って 川前に 行って × 川前って

ホヂヤガラ ウント シタダガンナイ ウントナイ ウント シタデ アド  
それだから すごく 下だからね。 すごくね。 すごく 下で あと

アブクマカ。ワダガラ ニー ニサンケ<sup>。</sup>ン アルタケ  
阿武隈川だから。 二、三軒 あるだけ。

477B : カーマエッティウノワ ソノ カワッティイウ イミナイ? カッティイウノ  
カーマエっていうのは その 川っていう 意味ね? カっていうのは

カワッティイウ イミダベ  
川っていう 意味でしょ?

478C : ホダ  
そうだ。

479B : ウン カワマエッティウ  
うん 川前っていう。

480C : カワマエ ウン  
川前 うん。

481B : カーマエッティウンダナイ ソレワ  
カーマエって言うんだね。 それは。

482C : ニー カー カワマエ  
ンー カー カワマエ。

483B : リヤグシテナイ ケヅッチャッテ ハー  
略してね。 削ってしまって。 もう。

484C : カーメー  
カーメー。

485B : カーマエッティウ  
カーマエって言う。

486C : カーメー カーメーッテッテッケント カワマエ  
カーメー カーメーって言っているけれど 川前。

487B : カワマエナイ アブクマカワマエダ  
川前ね。 阿武隈川前だ。

488C : ウン アブクマカワ カネザワサ ソーユー アレ デンセヅφ  
うん。 阿武隈川。 カネザワに そういう あれ 伝説 [が]

アンダヨ ンダガラ オレラワナイ マダ ワガイガラ  
あるんだよ。 だから 私たちはね まだ 若いから

ハツツークレナンダゲド ナイ ソノウエノウエノ \*\*\*ニ キゲバ  
八十くらいなんだけど ね その上の上の、 \*\*\*に 聞けば

ヨゲーマデニ ワガンダゲドモ ソノウエノウエノウエノッティヤ  
もっと余計に 分かるんだけど その上の上の上のって言つたら

ヒヤクサイクレノヒトφ イネーガラ イナイシ  
百歳くらいの人 [は] いないから。 いないし

489B : イデモ ワスッチッカモシンニシ  
いても 忘れているかもしれない。

490C : モノカ° ダリ シネガラ ナイ ホント アドワ オララノシタダシ  
物語 しないから ね。 本当。 あとは 私たちの下だし

アドワ ワスッチンナ ハー  
あとは 忘れているな。 もう。

491B : ウン ワスレデル  
うん 忘れている。

492C : ナンダッペナンテ イウナイ ン?オレφ ナニナンテ オレφ  
何だろうなんて 言うね。 ん?私 [は] 何なんて 私 [は]

ナンツッタノ?ナンテ サンカイクライ オンナシコドφ ユワネード  
何て言ったの?なんて 三回くらい 同じこと [を] 言わないと、

ワガンネヨーナヒトデワ ワガンネベ ンダガラ ホーユー  
分からぬような人では 分からないでしょ。 だから そういう

アレモ アルツツッタノ  
あれも あるって言ったの。

493F : ソーガイ カニ カニカ<sup>°</sup>  
そうかい カニ カニが。

494B : カニカ<sup>°</sup> ダト  
カニがだって。

495C : ンダガラ カニサワッテアンダ  
だから カニサワってあるんだ。

496F : イヂバンウエノホーワ カニサワ  
一番上のほうは カニサワ。

497B : カニサワ  
カニサワ。

498C : ウン カニサワッテ アレ X8 サン ゲートボールサ キテル  
うん カニサワって あれ X8 さん ゲートボールに 来ている  
X8 サンッテ ゲートボールサ ダイハヅデ キテッペ  
X8 さんって ゲートボールに ダイハツで 来ているでしょ。

499A : チョット トシトッタヒト  
ちょっと 年取った人。

500C : トシトッタヒト ハッチューナンボノヒト  
年取った人 八十いくつの人。

501F : アー アノヒトワ カニサワ  
ああ あの人は カニサワ。

502C : カニサワニ イル  
カニサワに いる。

503F : ソッカラ ハヂマッテル  
そこから 始まっている。

504C : ソッカラ ハヂマッテクンノ アレノ シャデカ<sup>°</sup> オレド  
そこから 始まってるの。 あれの 弟が 私と  
ドーキューセーナノガ シンチャッタ フタコ<sup>°</sup> ダッタケンチョ  
同級生なのか? 死んでしまった。 双子だったけれど。

ヒトリワ イギデッケント ホッカラ グーット キテンダ  
一人は 生きているけど。 そこから ずっと 来ているんだ。

ヅヅヅーット アレ タガイノ  
ずずずっと。 あれ 高いの。

505F : カニサワガラ ハヂマッテ  
カニサワから 始まって。

506C : ハヂマッテ クボサ ヘーッチャッテ デ クボノ\*\*ガラ デデ  
始まって、 窠に 入ってしまって [それ] で 窠の\*\*から 出て

テーコ。 ロヂサ イッテ クロチφ タマッテ アシオダサ イッテ アシφ  
////////に 行って 黒血 [が] たまつて アシオダに 行って 足 [が]

オッキヨッテ アガボリサ チーφ ナカ。 ッチ  
折れて アカボリに 血 [が] 流れて。

507B : アガボリサ イッテ  
アカボリに 行って。

508C : アガボリサ イッテ ホンヂャガラ アガボリナノ アガワ アレノ  
アカボリに 行って それだから アカホリなの。 アカは あれの

シロアガノ アガナンダゲント アド ホリ ホリワ ホー ホーレナイ  
白赤の 赤なんだけど あと ホリ ホリは ×× それね。

ホーユー アノ デンセヅモ アリマスツーゴドφ  
そういう あの 伝説も ありますっていうこと [を]

キーダティウタゲ ハッキリ ワガンネゲド  
聞いたっていうだけ。 はっきり 分からないけど。

509F : ヨシクラノホーニワ ソーユー チメーノアレφ ナイカイ  
ヨシクラの方には そういう 地名のあれ [は] ないのかい?

デンセヅφ ナイノ  
伝説 [は] ないの?

510C : ブットマリガ  
ブットマリか?

511F : ブットマリシカ ワガンネガ ブットマリシカ ナイガイ  
ブットマリしか 分かんないか。 ブットマリしか ないかい?

512D : ブットマリキリナー  
ブットマリしかなあ。

513E : ブットマリキリ  
ブットマリしか。

514B : ブットマリキリ ダッテ ヨシクラノホー アソゴ ヨシクラノホーフ  
ブットマリしか。 だって ヨシクラの方は あそこ ヨシクラの方 [は]

ムカシノ キュードー ムガシノ キュードーダヨ  
昔の 旧道 昔の 旧道だよ。

515C : ウン  
うん。

516B : アソゴフ ヴーット トーッティク<sup>。</sup> ド ホスツト アソゴニ  
あそこ [を] ずっと 通っていくと そうすると あそこに  
トリアケ<sup>。</sup> ッティウドゴフ アッペシタ  
トリアゲっていうところ [が] あるでしょ。

517D : トリアケ<sup>。</sup> アルヨ  
トリアゲ あるよ。

518B : アッパイ アノ トリアケ<sup>。</sup> ダッテ ムガシワ ナニカ ユワレカ<sup>。</sup>  
あるでしょ。 あの トリアゲだって 昔は 何か 謂れが  
アンデショツツーノ アソゴワ アノ ナンティウ ムゴーガラ ヴーット  
あるんでしょって言うの。 あそこは あの なんていいう 向こうから ずっと  
キテモ コッチカラ イッテモ イチバン タガイドゴロデ  
来ても こっちから 行っても 一番 高いところで

ヤマノコンモリシタナガニ アル アレデナイ  
山のこんもりした中に ある あれでね、

ブッソーナドゴダッタンダヨナイ ンダガラ アソゴントゴニ ヒソンデ  
物騒なところだったんだよね。 だから あそこのところに 潜んで

イデデ トリアケ<sup>。</sup> ダンダベ タビビトノ サイフオ  
いて 取り上げたんじょ。 旅人の 財布を。

519F : タビビトノ  
旅人の。

520B : ンダガラ トリアケ<sup>。</sup> ッティウ チメー<sup>。</sup> ツイデンダヨ  
だから トリアゲっていう 地名が 付いているんだよ。

521F : シラナイノ?  
知らないの?

522B : シラネーノガイ?  
知らないのかい?

523D : ワガンネナ オレ<sup>。</sup> ヨック アヅクラ アダリガラ アノ ヒーカ<sup>。</sup>  
分からないな。 私 [は] よく。 あそこの 辺りから あの 火が  
デンダド ヒー<sup>。</sup> ヒー<sup>。</sup> プカブカッテ ヨル  
出るんだって。 火 [が] 火 [が] プカブカって 夜。

524E : ヨル デンノ  
夜 出るの?

525D : ウン ヒ ヒノタマ デルッティウ ハナシダ  
うん 火 火の玉が 出るっていう 話だ。

526E : タマカ<sup>。</sup>  
玉が。

527B : イマ?  
今?

528E : イマモ?  
今も?

529D : イマワ ナンダガ ソレワ ワガンネ ムガシダベ  
今は なんだか それは 分からない。 昔でしょ。

530E : アー ソー ムカシネ  
ああ そう。 昔ね。

531F : イマ イッタ トリアケ<sup>。</sup> ノヘンノチカグ? ソノ バショカ<sup>。</sup>  
今 言った トリアゲの辺りの近く? その 場所が。

532D : ウン  
うん。

533B : ソーユーノ ϕ アルンダデ ホラ ケッキョグ アソゴノ オニババト  
そういうの [が] あるんだよ ほら。 結局 あそこの 鬼婆と  
オンナシゴドデネ ブッソーナ ドゴダッタンダ ウヂワ ナイベシ  
同じことでね。 物騒な ところだったんだ。 家は ないし。

534D : ウヂ ϕ イッケン アルノヨ  
家 [は] 一軒 あるよ。

535B : イッケンダゲ アルンダ  
一軒だけ あるんだ。

536D : アンナイ アレンナッテガラ デギダンダゲレド  
あるね。 あれになってから できたんだけど。

537B : ソー ンダガラ アソゴ ϕ トリアケ<sup>。</sup> ッティウンダ  
そう だから あそこ [は] トリアゲっていうんだ。

538D : トリアケ<sup>。</sup> ナンダ  
トリアゲなんだ。

539B : タビビトカ<sup>。</sup> アソゴ ϕ ミンナ コー アルグノニナイ  
旅人が あそこ [を] みんな こう 歩くのにね。

540D : アルグ アルグノニ アッチサ イク<sup>。</sup> ド ニホンヤナキ<sup>。</sup> アド コッチャ  
歩く 歩くのに あっちに 行くと 二本柳。 あと こっちに

クット アレ  
来ると あれ。

541C : \*\* ヤマミヂ ϕ オレ ϕ アルッタ オライノオッカヤン ϕ  
\*\* 山道 [を] 私 [は] 歩いた。 私の家のお母さん [は]

ヤマノウエデ ウマレダガラ オッカヤント イッショニ アルッタ  
山の上で 生まれたから お母さんと一緒に 歩いた。

542D : アヅゴφ アルッタノ  
あそこ [を] 歩いたの?

543C : ウン タダ ゼニφ ネーガラ \*\* トリアケ° サ アワネガッタ  
うん ただ お金 [が] ないから // トリアゲに あわなかつた。

544D : アー ソーガ  
ああ そうか。

545C : アノナイ ソノコロワ ネーガラ イーゲント オラホノヒトモ  
あのね その頃は ないから いいけど 私の家の人も

トリアケ° サ イッテンノ トリアケ° ガラモ オラホサ キテンノ  
トリアゲに 行っているの。 トリアゲからも 私の家に 来ているの。

ヤマノエリサ  
山の襟に。

546D : アー オヨメサンニ?  
ああ お嫁さんに?

547C : ホダ ヤマノエリサ オライノオッカヤン ヤマノエリガラ キタノ  
そうだ。 山の襟に 私の家のお母さん [は] 山の襟から 来たの。

ダガラ オッカヤンニ クツツイデ アノ ヤマφ コエデ コー イク° ノ  
だから お母さんに くつついで あの 山 [を] 越えて、 こう 行くの。

548D : アー ソーガ  
ああ そうか。

549C : ト一イガラ イク° ナヨッテ ユワレッケドモ オッカヤーン  
遠いから 行くなよって 言われるけど お母さん

オッカヤンッテ ホーデ クツツイデ ヤマノエリマデ イッタ ウン  
お母さんって。 そして くつついで 山の襟まで 行った。 うん。

ホシテ アノ ヤマオ アソゴ ミジ ナカ° ッチンノナイ アダ  
そして あの 山を あそこ [を] 水が流れているのね。 あんなに

タガイドゴデモ  
高いところでも。

550D : ンダヨ シモカワワ ミナ アヅク ジーット タガイドゴ  
そうだよ。 下川は みんな あそこ、 ずっと 高いところ。

551C : ウン ホデ コダ タガイドゴナイ ミヅφ ゴンゴン  
うん。 そして こんなに 高いところね。 水 [が] ゴンゴン。

552D : \*\*モ ミヅφ ナカ。 ッチンダガラ ジーット  
//も 水 [が] 流れているんだから ずっと。

553C : ウヅグシガラ ミヅオ ノンデ クーカ。 ナφ ネーガラ ミヅオ  
美しいから 水を 飲んで 食べるもの [が] ないから 水を  
ノンデ イッショケンメ  
飲んで 一所懸命。

554D : アレワ ウヅグシーヨ  
あれは 美しいよ。

555C : ウヅグシ  
美しい。

556D : アノ カワノ アレンナガバッカリダガラ \*\*  
あの 川の あれの中ばっかりだから。 //

557C : ホーテ ミヅφ イッショケンメ ノンデ クーカ。 ナφ ネーガラ  
そして 水 [を] 一所懸命 飲んで、 食べるもの [が] ないから  
マダ ヤマオ ノボッテ ホシテ クダッテ クダッテ アノ イマ ダムφ  
また 山を 登って そして 下って、 下って、 あの 今 ダム [が]  
デギッチャッタゲント オッカヤンウヂサ イッタノ ホット

できてしまったけど、 お母さんの家に 行ったの。 そうすると

オッカヤンウヂノアレワ ウシロφ ドンゴン ゴンゴン ナカ。 ッチンノ  
お母さんの家のあれは 後ろ [を] ゴンゴン ゴンゴン 流れているの。

ホーユーノ ホーユーノ ソゴサ イッテ マダ ミヅφ  
そういうの そういうの そこに 行って また 水 [を]

ノンデ ンヂモ アソゴノ ウヂノ オバチャンφ ウント イイヒトデ  
飲んで。 それでも あそこの 家の おばちゃん [は] とても いい人で

ナンダ ニシャ ϕ ミヅバーリ ノンデ ハラ ϕ ヘッテンダベ  
なんだ お前 [は] 水ばっかり 飲んで お腹 [が] お減っているんでしょ。

アノ マンマ ϕ イマ ニデクレッカラ クエナンテ コダ  
あの ご飯 [を] 今 煮てあげるから 食べろなんて こんな

ヅナ ヤギメシ ϕ クレラッチ  
大きな にぎり [を] もらって。

558D : オラワナイ シンボリツツードゴ アノ ズーット コヤガラ  
私はね シンボリっていうところ あの ずっと コヤから

ズーット イク。ド シンボリ ϕ アンダワイ ソゴデ  
ずっと 行くと シンボリ [が] あるんだよ。そこで

ミヅアビ ϕ シタモンダヨ ムガシ ミヅアビ  
水浴び [を] したもんだよ。昔。 水浴び。

テー ϕ ツイデ ピチャピチャ ピチャピチャッテ  
手 [を] ついて ピチャピチャ、 ピチャピチャって。

559C : \* \*  
\* \*

560D : ホダベ ソレワ  
そうでしょ。 それは。

561F : アンダワ ソゴニ スンデダガンダベ  
あんたは そこに 住んでいたからでしょ。

562C : アンダワ ホゴニ スンデダンダガラ  
あんたは そこに 住んでいたんだから。

563D : ホダ ンチャガラ アヅゴサ イッテ アノ ミヅ トメデ  
そうだ。 だから あそこに 行って あの 水 [を] とめて

ピチャピチャ ピチャピチャッテ ミヅアビ ϕ シタモンダ  
ピチャピチャ ピチャピチャって 水浴び [を] したもんだ。

564C : アー ホンチャ トリアケ° ノ \* \*  
ああ それじやあ トリアゲの //。

565D : トリアゲ<sup>°</sup> サ イク<sup>°</sup> テマエ  
トリアゲに 行く 手前。

566C : \* \*  
//

567D : ンダベ イマワ ハー ヒログナッテッケレド  
そうでしょ。 今は もう 広くなっているけど、

ガッコーミヂンナッテンダ ハー ウン ガッコーミヂンナッテンダ ハー  
学校道になっているんだ。 もう。 うん。 学校道になっているんだ。 もう。

568C : イマワ シューカイヂョーアダリ \* \* ガッコーミヂドゴデネグ  
今は 集会所辺り [に] \* \* 学校道のところでなく

ニホンヤナキ<sup>°</sup> ノ アノ オボーサンドゴサダッテ マーッスク<sup>°</sup>  
二本柳の あの お坊さんのところにだって まっすぐ

イカ<sup>°</sup> レンダ ナイ \* \*  
行けるんだ。 ね。 \* \*

569D : ンダガラ アッチノ ヒロダノホーダノ ナンダノワ ミナ アヅグ<sup>φ</sup>  
だから あっちの ヒロダの方だの なんだのは みんな あそこ [を]

トーンダ  
通るんだ。

570C : ウン アソゴ<sup>φ</sup> トーンダ  
うん。 あそこ [を] 通るんだ。

571S : ウン ヒロ  
うん。 ××

572C : ナンデガツード ミヅハラガラ コッチャ \* \* ヨリ アッチャ  
何でかっていうと 水原から こっちは //より あっちは

\* \* イイガラ アッチャ イグノ \* \* ミヅハラガラ コー クット  
\* \* いいから あっちに 行くの \* \*. 水原から こう 来ると

ヤマネヤノホーサ イッチマウベ アッチガラ コー \* \* ゴンゴン  
ヤマネヤの方に 行ってしまうでしょ。 あっちから こう // ゴンゴン

ナカ° ッチンノナイ  
流れているのね。

573D : ホダ ウヅグシー ミヅダガラ ヤマミヂバッカリ クル ミヂダガラ  
そうだ。 美しい 水だから、 山道ばかり 来る 道だから

ウント ウヅグシーンダ  
とても 美しいんだ。

574C : ウヅグシ \*\*  
美しい \*\*。

575D : ヒヤツコクテナイ  
冷たくてね。

576C : ヒヤツコクテ  
冷たくて。

577D : コドモノコロガラ コドモノコロナンテ ハー マンマ クード ガラーリ  
子供の頃から、 子供の頃なんて もう ご飯 食べると //

ハイデ ミヅアビφ シタモンダ  
はいて 水浴び [を] したもんだ。

578C : \*\*  
\*\*

579E : ヤマアイカラ クル ミヅワナイ ツメタイガラ  
山間から 来る 水はね 冷たいから。

580C : \*\*  
\*\*

581B : \*\*  
\*\*

582C : \*\*  
\*\*

583A : \*\*  
\*\*

584C : モッタイネーナード オモウンダデ ソノ アレニナイ ミヅモ ネーノニ  
もったいないなあと 思うんだよ。 その あれにね 水も ないのに。

585B : アソコノサ ショーカ° ッコードゴノ アノ ミヅワ イー  
あそこのさ 小学校のところの あの 水は いい

ミヅナンダヨネ  
水なんだよね。

586F : ウン  
うん。

587B : ウント イー ミヅナンダヨ ウン アレ イヅモ デワヂワ  
とても いい 水なんだよ。 うん。 あれ [は] いつも じわじわ  
デワヂワッテ イッペイシタ  
じわじわって いるじゃない。

588C : ウンウン  
うんうん。

589F : ショーカ° ッコードノ プールφ アッタデショ? アレ  
小学校の プール [が] あったでしょ? あれ。

590B : アッタヨ プールモ  
あったよ。 プールも。

591F : アレ ツブシチャッタワケ  
あれ つぶしてしまったわけ。

592B : ツブシテ イマφ チューシャヂョーンナッテル  
つぶして 今 [は] 駐車場になっている。

593C : アー  
ああ。

594B : アノ イドミヅφ イマ アフレデナイ  
あの 井戸水 [が] 今 あふれてね。

595F : ナイ モッタイナイ  
ね。 もったいない。

596C : デワデワ デ デワデワ デワデワ  
じわじわ × じわじわ じわじわ。

597B : ガッコーノ コー ウラニ ナガ<sup>。</sup> ッチ  
学校の こう 裏に 流れて。

598A : ガッコーノ ウラノ イドドガラ アッコガラ ヒーッタンダ  
学校の 裏の 井戸のところから あそこから ひいていたんだ。

599C : ハー ソーカイ  
はあ そうかい。

600A : イマノ コヨーダンチンドゴダ アソッカラ コー ヒーッタンダ  
今の 雇用団地のところだ。 あそこから こう ひいていたんだ。

601C : アー ソーカイ ンダガラ ゴヂャゴヂャ ゴヂャゴヂャッテ  
ああ そうかい。 だから ゴチャゴチャ ゴチャゴチャって  
ンダ モッタイネーナイ  
それじゃあ、 もったいないね。

602B : ンダ モッタイネンダ  
そうだ。 もったいないんだ。

603C : アレ ナヂヨニガ デギネガッタノガナイ コー ペット  
あれ どうにか できなかつたのかな。 こう ペット

604A : アヅゴマヂッテ ミヅ<sup>。</sup> クンデキテ ノンダンダ  
あそこまで 行って 水 [を] 沁んできて 飲んだんだ。

605B : ミンナ クミ\*\* アッチノヒトタヂ<sup>。</sup> ミナ カゾエダンダヨ  
みんな 沁み\*\* あっちの人たち [は] みんな 数えたんだよ。

アソッカラ  
あそこから。

606C : ホンダガラ コーイニ エーキューニ ドーセ ソレ タシカ ミヅノ  
それだから こういう風に 永久に どうせ それ 確か 水の  
ミヂダベガラナイ ミヅ<sup>。</sup> トール ミヂダベガラ ソゴサ ンマグ コー  
道だろうからね。 水 [が] 通る 道だろうから、 そこに うまく こう

デギネガッタノガナト オモウンダ ナイ オララワ ミヂノワギ アー イドφ  
できなかつのかなと 思うんだ。 ね。 私たちは 道の脇 ああ 井戸 [を]

ホッテッカラ ンマグ ポンポンッテ イネゲド スヂミヂφ  
掘つてあるから うまく ポンポンって いないけど。 筋道 [が]

アンダヅーガンナイ ミヂノスヂッテネ  
あるんだっていうんだからね。 道の筋ってね。

607B : アソゴニ ホントニ アーインヤッテ デワヂワ ダシテルヨリモ  
あそこに 本当に ああいう風にやって デワヂワ 出しているよりも

アノ ポンプデモ シヅゲダラ ドーナンダベナイ  
あの ポンプでも 仕付けたら どうなんだろうね。

608E : シヅゲダラナイ  
仕付けたらね。

609C : ホント アレ ナンダッケ アレ サシテ ナニφ サスンダッケ  
本当に。 あれ 何だっけ？ あれ さして 何 [を] さすんだっけ？

610A : コゴノ ハッチョーメ ハッチョーメヂョーワ  
ここの ハッチョウメ ハッチョウメ城は、

611C : ポーリング。  
ボウーン。

612A : アツコノイドゴロφ ミヅφ アケ° ッタンダ  
あそこの井戸のところ [は] 水 [を] あげていたんだ。

613F : アケ° ッタンデショ？  
あげてあったんでしょ。

614B : ウーン ソーユー ワゲダベナイ  
うーん。 そういう わけだろうね。

615C : ポーリング° φ ャッテ ダセバナイ  
ポーリング [を] やって 出せばね。

616F : ネー デ アソゴニ ポンプφ ツケトケバネ  
ねえ。 [それ] で あそこに ポンプ [を] 付けておけばね。

617F : ゲートボール φ ヤッタトキニ ノメルワイネ  
ゲートボール [を] やったときに 飲めるよね。

618C : ウン ノメル ノメル ゲートボールモ ヨゾ φ アルグド  
うん。 飲める。 飲める。 ゲートボールも よそ [を] 歩く×

ヒトモ オボエレバ ノムヂヤナイ  
人も 覚えれば 飲むじゃない。

619B : アレ ホントニ ドーロ φ イグド グヂャグヂヤンナッテンダモノ  
あれ 本当に 道路 [に] 行くと ぐちゃぐちゃになっているんだもの。

620F : シカイギイン φ チット マワッテ ミデ アルグッテ イータグナルネー  
市会議員 [は] ちょっと 回って 見て 歩けって 言いたくなるね。

621C : ボーリング° ナイ デヨー φ ツグッカ アッダドゴ ナンニモ  
ボーリングね 場 [を] 作るか。 あんなところ 何にも

ナンネーノニナイ \*\*  
ならないのね。 \*\*

622B : アレホドナイ イイ ミヅ φ デギンダッタラ アレデモッテサ  
あれほどね いい 水 [が] できるんだったら あれでもってさ

ホレゴソ オフロデモ ヤレバ イインダヨ  
それこそ お風呂でも やれば いいんだよ。

623F : ホント  
本当。

624B : アノ ノーキョーンドゴ ムガシノ ノーキョーントゴ φ シューカイヂョ φ  
あの 農協のところ 昔の 農協のところ [に] 集会所 [を]

ツグッテ  
作って。

625C : ウン ソー ソー  
うん。 そう。 そう。

626B : ソシテ オフロオ ヤッテ  
そして お風呂を やって。

627C : ソシテ オトショリデモ ナンデモナイ ホスット フツーノヒトワ  
そして お年寄りでも なんでもね。 そうすると 普通の人は  
  
アンマリ アネー ヤッパリ トショリ ϕ オヂヤϕ ノンデ オユサ  
あんまり あねえ やっぱり 年寄り [が] お茶 [を] 飲んで、 お湯に  
  
ハイッテ ホシタラ  
入って そしたら。

628B : アヅマル バシヨ  
集まる 場所。

629C : ウン アヅマル バシヨ マツカワノ アソゴサ \*\*  
うん。 集まる 場所。 松川の あそこに \*\*。

630B : \*\* ダッタラ イーベナイ  
\*\*だったら いいだろうね。

631C : ナイ  
ね。

(中略)

707C : オラホワナイ ホントニ ムカシノゴドϕ ミンナデ シャベッタケドモ  
私の家のほうはね 本当に 昔のこと [を] みんなで しゃべったけど。  
  
アノナイ タサ ハイレバ ビルダ アー ビルワ  
あのね 田んぼに 入れば ヒルだ、 ああ ヒルは  
  
チ一ϕ スード マンマルコグナッテ \*\* オヂッチマウダノ ナイ  
血 [を] 吸うと まん丸くなつて \*\* 落ちてしまうだの、 ね。  
  
アドワ ゲコ ゲコオ ゲコϕ オッカゲデ アノ ソッコーサ  
あとは カエル カエルを カエル [を] 追いかけて あの 側溝に  
  
ゲールϕ ゲコϕ ゲコ オッカゲデ ワカ° ケヅマジイデ  
カエル [を] カエル [を] カエルを 追いかけて 自分が つまづいて  
  
ゲコアンテ トットゴデネガッタ  
カエルなんて 取るところでなかつた。

708F : ゲコッテワ カエルノゴド?  
      ゲコっていうのは カエルのこと?

709B : カエル  
      カエル。

710C : カエル  
      カエル。

711E : ゲコッテ イウノガイ  
      ゲコって 言うのかい?

712C : ゲコツツッタ オラ φ ゲゴ ホンダ ゲコゲコ ゲコゲコッテ  
      ゲコって言った 私 [は]。 ゲコ。 だって ゲコゲコ ゲコゲコって  
      ナグンダ  
      鳴くんだ。

713F : ンダガラ ゲコツツーンダ ネ  
      だから ゲコって言うんだ ね。

714C : ンダガラ ゲコ  
      だから ゲコ。

715D : ゲール ゲールッテ ユッタヨ  
      ゲール ゲールって 言ったよ。

716A : ゲールモ イウ  
      ゲールも 言う。

717D : ネ ムガシワ ゲールッテ  
      ね 昔は ゲールって。

718C : オレワ ゲコ  
      私は ゲコ。

719F : ア ソーナノ  
      ああ そうなの。

720 : ンダガラ イロイロ アンダワナイ  
      だから いろいろ あるんだよね。

721F : ソーダヨネ  
そうだよね。

722C : ゲコゲコ ゲコゲコッテ ナグガラ  
ゲコゲコ ゲコゲコって 鳴くから。

723B : ソノマヂニヨッテネ ミンナ チカ<sup>。</sup> ウガラ  
その町によってね みんな 違うから。

724F : チカ<sup>。</sup> ウンダガラ イーンダヨネ  
違うんだから いいんだよ。

725C : アド アドワ ホダルトリダベ アラー アッチノミヅワ  
あと あとは ホタル取りでしょ。 あら あっちの水は  
ニカ<sup>。</sup> イゾッテ ウソφ コイデ コッチノミヅワ アマイゾ  
苦いぞって うそ [を] ついて こっちの水は 甘いぞ  
ホ一 ホ一 ホーダルコイナンテ  
ほ ほ ホタル来いなんて。

726D : \* \*  
\* \*

727B : ヨンダモンダヨネ  
呼んだもんだよね。

728C : ナイ ヨン ヨンダノ コッチノヅミワ  
ね? ×× 呼んだの。 こっちの水は。

729B : コノヘンφ ボンボン トンデダンダゲドナイ イマワ  
この辺 [を] ボンボン 飛んでいたんだけどね。 今は

ミランニベシタ  
見られないでしょ。

730D : \* \*  
\* \*

731B : モー ナンニモ ナンニモ ホダル  
もう 何にも 何にも ホタル。

732C : ウソバリ コイデナ  
うそばっかり ついてな。

733B : ホタルトリニ ワザワザ イカ<sup>。</sup> ナクタッテネ  
ホタル取りに わざわざ 行かなくたってね。

734C : ホダルカコ<sup>。</sup> ϕ モッテンダ  
ホタル籠 [を] 持っているんだ。

735B : チョット コッチノホーサ デデクット ハー コノヘン ϕ ポーポーッテ  
ちょっと こっちのほうに 出てくると もう この辺 [を] ポーポーって

トシデダモンダゲドネ  
飛んでいたもんだけね。

736C : ホイテ アノ ホダルカコ<sup>。</sup> ϕ ホシガッタンダワ  
そして あの ホタル籠 [が] 欲しかったんだわ。

737B : ウーン ホシガッタ ホシガッタ  
うん。 欲しかった。 欲しかった。

738C : カッテモラワンニガ\*\* {笑} ホンデ シンブンカ<sup>。</sup> ミデ  
買ってもらえなかつた。 {笑} それで 新聞紙で

コー ツグッテ アナ ϕ アゲデ ホデ ホダル ϕ  
こう 作って、 穴 [を] 開けて、 それで ホタル [が]

ニケ<sup>。</sup> ランニクレダゾッテ ハリデ アゲデ ホゴサ  
逃げられないくらいだぞって 針で 開けて、 そこに

シバッテ イッチョグノ ホスット ピカーラピカラッテ  
縛って 入れておくの。 そうすると ピカラピカラって。

カコ<sup>。</sup> カ<sup>。</sup> ネーンダ  
籠が ないんだ。

739B : ムカシワネー カコ<sup>。</sup> カ<sup>。</sup> ネガッタ  
昔はね 籠が なかつた。

740C : カコ<sup>。</sup> ϕ ウッテダンダヨ アノー  
籠 [が] 売っていたんだよ あの。

741B : タガイガッタンダ  
高かったんだ。

742C : タガイ  
高い。

743D : ムガシワ ホダルノヒカリデ アノ ホンφ ヨンダッテ  
昔は ホタルの光で あの 本 [を] 読んだって  
ダンデヤッタベナイ \*\* ホダルノヒカリデ ホンφ ヨンダッテ  
誰だっただろうね。 \*\* ホタルの光で 本 [を] 読んだって。

744C : アレダベ ノク。チヒデヨデネーノガイ  
あれでしょ。野口英世でないのかい？

745E : ニノミヤキンヂローチャ \*\*  
二宮金次郎じや \*\*。

746B : ニノミヤキンヂローデスヨ  
二宮金次郎ですよ。

747C : ニノミヤキンヂローガイ  
二宮金次郎かい？

748E : ニノミヤキンヂロー  
二宮金次郎。

749F : タブン ニノミヤタベナイ  
たぶん 二宮だろうね。

750C : アー ホーガイ  
ああ そうかい。

751D : ユギノヒカリデ ホダルノヒカリデナイ  
雪の光で ホタルの光でね。

752E : ホタルノヒカリトカ ユキノアカリデネ  
ホタルの光とか 雪の明かりでね。

753F : ムカシワ ソーヤッテ ベンキョー シタンダ  
昔は そうやって 勉強 したんだ。

754C : オラワ ♪ホータルノ ヒーカーリ マドノ ユーキー  
私は ♪ホタルの 光 窓の 雪

755E : ナミダ φ コボレルヨーダナイ  
涙 [が] こぼれるようだね。

756D : カナシーゾイ  
悲しいよ。

757C : アレワ ナミダ φ コボッチャ イマナンテ ウダワネガンネ  
あれは 涙 [が] こぼれた。 今なんて 歌わないんだからね。

758B : ウダワネ  
歌わない。

759C : コーカダ コーカ アオケ° バトートシモ ナシ  
校歌だ 校歌。 仰げば尊しも なし。

760B : ンダッテ  
そうだつ。

761C : ホタルノヒカリモ ナシ  
螢の光も なし。

762B : ナイ キミカ° ヨサエ ウタワネベシタ  
ない。 君が代さえ 歌わないじゃない。

763C : キミカ° ヨワ シンニーヒトφ イッパイ  
君が代は 知らない人 [が] いっぱい。

764F : \* \* ウダワネドガッテネー  
\* \* 歌わないとかってね。

765B : ウダワナイトガ  
歌わないとか。

766D : キミカ° ヨφ ウダワネ ヒトワ シンニーヨ タシカ  
君が代 [を] 歌わない 人は 知らないよ 確か。

767C : シンニノ  
知らないの。

768D : チニオモウニナンテワナイ  
チニオモウになんてわね。

769C : ホダカ<sup>。</sup> ナ ナオ シンニ  
そんなもの なお 知らない。

770F : ナオ シラナイヨ ナオ シラナイ  
なお 知らないよ。 なお 知らない。

771E : アレワ ナオ シラナイ  
あれは なお 知らない。

772F : ナオ シラナイヨ  
なお 知らないよ。

773C : ワカ<sup>。</sup> コーソコーソナンツー ホダノ ナオ シンニンダ  
我がこそこそなんていう そんなの なお 知らないんだ。

774F : ナオ シラナイ  
なお 知らない。

775C : ホシテ  
そして

776D : \* \*  
\* \*

777F : シラナイ ナオ シラナイ  
知らない。 なお 知らない。

778C : オラモ ワスレダ ハー ナイ  
私も 忘れた もう ね。

779E : \*\*ナイ アンショ一 サセラッチャナイ  
\*\*ね 暗唱 させられたね。

780F : ソーダヨー ウーン アレワ ホント  
そうだよ。 うん。 あれは 本当。

781E : ガッコード アンショ一 サセラッチャ  
学校で 暗唱 させられた。

782F : アンショ一 サセラレタヨ ホントニ  
暗唱 させられたよ 本当に。

783E : アンショ一 デギネガッタラ カエランニ  
暗唱 できなかつたら 帰れない。

784D : ナンダッケ? ワスレッチャッタナ ハー  
何だっけ? 忘れてしまつたな。 もう。

785A : オレワ アノ グンタイニ イッタドギ イヂバーン サギ  
俺は あの 軍隊に 行つた時 一番 最初に  
タマケ。 ダノワ アキタノヒトニ ホラ  
ビックリしたのは 秋田の人に ほら

786F : アー アキタ  
ああ 秋田。

787A : ガッコ クエッテ ユワッチャドギ  
ガッコ クエって 言われたとき。

788F : アー ガッコ クエ  
ああ ガッコ クエ。

789A : ナーニφ クエッテ ユワッチャンダガ ワガンネガッタンナーイ  
何 [を] 食べろって 言われたんだか 分からなかつたのね。

790F : ウーン ワガネガッタンナイ ガッコッテ イウガラ アッチワネ  
うん 分からなかつたのね。 ガッコって 言うから あっちはね。

791B : アー ソー ソー ツケモノ  
ああ そう。 そう。 濡物。

792A : ツケモノンドゴ ガッコッティウベシタ  
濡物のこと ガッコって言うでしょ。

793F : ガッコッテ イウノヨ アッチワ  
ガッコって 言うのよ あっちは。

794A : ガッコ ナーニφ クエ ガッコ クエッテ ユワッチャッテ  
ガッコ。 何 [を] 食べろ。 ガッコ クエって 言われたって

ナーニ φ クエ ワゲ φ ワガンネガッタ  
何 [を] 食べろ。 わけ [が] 分からなかつた。

795C : アー アキタ  
ああ 秋田。

796F : アキタノホー φ ガッコッテ イウガラ ソレガラ イマ φ  
秋田の方 [は] ガッコって 言うから。 それから 今 [は]

アレダゲドモ ウヂノ オイッコ ウチノ オイッコカ。 ネ  
あれだけど 家の 哥っ子 家の 哥っ子がね

カイヘーニ アキタデ ヒトリ ハイッタノ カイヘーニ イッタノ  
海兵に 秋田で 一人 入ったの。 海兵に 行つたの。

デ チット エラグナッタワケヨネ シタラ  
[それ] で ちょっと 偉くなったわけよね。 そしたら

カイグンダガラ ホラ フネンノッテ アルグデショ スット  
海軍だから ほら 船に乗つて 歩くでしょ？ そうすると

カンバンオ ソーチ スルワゲヨネ ホースデ バーット  
甲板を 掃除 するわけよね。 ホースで バーッと。

ソシタラ ヘータイ φ ゾラーット ナラバセデ ホース ンデナイ  
そしたら 兵隊 [を] ゾラッと 並ばせて ホース。 それでね

ホース タナゲツツタンダッテ  
ホース タナゲって言つたんだって。

797E : タナゲテ ?  
タナゲって ?

798F : タナゲ  
タナゲ。

799C : タナゲ  
タナゲ。

800E : タナケ。  
タナゲ。

801F : ワガンナイデショ？ ソシタラ ミンナ ヘータイ ϕ ポカートシテ  
分かんないでしょ？ そしたら みんな 兵隊 [が] ポカーンとして

ミデダンダッテ モー イッカイ ホース タナ {笑} ホース  
見ているんだって。 もう 一回 ホース タナ {笑} ホース

タナゲツツッタッケ マダ ポカーンッテ コノヤロラツッテ モー<sup>ト</sup>  
タナゲって言ったら また ポカーンって この野郎らって言って もう

イッカイ ホース タナゲツツッタラ コンドワ ワガッテ ホース ϕ  
一回 ホース タナゲって言ったら 今度は 分かって ホース [を]

モッタンダッテ ワガッテンデネーガッテ  
持ったんだって。 分かっているんじゃないかって

コンド バチバチッテ コレ ϕ ヤッテ  
今度 バチバチって これ [を] やって。

802F : ソレダケ ヘータイッティウノワ カイグンデモ ヘータイデモ ミンナ  
それだけ 兵隊っていうのは 海軍でも 兵隊でも みんな

ホッペダ ϕ ハダガレダンダッテ  
頬 [を] はたかれたんだって。

803C : ンダッテ ホース タナゲナンテ ユッタンデワ ワガンネーナイ  
だって ホース タナゲなんて 言ったんでは 分からないね。

804F : タナゲナンツッタッテ ワガンナイワネ ウチノオイッコワ ホントノ  
タナゲなんて言ったって 分からないわね。 家の甥っ子は 本当の

アキタベンノマルダシダッタンダガラ アダマワ サイコー ヨカッタンダゲド  
秋田弁の丸出しだったんだから。 頭は 最高 [に] 良かったんだけど。

ンダモンダガラ ホース タナゲツツッタベ サー  
そういうわけだから ホース タナゲって言ったでしょ。 さあ

ワガンナイ サンカイ  
分からぬ。 三回。

805E : タンカ° ゲッテワ ワガッケドナイ タンカ° ゲッツエバ  
タンガケっていうのは 分かるけどね。 タンガケって言えば。

806F : タンカ<sup>。</sup> ゲ アー タン  
タンガケ。 ああ タン

807C : タンカ<sup>。</sup> ゲッタラ ワガル ホース タンカ<sup>。</sup> ゲットード ワガル  
タンガケって言つたら 分かる。 ホース タンガケって言うと 分かる。

808F : タンカ<sup>。</sup> ゲッテユッタノガイ モドモド  
タンガケって言つたのかい？ 元々。

809B : ウン ウン  
うん。 うん。

810D : ムガシワ タンカ<sup>。</sup> ゲッテ ユッタモンダ  
昔は タンガケって 言つたもんだ。

811E : タンカ<sup>。</sup> ゲッテ ユッタンドヨ  
タンガケって 言つたんだよ。

812C : ホース タンカ<sup>。</sup> ゲッテ  
ホース タンガケって。

813F : アー ソーガイ ウヂノ アレワ タナゲツツッタッティウモノ  
ああ そうかい。 家の あれは タナゲって言つたっていうもの。

ワガンナイワイ  
分からぬわ。

814C : タナゲデワ ヨゲー  
タナゲでは 余計。

815B : タナゲデワ ワガンネナイ  
タナゲでは 分からぬ。

816F : ワカンナイワヨ ダレモネ  
分からぬよ。 誰もね。

817D : タンカ<sup>。</sup> ゲッテ イウンダ  
タンガケって 言うんだ。

818C : ン？ タナゲツツッタンド  
ん？ タナゲって言つたんだって。

819E : タナゲデワ ワガンナイワイ  
タナゲでは 分からないよ。

820F : ワガンナイワイ ターダ  
分からぬよ。 ただ。

821B : コノヘンワ タンカ<sup>。</sup> ゲ  
この辺は タンガケ。

822F : アー  
ああ。

823B : タンカ<sup>。</sup> ゲッテ イウワゲ  
タンガケって 言うわけ。

824C : アー アー アレサ アレ バゲヅ<sup>。</sup> タンカ<sup>。</sup> イデコナンテ  
ああ ああ あれに あれ バケツ [を] タンカイテコなんて。

825F : ソレオ タナゲーダモノ ワガンネワナイ サンカイ ユワレデ ヨーヨー<sup>。</sup>  
それを タナゲだもの 分からないわね。 三回 言われて やつと  
ワガッタツツタモン  
分かったって言ったもん。

826E : ホシテ コンド<sup>。</sup> ワガッタト オモッテ ビンタ<sup>。</sup> クラッチャ  
そして 今度 [は] 分かったって 思って ビンタ [を] くらわれた。

827F : アー ホース<sup>。</sup> モヅガッテ ュッテ モッタンダド  
ああ ホース [を] 持つかって 言って 持ったんだって。

ワガッテタンヂヤナイガッテ コンド<sup>。</sup> ビダビダト  
分かってたんじゃないって 今度 [は] ビタビタと

ヤッタツツタモノ ソンナ ハナシ<sup>。</sup> キーデ  
やつたって言ったもの。 そんな 話 [を] 聞いて

オーワライシタゲドモ ナミダ<sup>。</sup> ナカ<sup>。</sup> シナカ<sup>。</sup> ラ キータヨ  
大笑いしたけど 泣 [を] 流しながら 聞いたよ

ホントニ カワイソーナドゴモ アルシネ  
本当に かわいそなところも あるしね。

828C : ホンダガラ ン一 ナンボダイ ハダヂダベー ニヂュイヂダベ  
それだから ん一 いくつだい? 二十歳でしょ。二十一でしょ。

829F : ソーダヨ ハタチ ニューイヂニダモノ  
そうだよ。二十歳 二十一、二だもの。

830C : \* \*  
\* \*

831F : ソーソーソーソー \* \* タッテガラ  
そうそうそうそう \* \* たって言うから。

832C : ナニφ ユッテモ ハイハイ ハイハイナンダ  
何 [を] 言っても はいはい はいはいなんだ。

833F : ソースット A サンモ カイグンダ  
そうすると A さんも 海軍だ。

834A : ウ一 リクク° ン  
ん一 陸軍。

835B : リクク° ンダ  
陸軍だ。

836F : ア一 リクク° ンダネ ア一 ソーダネ  
ああ 陸軍だね。 ああ そうだね。

837D : イヤ ムガシワ ホラ ガッコー デダイニワ アノ  
いや 昔は ほら 学校 時代には あの  
タダセラッチャラ バゲヅサ ミヅφ クンデ  
立たせられたら バケツに 水 [を] 泊んで。

838B : ウン ミ モッテネ  
うん。 × | おそらく水をの意味 | 持ってね。

839F : モッテネ ローカニネ  
持ってね。廊下にね。

840D : イダモンダ ムガシワ オラφ ガッコーカ ナンネンノコロダガ  
いたもんだ。 昔は 私 [が] 学校の 何年の頃だか

シラナイケレド タダセラレチ バゲヅ ϕ カダッポサ  
知らないけど 立たせられて バケツ [を] かたっぽに

モッテ ナンチカンテ タダセラレンノナイ  
持って 何時間で 立たせられるのね。

841E : コーヤッテ モッテ モッタマンマ  
こうやって 持って 持ったまま。

842D : ソーダヨ バゲヅニ ミヅ ϕ クンダカ。ナ  
そうだよ。 バケツに 水 [を] 沢んだもの。

843E : \*\*ママ アラ マー  
\*\*まま。 あら まあ。

844D : ゾーユーゴド ϕ アッタヨ  
そういうこと [が] あったよ。

845F : ヘータイモ ソレ アッタツツタ ユチノ\*\*  
兵隊も それ あつたって言った。 ///\*\*

846D : ガッコードワ  
学校では。

847E : ガッコード  
学校で。

848F : ガッコード  
学校で。

849B : ローカニ タダセラレ\*\*  
廊下に 立たせられ\*\*。

850D : ローカニ タダセラレンダ  
廊下に 立たせられるんだ。

851C : オラモ ヘータイ\*\* アッタヨ バゲツ モッテ タダセラッチ  
私も 兵隊\*\* あつたよ。 バケツ [を] 持って 立たせられて。

ホシタラ センセ \*\*  
そしたら 先生 \*\*。

852E : ソレワ ヒトイベ  
それは ひどいじゃない。

853F : ソーユーノ ヨック ハナシφ キグネ ネ センセφ  
そういうの よく 話 [を] 聞くね。 ね。 先生 [は]

ハー ワスレテ タタセタノ ワスレテ カエッチャッタンダト  
もう 忘れて 立たせたの 忘れて 帰ってしまったんだって。

854D : オレワ センセニ オゴラッチャゴドφ アンダ アノナイ  
私は 先生に 怒られたこと [が] あるんだ。 あのね

センセカ° ホンφ ヨンデダベ ホンφ  
先生が 本 [を] 読んでいたでしょ。 本 [を]

ヨンデダラバ オレφ テワスラφ シッタノヨ  
読んでいたら 私 [は] 手遊び [を] していたのよ

コ一 センセーニ ミツカッテ X9 ッテ ユワレダノ ホシテ  
こう。 先生に 見つかって X9 って 言われたの。 そして

オレφ ビックリシチャッタノ  
私 [は] ビックリしてしまったの。

855F : ソシテ ?  
そして ?

856D : ソシテ ビックリシテ オゴラッチャノ ソーユーゴドφ アル  
そして ビックリして 怒られたの。 そういうこと [が] ある。

857F : アー ソー  
ああ そう。

858E : ソレワー アンタ セートンドギワ イロンナゴドφ アルヨー  
それは あんた 生徒の時は いろんなこと [が] あるよ。

859F : アルヨネ  
あるよね。

860D : オゴラッチョー  
おこられてよ。

861E : ワタシワ チョーク φ ブツケラッチャ コーヤッテ チョーク  
私は チョーク [を] ぶつけられた。 こうやって チョーク。

862D : X9 ッテ ユワッチャンダ  
X9 って 言われたんだ。

863F : ウン ソシテ ビックリシテ  
うん。 そして びっくりして。

864D : ムカシ X9 ダン  
昔 X9 だもの。

865B : アー アンダ φ X9 ッテ ユッタノ  
ああ あんた [は] X9 って 言ったの。

866E : ゾー X9 ダヨ  
そう X9 だよ。

867F : アー ソーナノ  
ああ そうなの。

868B : ムガシノミヨーデ φ X9  
昔の苗字 [は] X9。

869D : ウン ミガシノミヨーデ デッカノ  
うん。 昔の苗字 実家の。

870E : アレネ D チャンノ アンチャノナマエ φ コー デデッペ  
あれね D ちゃんの お兄ちゃんの名前 [が] こう 出ているでしょ。

ゲートボールノヒト X9  
ゲートボールの人。 X9。

871F : X9 ガイ アー ソーナノ  
X9 かい？ ああ そうなの。

872D : アンドギワ タマケ<sup>。</sup> ダッタナ ワタシ  
あの時は ビックリしたな 私。

873F : センセーニ ヨバレテ ビックリシチャッタ タシカニ バゲヅ φ  
先生に 呼ばれて ビックリしてしまった。 確かに バケツ [を]

モタセラレタッティウ ハナシワ キグ  
持たせられたっていう 話は 聞く。

874C : ホンφ タデデ ョンデッカラ オレワ コー シタφ  
本 [を] 立てて 読んでいるから 私は。 こう 下 [を]

ムイデ ニンキ° ヨー カギ  
向いて 人形 書き。

875D : \*\* ホンφ ミデル フリφ シテナイ  
\*\* 本 [を] 見ている ふり [を] してね。

876C : ニンキ° ヨー カギ メーネベ センセφ  
人形 書き 見えないでしょ。 先生 [は]。

877D : ホンφ ミデル フリφ シテデ コーやッテ コッチノホーデ  
本 [を] 見ている ふり [を] していく こうやって こっちの方で

テワスラダ  
手遊びだ。

888C : ホシタラ センセーガ° クルクル クルクル マワッテダノ ナイ  
そしたら 先生が クルクル クルクル 回っていたの ね。

889D : ホダベ  
そうでしょ。

890C : マワッテ ョンデダノ ホダノ シンニワイ イーッショケンメ  
回って 読んでいたの。 そんなの 知らないよ。 一所懸命

ニンキ° ヨー カギ デ オレノ ワギサ キタノ  
人形 書き。 [それ] で 私の 脇に 来たの。

オックリグーッチャッタ ショーメンサ ホシタラ ツキ°  
ひっくり返ってしまった 正面に。 そしたら 次

ヨメヨ ナニφ ヤッテタンダ \*\*  
読めよ 何 [を] やってるんだ。 \*\*。

891F : イヤー ヨグ ヤラセラレルネ  
いやあ よく やらせられるね。

892B : ヨグ ヤッタノナイ アドワ ナイ アノ ホンφ タデママ シタデ  
よく やったのね。 あとは ね、あの 本 [を] 立てたまま 下で

ショーセヅ ヨミφ シテンド  
小説 読み [を] しているんだ。

893D : ショーセヅ テワスラダン ナニφ シタモダガナイ アレ  
小説、 手遊びだもの 何 [を] したもんだかね。 あれ。

894E : ヨーク ナッテモ ヤッパリ ケッコー ミンナ ヤッタンダヨネ  
よく なっても やっぱり 結構 みんな やったんだよね。

895F : ヤッテダワイ  
やっていたよ。

896B : ショーセヅφ ョンダリシテ ホシテ \*\* ピット ナガサ イレデ \*\*  
小説 [を] 読んだりして そして \*\* ピッと 中に 入れて \*\*。

897C : アラ ヨガッタ オレワ \*\* ワカ° ノホーφ  
あら 良かった。 私は \*\* 自の方 [が]

イッショケンメーンナッテ コゴノアシテ コレデ ゲダφ  
一所懸命になって こここの足で これで 下駄 [を]

ハイデ ゾーリφ ハイデ \*\* シテ  
履いて 草履 [を] 履いて \*\* して

ホンヂャガラ ニンキ° ヨー カギφ チョージダ  
それだから 人形 書き [は] 上手だ。

センセーφ キタラ \*\* ワット ホンφ  
先生 [が] 来たら \*\* ワッと 本 [を]

カブツタッテ ワガソネワイ ハー トックニ ヨンデ キテンダ  
かぶつたって 分からないよ もう。 とっくに 読んで 来ていたんだ。

898E : ワタシモ ニンキ° ヨー カギφ シテネ ワタシワ X10 ナノ  
私も 人形 書き [を] してね 私は X10 なの

\*\* ワナイ  
\*\* はね。

899F : アー X10 サン  
ああ X10 さん。

900E : ムガシナイ X10 ツキ° ヨメー ユワレタノ ドゴφ  
昔ね X10 次 読め 言われたの。 どこ [を]

ヨンデッカ ワガンネワイ キーデネーンダガラ {笑}  
読んでいるか 分からないよ。 聞いてないんだから。 {笑}

901D : \*\* ホンφ ミデネド ドゴφ ヨンデッカ  
\*\* 本 [を] 見ていないと どこ [を] 読んでいるか

ワガンネベ  
分かんないでしょ。

902E : ワガンナイノ ツキ° オマエッテ ユワレタノナイ ドゴφ  
分からぬの。 次 お前って 言われたのね。 どこ [を]

ヨンデッカ ワガンナクテ ウント オゴラレタケンチョ  
読んでるか 分からなくて すごく 怒られたけど。

903F : アル  
ある。

904D : ヤッパリ アンダ  
やっぱり あるんだ。

(中略)

922E : ホンダッテ センセ センセーゴドワ ゼッタイニ ワリクチワ  
そうだって 先生 先生のことは 絶対に 悪口は

イワネガッタガンナイ ワガイサ イッテワ イワネガッタガンナイ  
言わなかつたからね。 自分の家に 行つては 言わなかつたからね。

センセーゴドワネー  
先生のことはね。

923F : ユワネガンネー ソー センセンドゴワ ワタシラφ  
言わなからね。 そう 先生のことは。 私たち [は]

センセードゴワ カミサマダト オモッテダモノ  
先生のことは 神様だと 思っていたもの。

924E : ワガイサ イッテ ユッタラ (被り過ぎていて文字化不可能:省略)  
自分の家に 行って 言つたら。

925F : センセーワ カミサマドガ ゴハンモ ナニモ タベナインダ  
先生は 神様とか ご飯も 何も 食べないんだ。

926C : \*\*テヤット ナンデモ イウゴドφ キグンダ  
\*\*てやっと 何でも 言うこと [を] きくんだ。

927E : ソーダヨー イマ \*\*  
そうだよ。 今 \*\*。

928D : \*\*センセードゴφ オッカナガ° ッテダモノ  
\*\*先生のこと [は] 恐がっていたもの。

929E : ナイ  
ね。

930F : ンダヨ  
そうだよ。

931B : コワイガッタヨ  
恐かったよ。

932C : アノ ガヤガヤ ガヤガヤッテッペ ホット センセφ  
あの ガヤガヤ ガヤガヤっているでしょ。 そうすると 先生 [が]

キタガッテナイ ハー ハヨー イカ° ネッカナンネガンナイ \*\*  
来たとかってね もう。 早く 行かなければならないからね。 \*\*

ガダガダ ガダガダッテ \*\*  
ガタガタ ガタガタって。 \*\*。

933F : センセワ エライド オモッテダナーイ  
先生は 偉いと 思っていたね。

934E : オモッテダナーイ  
思っていたね。

935B : イマノコドモドワ ゼンゼン チカ<sup>。</sup> ウ\*\*  
今の子供は 全然 違う\*\*。

936E : イマノコドモドワ  
今の子供とは。

937B : イマワ  
今は。

938F : イマワ センコーナンテ イウンダガラ  
今は センコウなんて 言うんだから。

939B : イマワ モー デブンノナイ トモダヂダガラ  
今は もう 自分のね 友達だから。

940E : ソー  
そう。

941F : ソーダ ワタシ\*\* ヤー モー ワタシナンテ カミサマダド  
そうだ。私\*\* やあ もう 私なんて 神様だと

オモッテッカラ センセーッテ ゴハンモ クワネンダベナード  
思っているから 先生って ご飯も 食べないんだろうなと

オモッテダンダ ホント ゴハンモ ナニモ タベナインダローナード  
思っていたんだ 本当。 ご飯も 何も 食べないんだろうなと

オモッテダヨ トイレサナンテ イグドワ オモッテナイシネ  
思っていたよ。 トイレになんて 行くとは 思っていないしね。

942E : ンチャ カエッカイ ゴヂダヨ  
それじやあ 帰るかい。 五時だよ。

943C : \*\*  
\*\*

944F : ホントダワヨ ンダ ケーサヅノヒトト ガッコーノセンセーネ  
本当だわよ。 そうだ 警察の人と 学校の先生ね。

ソーユーヒトワ エライモンダド オモッテッカラ  
そういう人は 偉いもんだって 思っているから。

945C : アドワ ウヂノオトツツアン ウヂノオドツツアン  
あとは 家のお父さん。 家のお父さん。

946B : ホダ オトーサンφ エラガッタンナイ イマノ オトーサンφ  
そうだ。 お父さん [は] 偉かったのね。 今の お父さん [は]

カラッキシナイ ヨワクテナイ  
からつきしね。 弱くてね。

947E : ソーダネー  
そうだね。

948B : イマノ オトーサンワ カラッキシ ヨワクテ ワガンネ  
今の お父さんは からつきし 弱くて 分からない。

949C : アー イマノ オトーサンワ ダメダ  
ああ 今の お父さんは ダメだ。

950B : ダメダネー  
ダメだね。

951C : \* \*  
\* \*

952B : カダナシ  
かたなし。

953C : カダナシ  
かたなし。

954E : カダナシ  
かたなし。

955C : イマワ ヤッパリ カーチャンニ カナネ  
今は やっぱり お母さんに かなわない。

956B : ホダ カーチャンニ カナネンダ  
そうだ。 お母さんに かなわないんだ。

957C : ホンヂヤ ゾロゾロ  
それじやあ そろそろ。

958E : ソロソロネ チヤ  
そろそろね。 じやあ。

959B : ゴヂンナッカイ ?  
五時になるかい ?

960E : カエリマスカ  
帰りますか。

961F : アー アンタノカエル デガンダ  
ああ あんたの帰る 時間だ。

962B : カエル デカンネ  
帰る 時間ね。

963F : シーダネー ワレワレワ イーゲドモ  
そうだね 我々は いいけども。

964E : ハイ ドーモ  
はい どうも。

965F : D サンワネー バスノ デカンカ° アッカラナイ  
D さんはね バスの 時間が あるからね。

966B : バスノ  
バスの。

### 3-2. 南会津東方言 (一部)

59G : ヤッパナー コンドモ ϕ ウヂニ ノーカドガ ナニガ ショグドガ  
やっぱりなあ 子供 [は] 家に、 農家とか、 何か 職とか、

ソーユンデ スギダッタラ イッケンヂョ イマワ ミンナ  
そういうので 好きだったら いるけど 今は みんな

アドトリンドッタラ マー ツトメデナ エーニ  
跡取りだったら まあ 勤めてな、 家に

インベゲンヂョ ヤッパ イマワ ミンナ アドトリデネーホガワ  
いるだろうけど、 やっぱり 今は みんな 跡取りでない他は

ミナ デデル ウン ヤッパ オヤノ モドニ  
みんな 出ている。 うん。 やっぱり、 親の 元に

ソンナニ イダグネーンデ ナーンタッテ オヤヨッカ {咳}  
そんなに、 いたくないので なんたって 親より {咳}

トモンダヂデ {咳} トモダヂデ ソーダンシテ  
友達で {咳} 友達で 相談して

{咳} トモダヂデ ソーンダン シテ イッチマガラ オヤノ  
{咳} 友達で 相談 して 行ってしまうから 親の

ユーボドφ ダメ ウン アドトリンダラナ ナントカ オラφ  
言うことは ダメ。 うん。 跡取りならな、 なんとか 私 [は]

アツカ。 ナイドガ ナントガド オモウド ヤッパ インベゲンヂョ  
跡継がないとか 何とかと 思うけど、 やっぱり、 いるだろうけど、

イマワ イネヨー ウーン オナコ。 コダッテ イネーダモン ホダヨー  
今は いないよ。 うん。 女の子だって いないんだもの。 そうだよ。

ヒトリノ オナコ。 コダッテ イネーダモン オヤンドゴニ スキ。 ナ  
一人の 女の子だって いないんだもの 親のところに。 好きな

ヒトφ デギット スギナ ヒトンドゴサ  
人 [が] できると 好きな 人のところに

ポイント イッチマウンダモン ナー ヤコ。 ヤガラ  
ポイーンと 行ってしまうんだもの。 なあ。 名古屋から

オレノ トモダヂ ナコ。 ヤガラ ホエノ トモダヂノ ムスコ ソレφ  
私の 友達、 名古屋から それの 友達の 息子 それ [が]

ナコ。 ヤデ センセー イシャφ ヤッテダベ シタッケカ。  
名古屋で 先生 医者 [を] やっていたでしょ。 そうしたら

ナコ。 ンデ ソノ ヒトワ カンコ。 フ ホーシタラ ナコ。 ヤニ イデ  
名古屋で その 人は 看護婦。 そうしたら 名古屋に いて

ヤッテダッケカ。 ナニ スギンナッタノガ コンダ ソノ ヒトリムスメ  
やっていたら 何 好きになったのか 今度は その、 一人娘、

ソレ オヤ φ コンダ オッケデ フタオヤ  
それ 親 [が] 今度は 欠けて 二親、

マダ ワゲーガラ ヨガンベ ログンヂューデク。レー  
まだ 若いから いいでしょ。 六十でくらい。

ホシテ フタオヤ φ オッケデ ソーシテ コンダ \*\*  
そして 二親 [が] 欠けて そして 今度は \*\*

ワガマツツア キタノ イシャダガ ソーシタラ ナンネンナッタベナー  
若松に 来たの。 医者だから。 そうしたら 何年になつただろうなあ

アレナ ウーンド アー ハヂネンクレーニ ナッカ ウン ハヂネンクレーニ  
あれな うーんと ああ 八年くらいに なるか うん。 八年くらいに

ナルワ ホッテ キテ コンダ ムガシノ アノ ホラ オヤ イダドギワ  
なるわ。 そして 来て 今度は 昔の あの ほら 親 いたときは

ニューイン カンヂャ モ オゲダラド ンダゲンヂョ イマワ コンダ  
入院 患者、も 置けたんだって。 だけど 今は 今度は

ホラ イマ ニューイン カンヂャ φ オゲットナット  
ほら 今 入院 患者 [が] 置けるとなると

ナガナガ ヒトモ イルシ タイヘンダンベ ショグンヂノホー  
なかなか 人も 要るし 大変でしょ。 食事のほう。

ソンヂャガラ ニンジー φ イッペ インナンネガラ  
それだから 人数 [が] いっぱい 入れなくちゃいけないから。

ナニガラ ゼンブ ムガシノカ。ナ φ カワシテ  
何から 全部 昔のもの [を] 買わせて、

ホッテ ヘーセー デューニネンニ ワカ。ノ イバショド  
そして 平成 十二年に 自分の 居場所と

ソエガラ コンダ アノ カンヂャノ リハビリヂョーッテ  
それから 今度は あの 患者の リハビリ場つて

ソレオ コレヨーノ フタツ アワセダクレー オーッキグ タデデ ソエガラ  
それを これ用の 二つ 併せたくらい、 大きく 建てて それから

ワカ<sup>。</sup> ノ シンサツバワ オナヂダゲンヂョ コゴントゴサ コナク<sup>。</sup> レノ  
自分の 診察場は、 同じだけど こここのところに このくらいの

キカイ<sup>。</sup> イッチ ホッテ ネットギワ ヒグゲンヂョ センセカ<sup>。</sup>  
機械 [を] 入れて そして、 寝るときは ひくけど 先生が

チョーンド ヨグ コシ<sup>。</sup> イダグ シネヨーニ  
ちょうど よく 腰 [を] 痛く しないように、

ホラ ボダンデ グーット アカ<sup>。</sup> ッテ ソデ チョーンド  
ほら ボタンで グーっと あがって、 そして ちょうど

センセーカ<sup>。</sup> コシ<sup>。</sup> マケ<sup>。</sup> ネデ コーヤッテ ヤラエルヨーニ、  
先生が 腰 [を] 曲げないで こうやって やることができるように

ソ一 \*\* タデダ ダガ イマワ ニューインワ デギネ  
そう \*\* 建てた。 だから 今は 入院は できない。

ウン モドワ ニューイン シテダラド オヤンドギワ ソエ  
うん。 元は 入院 していたんだって。 親のときは。 それ

キューニ コンダ シンキンコーソグデ オヤ<sup>。</sup> イシャ<sup>。</sup> ヤッテダ  
急に 今度は 心筋梗塞で、 親 [が] 医者 [を] やっていた

ナグナッタガラ コンダ アノ ヒト<sup>。</sup> キタノ  
亡くなつたから 今度はあの 人 [が] 来たの

サンデューンダナ ソンドギ ソノ カノンヂョ<sup>。</sup> キテ ナコ<sup>。</sup> ヤガラ  
三十だな。 その時 その 彼女 [が] 来て、 名古屋から

ソシテ キタソダ ウーン ソーシタラ シカモ メンケ<sup>。</sup> 一  
そして、 来たんだ。 うん。 そうしたら しかも、 かわいい

キリット シタ カンコ<sup>。</sup> フサン ウーン イマワ ウヂノホー<sup>。</sup> ヤッテル  
きりつと した 看護婦さん。 うん。 今は 家の方 [を] やっている。

ウヂンナガ ウン コドモモ イッカラ ウン ヤッパ  
家の中。 うん。 子供も いるから。 うん。 やっぱり

イソカ<sup>。</sup> シードギワ ナ イシャノホー タマーニ  
忙しいときは な、 医者のほう たまに

ヤッケンヂョ イマワ ヤレネワ コンドモ ϕ イッカラ ウン  
やるけど、 今は やれないは 子供 [が] いるから。 うん。

ウン チッチャイ コンドモ ϕ イッカラ ンヂヤ カンコ<sup>。</sup> フサンダッテ  
うん。 小さい 子供 [が] いるから。 だから 看護婦さんだって

ゴニンモ イッカラ ホラ ナニガ アッテ ヤスンダリ  
五人も いるから、 ほら 何か あって 休んだり

シタドギ \*\* チョット テヅダイニ デンダ ウン  
したとき \*\* ちょっと 手伝いに、 出るんだ。 うん。

(中略)

63G : サトイモノ アレ スギダガラ アノ ニガダ イロイロ アルワイ  
サトイモノ、 あれ 好きだから、 あの 煮方 いろいろ あるよ。

ウン ンダヨ  
うん。 そうだよ。

64R : ナンカ アイヅノ タ ヤリカタトカ アルンデスカ?  
何か 会津の × やり方とか あるんですか?

65G : ウン サトイモド イロイロ ヤサイ ϕ ナンダカンダ ニンヂン  
うん。 サトイモと いろいろ 野菜 [を] なんだかんだ にんじん、

イロイロ イレデ ソーユーノダド ホラ  
いろいろ 入れて、 そういうのだと ほら、

オイシーンベ ダゲンヂョ ヨーグド イモ ϕ ニダラ イモノ  
おいしいでしょ。 だけど よく イモ [を] 煮たら、 イモの

ソノ ナンツーノガナ コノ ツユツツーノガ ナンツーノガ  
その、 なんていうのかな、 この つゅって言うのか、 なんていうのか、

ソレオ ソノ ザイリヨード マンザルヨーニ ニネヅド イモワ コロット  
それを その、 材料と 混ざるように、 煮ないと イモは ころっと

ニダリワ ンマグネノ ウン チャカ<sup>。</sup> イモモ ウー サトイモワ マー  
煮たりは おいしくない。 うん。 チャガイモも。 んー サトイモは まあ

ア一 クンヅシテワ ワリガラ アンヂ アンヂデ アンヂφ  
ああ くずしては 悪いから、 味 味で 味 [が]

ツカルヨーニ ウン ンヂヤガラ アンマ ツヨビデ  
浸かるように。 うん。 だから あんまり 強火で

ニット ナンデモ ヨーグ ネーネガラ マー チューンビヨッカ  
煮ると、 何でも、 よく 煮えないから まあ 中火より

ア一 ダイタイ ハンネダナーッツードギワ コンダ  
ああ 大体 半煮えだなあっていうときは 今度は

ヨワミンシンノ ホーット デックリド ブックニデ ネーナ  
弱火にするの。 そうすると じっくりと、 ブック煮で ないんだ。

ナンデモ ウン ヤサイルイワ ホンダヨ  
何でも。 うん。 野菜類は。 そうだよ。

ソエガ ナッパノ ホーレンソーダノ ユンデンノワ ソレワ ソンナ  
それが 菜つ葉の ほうれん草だの 茄であるのは、 それは、 そんな

ホラ フツーノ ヒンデ アンマ ヨワイド ヤッバ イヅマデモ  
ほら、 普通の 火で、 あんまり 弱いと やっぱり いつまでも

ニンナンネガラ ヤバ フツーノ ツヨビンデ  
煮なければならないから やっぱり 普通の 強火で、

シオφ イッチ バサット イレット ンヂヤガ イレットギワ  
塩 [を] 入れて、 バサッと 入れると、 だから 入れるときは

ネッコノホーガラ ネッコ ネッコノホーガラ コー イッチ  
根っこの方から、 根っこ、 根っこの方から こう 入れて、

ハッパワ アドンデ コー ャット ホーット コンダ ネーφ ニルマデ  
葉っぱは あとで こう やると そうすると 今度は 根 [を] 煮るまで

ハッパワ チョイット クク。 ット イーガラ ンヂヤガラ マッサオニ  
葉っぱは ちよいと くぐると いいから だから 真っ青に

シオφ イレ ウン ソーヤッテ コセーンノ オレφ リヨーリワ  
塩 [を] 入れ、 うん。 そうやって こさえるの。 私 [は] 料理は

ヂョーンジダッタンダ ウン  
上手だったんだ。 うん。

66R : チッチャイコロカラ リヨーリ ϕ ヤッテタンデスカ ?  
小さい頃から 料理 [を] やっていたんですか ?

67G : ウーン ワイノ オトーサン ϕ シナサ ヘーテー ϕ アダッタベ  
うん。 私の お父さん [は] 中国に 兵隊 [が] あたってでしょ。

ソードギ ミンナ サンヂコロ ネデンノニ ソレ ナヤーグ オギデ  
その時 みんな 三時ごろ 寝ているのに それ 早く 起きて

サンヂコロ オギデ ログンヂ キショーダベ  
三時ごろ 起きて 六時 起床でしょ。

ソエ サンヂコロ オギデ デューニンノ エライ ケン ϕ  
それ 三時ごろ 起きて 十人の 偉い 剣 [を]

ツッテル ヒトンドゴ デューニンノ クヅミカ° ギダド トーチャン  
吊っている、 人のところ 十人の 鞄磨きだって。 お父さん

ミンナ \*\*ショッテ レンシューニ イク° ベ ホシタッケカ°  
みんな \*\*背負って 練習に 行くでしょ。 そしたら

イッカケ° ズ タッタッケカ° アノ X1 サン  
一ヶ月 経つたら、 あの X1 さん

アノ X1 X1 ナントガッテ ューダ アレ ヘータイオ  
あの X1 X1 何とかって 言うんだ あれ 兵隊を。

ソーシタラ アシタガラ アノ ボグラノ リヨーリ ϕ ヤッテクレ  
そうしたら、 明日から あの 僕らの 料理 [を] やってくれ、

ホンヂャガラ コンダ ミンナ \*\* ショッテ アセ ダグダグ  
それだから 今度は、 みんな \*\* 背負って 汗 ダクダク

マックロンナッテ キタッテ アノ ブダイチョーノ リヨーリ ϕ  
真っ黒になって 来たって、 あの 部隊長の 料理 [を]

ヤッテッカラ ソシテ デギデ オンゼンデ  
やっているから そして できて お膳で

コーキッテ モッテク。ベ ソレ。 やッテッカラ  
こうやって 持って行くでしょ。 それ〔を〕 やっているから、

ミンナ。 やッテキタッテ オレワ ホネ。 オンネガッタ  
みんな〔が〕 やって来たって 私は 骨〔を〕 折らなかつた。

ホダゲンヂョ オガソヅニワ クロー シタッテ ンダゲンヂョ  
だけど おかげには 苦労 したって。 だけど

ヂョーンヅダヨ オライノ オトーサン ウーン  
上手だよ。 私の家の お父さん。 うん。

オレ。 アー クタビッチャナンテ ヤンネデ イット ワカ。  
私〔が〕 ああ くたびれたなんて やらないで いると 自分〔が〕

コナ ズネー フライパントガ ナベンデ インヅレ  
こんな 大きな フライパンとか 鍋で いずれにしても

フライパンデ ャッテキタガラ ソゴデ コナヤッテ リヨーリ シテ  
フライパンで やってきたから そこで こんなことやって 料理 して

アカ。 ッテキテ アー オララ アー コエガッタナンテ マンマドガ  
あがってきて ああ 私たち ああ 疲れたなんて ご飯とか

オガソヅドガ アンノ。 ワゲデ スワッテルウヂニ  
おかげとか あるの〔を〕 分けて、 座っているうちに

コシェデクレルワイ ナニホンド デョーンヅ ハヤインダ ウーン  
こさえてくれるよ。 何ほど 上手。 早いんだ。 うん。

68R : チョット ラク  
ちょっと 楽。

69G : ソンナ ソレダゲワ オレ。 シアワセダッタワ タマケ。 ルワイ  
そんな それだけは 私〔は〕 幸せだったわ。 ビックリするよ。

イマ アラ ャッテタッケカ。 デギダノナンテ {笑}  
今 あら やっていたら できたのなんて。 {笑}

ウン オヂャ ノマセ ナー ウーン  
うん。 お茶 飲みなさい。 なあ うん。

イロイロ タイヘンダナー コノ アンケートナー ウーン  
いろいろ 大変だなあ。 この アンケートなあ。 うん。

(中略)

84G : オヨク。 ? アー オレ φ オヨケ。 ネノ ナーニ ゼッタイ  
泳ぐ? ああ 私 [は] 泳げないの。 なあに 絶対

オヨケ。 ネノ オヨイダゴドφ ネーダ  
泳げないの。 泳いだこと [が] ないんだ。

85R : カワデ オヨイダリワ シナカッタンデスカ?  
川で 泳いだりは しなかったんですか?

86G : カワデ アソンダリモ シネー ウン アノ コンドモノコロワ  
川で 遊んだりも しない。 うん。 あの 子供の頃は

イローンナ タンボφ イッペダガラ ンダ  
いろんな 田んぼ [が] いっぱいだから。 そうだ。

ミシナデ ムラデ ゴログニン アヅマッテ ムスメダヂ  
みんなで 村で 五、六人 集まって 娘たち [が]

イダガ ソゴデ コンダ アノ チーッチエー イロイロ ウッテル  
いたから、 そこで 今度は あの、 小さい いろいろ 売っている

ナンベφ アンダ ホントノ ナンベデネグッテ オモチャ  
鍋 [が] あるんだ。 本当の 鍋でなくって おもちゃ。

\*\* コンダ ホイヂョワ アノ チーチエノφ アンダ ダ  
\*\* 今度は 包丁は、 あの 小さいの [が] あるんだ。 だから

オヤラヂワ デッケノφ アンジゲネ ホット  
親たちは 大きいの [は] 預けない。 そうすると

ソレ φ ミンナデ コンダ ソゴラヘンノ ミヂガラ イロンナ  
それ [を] みんなで 今度は そこら辺の 道から いろんな

クサφ トッテキテ コレワ イリモンサ コレワ オシルφ  
草 [を] 取ってきて、 これは 炒り物に これは お汁 [に]

コレワ オガゾンテ {笑} ソレ ソレド ママコ。ド ソレド  
これは おかげなんて、 {笑} それ それと ままごと。 それと

ソレガラ コンダ ハイ ニエダガ ドーンゾナンテ アノ トモダヂ  
それから 今度は はい 煮えたから どうぞなんて あの 友達

ドーシデ クワエダリ ソエガラ コンダ  
同志で 食べさせたり それから 今度は

アノ ゴハン ゴハンワ チャント  
あの、 ご飯、 ご飯は ちゃんと

コーヤッテ イスφ コゴサ ヤッテ ソノ ナンベφ  
こうやって 椅子 [を] ここに やって、 その 鍋 [を]

アケ。デ ナベツタッテ オモチャ ホシテ アケ。デ ホシテ  
あげて、 鍋って言ったって おもちや。 そして あげて そして

ゴハンワ コマカーグ キッテ ホシテ コンドワ ワゲデ  
ご飯は 細かく 切って、 そして 今度は 分けて、

オモシガッタヤー アノコロ ソエガ アド  
おもしろかったなあ あの頃。 それから あの

カミデ {咳} カミφ キッテ ニンキ。ヨ アレワ  
紙で {咳} 紙 [を] 切って 人形。 あれは

ヨグ ヤッタ ウン  
よく やった。 うん。

87R : デブンデ ツクッテ ニンキ。ヨーφ  
自分で 作って。 人形 [を]。

88G : ウン シンブンカ。ミンデモ ムガシワ シンブンカ。ミシカ ネガッタガ  
うん。 新聞紙でも 昔は 新聞紙しか なかったから

シンブンカ。ミンデ イロンナ コーヤッテ カイデ コーヤッテ コーヤッテ  
新聞紙で、 いろんな こうやって 書いて こうやって こうやって

コーヤッテ ヒトヅンスンダガラ ハナサレネ コーサ アダマφ コー カイデ  
こうやって 一つにするんだから 離せない。 ここに 頭 [を] こう 書いて

コーヤッテ コーヤッテ ソンデ ϕ コーヤッテ コーヤッテ アダマ ϕ コー  
こうやって こうやって 袖 [を] こうやって こうやって、 頭 [を] こう

ツケデ コーヤッテ コー コー コーヤッテ コゴサ コンダ アシ ϕ  
付けて こうやって こう こう こうやって、 ここに 今度は 足 [を]

{笑} ミンナ キッチマワネンダ ホンヂヤガ タイヘンダワイ  
{笑} みんな 切ってしまわないんだ。 それだから 大変だよ。

コンダ オスモー オスモー ϕ ミデ スモーノ コンダ コー  
今度は お相撲。 お相撲 [を] 見て、 相撲の 今度は こう

ドヒヨー ϕ ツクンベ チャーント スモーノ カダヂ イヂメンノ  
土俵 [を] 作るでしょ。 ちゃんと 相撲の 形 一面の。

コッチド コッチデ コンダ コーヤッテ ホッテ コー タヅヨーニ シタ ϕ  
こっちと こっちで 今度は こうやって そして こう 立つように 下 [を]

ヒログ コー コーユフーニ ウヂワ ミデンシテ タヅンダ ソーシテ  
広く こう こういう風に、 団扇 みたいにして、 立つんだ。 そうして

コンダ ドンドン ドンドンテ ハダグド ドッヂガ マゲンノ {笑}  
今度は ドンドン ドンドンって はたくと、 どっちか 負けるの。 {笑}

ソユーゴド ϕ ャッテダヨ コンドモンドギ ウーン  
そういうこと [を] やっていたよ 子供の時。 うん。

89R : ソトデ アソブトキトカワ ナン ドンナコト  
外で 遊ぶときとかは ×× どんなこと。

90G : アド オレワ キノンボリ ϕ デギネガッタンダ ダガラ キノボリ  
あと 私は 木登り [が] できなかつたんだ。 だから 木登り

スル ヒトワ アノ ムガシワ ナンニモ ネーガラ クワコ。  
する 人は あの 昔は 何にも ないから 桑、

イヤ クワコ。 ϕ クッテ コゴ マックロンシテ ミンナ  
いや 桑 [を] 食べて ここ 真っ黒にして みんな

ワラッテンダ オレワ アノ クワコ。 ϕ クワンニガッタ アンナ  
笑っていたんだ。 私は あの 桑 [が]、 食べられなかつた。 あんな

アマンジガクッテ ヘンナ ニオイ シテ アマンジガクッテ  
甘酸っぱくて 変なに おい して 甘酸っぱくて。

イッコク<sup>。</sup> レ クー ウー クワネ ミンナ イッペ サカ<sup>。</sup> シテ  
一個くらい 食べる？ うう 食べない。みんな いっぱい 探して  
クーワイ イヤイヤ  
食べるよ。 いやいや。

91R : クワコ<sup>。</sup> ?ッテ ナン  
クワゴって？ なん

92G : クワコ<sup>。</sup> ッテ クワノ  
桑ごって 桑の

93R : クワノミ？  
桑の実？

94R : キーサ クワノミ ソレ ムラサギミデ イロ<sup>。</sup> ツグンダ ソット  
木に 桑の実 それ 紫みたいな 色 [が] 付くんだ。 そうすると

クワレンダ コンド アマヅゲダド オレー<sup>。</sup> アレワ クワンニガッタ  
食べられるんだ。 今度は 甘酸っぱいと 私 [は] あれは 食べられなかつた。

オモシゴドシテ アソンダラガラ コンドモンドギ セガラ カヤ<sup>。</sup>  
面白いことして 遊んだから 子供の時。 それから カヤ [が]

アンベ カヤノ シンポイサ マックレ ボー<sup>。</sup> スーツ  
あるでしょ。 カヤの /// 真っ黒い 棒 [が] スーツと、

デンダ アンマ ナカ<sup>。</sup> グネグ ミシケ\*\* デ  
出るんだ。 あんまり 長くなく、 短い\*\* [それ] で

ソレ コンダ トッテ キテ コーヤッテ ナメンダ ホーット  
それ 今度は 取って 来て、 こうやって 舐めるんだ。 そうすると

ミナ コゴントゴ<sup>。</sup> マックロンシテ ホーシテ ヒトンドゴ<sup>。</sup>  
みんな こここのところ [を] 真っ黒にして そうして 人のところ [を]

ユビ サシテ ワラッテ {笑} ナニホド オモシガッタヨ ウーン ミンナ  
指 差して 笑って、 {笑} 何ほど 面白かったよ。 うん。 みんな

ソレカ° ナンツーノガ アダマφ イイ ヒトバッカデー ミンナ  
それが なんていうのか 頭 [が] いい 人ばっかりで、みんな

ザイサンカノ アノ オヤガダ ケートーダモン  
財産家の、あの 親方 系統だもの。

ナヌシ ケートーダモン オレラφ  
名主 系統だもの、私たち [は]。

ウーン アノ ヒロダノ ヒロダ アンベ イマ ノッテ  
うん。あの ヒロダの ヒロダ あるでしょ。今 乗って

クンベ アノ テマエ アノ フンヂクラッテ ミナンヅルヒメカ°  
来るでしょ。あの 手前。あの フヂクラって ミナヅル姫が

ソゴサ オリイッテ ナグナッタノ ミナンヅルヒメ ウーン  
そこに 降り入って、亡くなったの。ミナヅル姫。うん。

ソエ チョーンド オライノ ハダゲンドゴサ ソゴニ チャント イシφ  
それ ちょうど 私の家の 畑のところに そこに ちゃんと 石 [が]

コー ナッテ マジラッテンダ オライノ ハダゲ  
こう なって 祀られているんだ。私の家の 畑

ソゴンデ コーヤッテ ツンノメッテ ナグナッタアド ウーン オライノ  
そこで こうやって つんのめって 亡くなったあと、うん 私の家の

ハダゲンドゴニ チャント コーナッテ コー イシンデ コーヤッテ ホッテ  
畑のところに ちゃんと こうなって こう 石で こうやって そして

コーヤッテ ドンテ ソレカ° アノ スッタ イマミデニ スッタ イシφ  
こうやって 銅で それが あの // 今みたいに // 石 [は]

ネーノ ムガシノ イシダガラ ダガ コーヤッテ コー カダチ カエデ  
ないの。昔の 石だから だから こうやって こう 形 かえて

ドーンデ コー イシφ ツグッテ ソゴノ ムガーシノ ミナンヅルヒメ  
銅で こう 石 [を] 作って そこの 昔の ミナヅル姫。

95R : ミナヅルヒメッテ ナンカ オハナシ  
ミナヅル姫って、なんか お話？

96G : ミナヅルヒメッテ キーデミー アッチャ イッテ ヨノナガ  
ミナヅル姫って 聞いてみなさい あっちに 行って。 世の中

ミナヅルヒメッテ タイシタ ユーメーダワイ ホンダヨー アー ソレワ  
ミナヅル姫って 大した 有名だよ。 そうだよ。 ああ それは

タイシタモンダ アインゾノゴド ソレ ムゴーサ イッテ イヤ タイシタ  
大したもんだ。 会津のこと。 それ 向こうに 行って いや 大した

イー ハナシφ キーデキタッテ ホンヂ オラウヂノ ハタゲデ  
いい 話 [を] 聞いて来たって。 それで 私の家の、 畑で

ナグナツタンダ ウーン ンヂャガ ソゴサ ムガシノ  
亡くなつたんだ。 うん。 だから そこに 昔の

ヒトカ° マヅッテクッチャ ウーン ンヂャ  
人が 祀つてくれた。 うん。 だから

イツモ イク° ド オラφ ワゲーコロ オラφ コンドモノコロ  
いつも 行くと 私 [が] 若い頃 私 [が] 子供の頃

オカーサンφ イク° ド クツツイデク° ベ ホット  
お母さん [が] 行くと くつついで行くでしょ。 そうすると

ナンデカンデ オライノ オカーサンワ ダンナヨッカ  
なんでかんで 私の家の お母さんは、 旦那より

イドゴ ドーシデ イッショナッタガラ ウン ソンヂャガラ  
いとこ 同士で 一緒にになったから うん。 それだから

チューハヂンデ アシンダφ ハイデ イッピョーゴ° メ カジイダド  
十八で 足駄 [を] 履いて 一表米 担いだんだって。

オライノ オカーサンφ ウーン イッピョー ログンヂッキロ  
私の家の お母さん [は]。 うん。 一表 六十キロ。

イッピョーノ コメ アシンダφ ハイデ カンヅイダドー  
一表の 米。 足駄 [を] 履いて、 担いだんだって。

チューハヂンデ ホンヂャガ ナニホンド ンダベシタ  
十八で。 それだから 何ほど。 そうでしょ。

キューンヂューニーイデ ナグナッタベ キューンヂューニーノ  
九十二で 亡くなっただしょ。 九十二の

オショーカ<sup>。</sup> ヴ<sup>φ</sup> オワツテ ニカ<sup>。</sup> ヴ ソノウヂ イツツモ オレガ<sup>。</sup>  
お正月 [が] 終わって 二月。 そのうち いつも 私が

コッチガ イッテミット コーヤッテ  
こっちが 行ってみると、 こうやって

シンブン<sup>φ</sup> ミデンダ アド ランヂオ<sup>φ</sup>  
新聞 [を] 見ているんだ。 あと ラヂオ [を]

ミデンダ ホーテ コーヤッテク<sup>。</sup> ド タナガカグヘー コノヤローワ  
見ているんだ。 そして こうやって行くと 田中角栄 この野郎は

ワリゴドバッカ ヤッテ\*\* シンブン<sup>φ</sup> ミデンダ  
悪いことばっかり やって\*\* 新聞 [を] 見ているんだ。

タイシタモンダガラ ワイノ オヤワ ソーヤッテ ミンナ ゾーキン  
大したもんだから。 私の 親は そうやって みんな 雜巾

(お客様来る:省略) ホーッテ ミンナ アノ ヌイモノ<sup>φ</sup> シテ  
そうして みんなあの縫い物 [を] して

コンナ ヴ<sup>ネ</sup> コダジ ソノ ウエサ コー モヨー<sup>φ</sup>  
こんな 大きな こたつ、 その 上に こう 模様 [を]

ツケデ ミンナ イラネーモノ ホンドイデ ヒンザデ ノシテ ソーシテ  
付けて、 みんな いらないもの ほどいて 膝で 乗せて そうして、

ゾーギン シンセギギーサ ソレワ クッチャノ アノ  
雑巾、 親戚中に それは くれたの。あの

コダツカ<sup>。</sup> ゲ ンダゲンヂョ ゾーギン<sup>φ</sup> ヒヤグマイヅヅ チューカ<sup>。</sup> ッコー  
こたつ掛け。 だけど 雜巾 [を] 百枚ずつ 中学校

ショーカ<sup>。</sup> ッコー ソエサ コーヤッテ ニホンイドデ ヌッテ ワカ<sup>。</sup> ノ  
小学校、 そこに こうやって 二本糸で 縫って、 私の

イラネグナッタ メンノ デンバンダドガ \*\*ダドガ キモノ ソエ  
いらなくなつた、 綿の 補綻だとか \*\*だとか 着物 それ

トシトッテ キナグナッタガラ ハヂンデューガ  
年取って 着なくなつたから、 八十が

ソエ ヤッタンダ ホンヂャガラ コンナ ゾネー  
それ やつたんだ。 それだから こんな 大きな

ヒヨーショーφ モラッテ タイシタモンダワイ ウーン ホンヂャガ  
表彰 [を] もらつて、 大したもんだよ。 うん。 それだから

ナンデモ オフグロニ オメワ アノ コゴニ イッショケンメ  
何でも おふくろに、 お前は あの、 ここに 一所懸命

ヒヤグショーφ ヤッテダッテ アノ コゴノ  
百姓 [を] やつていたつて、 あの、 ここ

ノーカφ ヤンデネーガラ アドトリ \*\*ダガラ  
農家 [を] やるのでないから 跡取り \*\*だから、

オメワ ナンデモ ヨソサ デデ ヤンナンネンダガラ  
お前は 何でも よそに 出て やらなければならぬんだから、

ナンデモ ナライモノφ ヤレ ソノカワリ タウエド アギダゲワ  
何でも 習い物 [を] やれ。 そのかわり、 田植えと 秋だけは

テヅダエ アドワ ヤンネガッタンダ ホンヂャガラ  
手伝え。 あとは やらなかつたんだ。 それだから

イマ オッキノーカサ イッタドギ コーヤッテ ホソイノ  
今 /// 行つたとき、 こうやって 細いの

クルメラレッケンヂョ コンナ ゾネーノ コーヤッテ  
くるめられるけど、 こんな 大きいの こうやって

アノ クワデ コーヤッテ ウネ ソレ\*\* ャッタゴド ネーガ  
あの、 鍬で こうやって、 敵 それ\*\* やつたこと ないから

デギネガッタ コンダ オドサンノ ヤンノφ ダレモ  
できなかつた。 今度は お父さんの やるの [を]、 誰も

ミデネガナーナンテ アッチコッチ ミーミー ソーシテ  
見てないかなあなんて あつちこっち 見ながら そして

オトサンノ ヤンノ ϕ コーヤッテ ミッタワイ ソレガラ  
お父さんの やるの [を] こうやって 見ていたよ。 それから

オンボエダ ウーン ホンヂ ニネンメンデ ホラ アンマ ヤッテネガラ  
覚えた。 うん。 それで 二年目で、 ほら あんまり やってないから、

ツトメッタガラ ソノカワリ オレワ イヅジモ ナライコ<sup>。</sup> ド シタンダ  
勤めていたから、 そのかわり 私は 五つも 習い事 したんだ。

オハナニ オヂヤニ デューハヂガラワ ツトメデ ツトメ シーシー  
お花に お茶に、 十八からは 勤めて、 勤め しながら。

ンヂヤガラ オヂヤモ オハナモ ソエガラ アノ  
だから お茶も お花も それから、あの、

ヨーサイモ ワサイノ センセϕ ヤッタンベ  
洋裁も。 和裁の 先生 [も] やったでしょ。

97R : ア スコ<sup>。</sup> 一イ  
あ すごい。

98G : ホダヨ ナンデモ ヤッタンダ  
そうだよ。 何でも やったんだ。

99R : キモノ  
着物？

100G : ウン ウン ハオリϕ アノ ダシテ ソシテ フグシマサ  
うん。 うん。 羽織 [を]、 あの 出して そして 福島に

ヤッタベ アノ コーリヤマ ダ コーリヤマノ  
やったでしょ。 あの 郡山。 だから 郡山の

テンデカイニ ソレ オレカ<sup>。</sup> ナϕ ューショ一 シタノ ホンヂ イエサ  
展示会に それ 私のもの [が] 優勝 したの。 それで 家に

オイデ キタゲンチョ コンナ ズネー ガグϕ アルワイ ソッテ  
置いて 来たけど。 こんな 大きい 額 [が] あるよ。 そして

ガッコーサ オセ一一 イッテダノ ンダヨ ウン サイホーノ  
学校に 教えに 行っていたの。 そうだよ。 うん。 裁縫の

アル デガンドゲ {笑} ナンデモ ヤッタダガラ イヤ ソノホガニ  
ある 時間だけ。 {笑} 何でも やったんだから。 いや その他に

コンダ ツトメッタンダ コー コー チム ヤッテダ ウーン  
今度は 勤めていたんだ。 こう こう 事務 やっていた。 うん。

ソンヂャガ オラ ϕ ヒヤグショ一ϕ  
それだから 私 [は] 百姓 [を]

ヤッテダッテ オレカ° テワ ミンナヨッカ キレーナンダ  
やっていたって、 私の 手は みんなより、 きれいなんだ。

ホント ミンナニ コーヤッテ ウヂϕ イダドギ コーヤッテ  
本当。 みんなに こうやって 家 [に] いた時、 こうやって

ヤット ナニ オメーノ テーナンテ ハダガエルワイ キレーナ テーナンテ  
やると 何 お前の 手なんて はたかれるよ。 きれいな 手なんて

ヤッパ ソーユー シコマッチャガラ リヨーリモ  
やっぱり そういう [風に] 仕込まれたから、 料理も

ショーンジダヨ オレϕ オレノ リヨーリナラ ンマイガラ  
上手だよ、 私 [は]。 私の 料理なら おいしいから。

101R : オカーサンニ オソワッタンデスカ?  
お母さんに 教わったんですか?

102G : ウーン オカサン オライノ オカサンモ ショーンジダモン オラダヂϕ  
うん。 お母さん 私の家の お母さんも 上手だもん。 私たち [が]

オンダヅコロワ センソーチューンダベ ンヂャガ ヨグ マンマナノワ  
生まれる頃は 戦争中でしょ。 だから よく ご飯になるのは

アッチコッチ トツツンブ ヨーグ ソノ ザーセー マンマノ ナガニ  
あっちこっち // / / / 、 よく その 雑炊 ご飯の 中に、

ダイゴンッパノ コマカグ キッタノドガ ナ? ゾエガラ コンダ  
大根の葉の 細かく 切ったのとか な? それから 今度は

ナンデカンデ モヂϕ イッコ イレンノ  
なんでかんで もち [を] 一個 入れるの。

アーレカ。 ンマガッタナー イマデモ ゾーセー  
あれが おいしかったなあ。 今でも 雜炊

マンマワ スギンダ ウー テンプラナン クーヨッカ ゾーセー  
ご飯は 好きだ。 うん。 てんぷらなんか 食べるより 雜炊

マンマノホーカ。 ンメー オラφ ダゲンヂョ アレワ アインヅノ  
ご飯のほうが おいしい 私 [は]。 だけど あれは 会津の

ユーメーナ オハナシヅダヨ ミナヅルヒメ ウーン ソノ ハダゲ  
有名な お話だよ。 ミナヅル姫。 うん。 その 畑

ウーン ホッテ モッテク。 ドギ ナニガ リンコ。 ドガ  
うん。 そして 持っていくとき 何か りんごとか

ナニガ イモドガ クイモノφ モッテッテ アケ。 デ  
何か イモとか、 食べ物 [を] 持って行って あげて

クンダ ウーン ホレ コンドモノコロ オカーサンφ  
来るんだ。 うん。 ほら 子供の頃 お母さん [に]

クツツイデク。 ベ ホット オライノ ハハオヤワ クレンジギダガラ  
くつ付いて行くでしょ。 そうすると 私の家の 母親は くれ好きだから、

チャート アケ。 デ クンダ コンダ イッタドギワ ダンコ。 φ  
ちゃんと あげて 来るんだ。 今度は 行ったときは 団子 [を]

アケ。 ットガ ウーン イマワ オラφ オカーサンモ イネー オレモ  
あげるとか。 うん。 今は 私 [は] お母さんも いない 私も

イネガラ ナガナガ ト一イシ ト一イドゴワ ハダゲ ヤンネガラ  
いないから、 なかなか 遠いし 遠いところは 畑 やらないから、

ナニモ ソママンナッテ ヤンブカンナッテンベ  
何も そのままになって 蔵下になっているでしょ。

ウーン ソレワ ハンヂメデダベ ホンダワイ ウン  
うん。 それは 初めてでしょ。 そうだよ。 うん。

タシカンイッテ ムガ フルイ ヒトφ ワガット 才モ  
確かにやって ×× 古い 人 [が] 分かると 思う。

ワガッカナー ンヂモ フグシマダガナー ンダゲンヂョ ナニ ト ナニ  
分かるかなあ。 それでも 福島だからなあ。 だけど 何 × 何

トッチル ヒトダガラ ナニ トッチル ヒト ナニ トッチル  
トッチル 人だから、 何 トッチル 人、 何 トッチル

ヒトッテワ グーット ムガシカラノ マー ハヤグ ュード フレ フレデ  
人っていうのは ずっと 昔からの まあ 早く 言うと ×× ふれて

アルーッツーノ ノク。ヂ ヒンデオミデニ アーユー デント一ニ  
あるっていうの 野口 英世みたいに ああいう 伝統に

ナッテルーッツーゴド ウン ソレワ アインヅノ アレ  
なっているっていうこと。 うん。 それは 会津の あれ

メーブヅダヨ ント オモ ウン ウン イマ  
名物だよ。 だと 思う。 うん。 うん。 今

シャヂョカ° アインヅノゴド キギデッタガ G サンダラ  
社長が 会津のこと 聞きたいって言ったから G さんなら

ワガンベガラ イク。ベガラ ア ソーガヨーッタノ  
分かるだろうから。 行くだろうから、 あ そうかよって言ったの。

{笑} ソエダゲ ハナシノ タネダワナー ウーン  
{笑} それだけ 話の タネだわな。 うん。

ウーン ナニカ° ヤッパ モッテケ° バ ウン ナニカ° ヤッパ  
うん。 何か やっぱり 持って行けば、 うん。 何か やっぱり

モッテケ° バ ホゴリンナンベ {笑} ナニモ モダネデナ ウン  
持つて行けば 誇りになるでしょ。 {笑} 何も 持たないでな うん。

(中略)

109G : アノヒト キューンヂューイヂダベ ホッテ グーット コンナ  
の人 九十一でしょ。 そして ずっと こんな

ヅネー キグ アレ イッポン アレ ツグリ φ  
大きな 菊、 あれ 一本、 あれ 作り [を]

ヤッテンダ ソンヂ ブゲヤシギダガ コレモ  
やっているんだ。 それで 武家屋敷だと、 これも

ヨノナガノ ハナシダベ ナ? コレモ モッテカ。 レル コトバダ  
世の中の 話でしょ。 な? これも 持って行ける 言葉だ。

ナ? ホンヂ ブゲヤシギド ソレガラ ニホンマヅド イマ サンカショ  
な? それで 武家屋敷と それから 二本松と 今 三ヶ所

サンカショー ダシタノ ダゲンヂョ イマワ トシトッタガラ  
三ヶ所、 出したの。 だけど 今は 年取ったから、

ブゲヤシギド アー オシロ ワガマヅノ オシロ  
武家屋敷と ああ お城 若松の お城。

110R : ツルカ。 チョー?

鶴賀城?

111G : ウン ツルカ。 チョー ソゴサ ダシタラド ホンヂ コンナ グネー  
うん。 鶴賀城。 そこに 出したんだって。 それで こんな 大きい

ユーショー カップ ガグド ヒヨーショーチョー ユーショー カップダノ  
優勝 カップ、 頬と、 表彰状 優勝 カップだの

ナンボ アッカ ワガンネドー ワゲドギワ ナンデモ  
いくら あるか 分からないって。 若いときは 何でも

ヤッタ ヒトダド ウーン ソレモ ヤッパ アノ アインヅノ  
やった 人だって。 うん。 それも やっぱり、あの、 会津の、

アノ デントーンデ アノ ハナシ モッテカ。 レルワイ  
あの、 伝統で あの 話 持っていけるよ。

キューンヂューアイヂダガラ ホンヂ ワカ。 デ ウンテン シテ  
九十一だから。 それで 自分で 運転 して。

112R : ウンテン シテ?

運転 して?

113G : ハダヂガラ ハダヂガラ キューンヂューアイヂマデ コレ  
二十歳から、 二十歳から 九十一まで これ

ヤッテンダガラ イマ  
やっているんだから 今。

114R : イマモ ?  
今も ?

115G : ホーテ イソカ<sup>。</sup> シドギワ アサ ヨンヂニ オギデ モン<sup>。</sup>  
それで 忙しい時は 朝 四時に、 起きて 門 [を]

デンダゲンヂョ ヨンヂ オギデ ソーシテ  
出るんだけど、 四時に 起きて そうして

イッテ ホッテ アサ ワ コゴデ クワネデ イエデ  
行って そして 朝、 は ここで 食べないで 家で

クッテ ソエガ コンダ ワカ<sup>。</sup> イワ チャント アンダワイ ソエガ  
食べて それから 今度は 自分の家は ちゃんと あるんよ。 それから

イエンデ クッテ コンダ ツハンモ コネードギモ アンダ  
家で 食べて 今度は 昼ごはんも 来ないときも あるんだ。

ホッテ ニンヂガ サンヂコロ クンベ  
そして 二時か 三時頃 来るでしょ。

ダゲンヂョ イマワ シコ<sup>。</sup> ドワ アッケンヂョ モノスコ<sup>。</sup> グ  
だけど 今は 仕事は あるけど ものすごく

ソノ キグノ イソカ<sup>。</sup> シーノワ デヨンヂョニ ヤレバ イイガラ  
その 菊の 忙しいのは、 徐々に やれば いいから、

ンダガ イマワ アサ<sup>。</sup> タベデ コンダ イッテ クンダ ンダゲンヂョ  
だから 今は、 朝 [は] 食べて 今度は 行って くるんだ。 だけど

イマワ アサ イク<sup>。</sup> ド スンヅシグッテ キモヂ<sup>。</sup> イーンベ  
今は 朝 行くと 涼しくって 気持 [が] いいでしょ。

ンヂヤガ アサ ヤッパ イッタンダヨ ソシテ イマ カエッテ  
だから 朝 やっぱり 行ったんだよ。 そして 今 帰って

キタ タイシタモンダー アノ クルマ ナー ホッテ  
来た。 大したものだ。 あの 車。 なあ。 そして

アサ オレダヂド ゴハン タベネ ホゴ イッシューカンク。 レーンダ  
朝 私たちと ご飯 食べない。 ここ 一週間くらいだ。

ソーヤッテ アサイ アサ イク。 ド アサノ クーキュ キモヂ イーベ  
そうやって ××× 朝 行くと 朝の 空気 [が] 気持 いいでしょ。

ヨンヂダド タイシタモンダワイ一 デ イマ コンダ ダイゴント  
四時だって。 大したもんだよ。 で 今 今度は 大根と

アギノ ハクサイ マガナンネベ ソレ キンナ ヤサイ ϕ  
秋の 白菜 蒔かなければならないでしょ。 それ 昨日 野菜 [を]

カッテ キタナンテ タネϕ カッテ ナンボモ ハイッテネ コンナ  
買って 来たなんて、 タネ [を] 買って いくらも 入ってない。 こんな

チットデ ゴヒヤグエンダドー ンマイ ダイゴン ノー タネ  
ちょっとで 五百円だって。 おいしい 大根、 の タネ。

ソーユーフーニ イマ タゲーンダワ オラダヂϕ ヤットギワ  
そういう風に 今 高いんだわ。 私たち [が] やるときは

ヨンヒヤグゴンヂューエンダモン \*\* ノンボッタ  
四百五十円だもの。 \*\*。 上った。

ゴヒヤグエンダツツーンダ アノ アオアカ。 リ アオクンビ  
五百円だって言うんだ。 あの 青上がり 青首

ソーンブドリツツーノワ ンマインダ ツブモ デッケーンダ ダイゴンワ  
ソウブドリっていうのは おいしいんだ。 粒も 大きいんだ。 大根は

オンメワ ノーカンネーガラ ワガンネゲンヂョ ソレϕ マグノカ。  
あなたは 農家でないから 分からないけど それ [を] 蒔くのが

イヂバン ンマインダ ナマデ ハダゲデ  
一番 おいしいんだ。 生で 畑で

クーベ アマーイ ツユϕ デンノ  
食べるでしょ。 甘い つゆ [が] 出るの。

116R : ダイコンカラ?  
大根から?

117G : ウン ソレダゲ ダイゴンワ ニレバ ソノ ダイゴンワ アンヂϕ  
うん。 それだけ 大根は 煮れば、 その 大根は 味 [が]

イインダ イヂバンナンダ ンヂヤガラ  
いいんだ。 一番なんだ。 だから

アノ タネϕ タゲー タネモ ソシテ コナ  
あの タネ [は] 高い。 タネも そして こんな

ヅネーヌダ ナー {笑} タイシタモンダワイ  
大きんだ。 なあ {笑} 大したもんだよ。

(中略)

124G : コンドモカ。 ? アー コンドモϕ チーサイガラ デギナイ  
子供が? ああ 子供 [が] 小さいから できない。

コンドモカ。 ャッパ トシニ オーンヂデ  
子供が。 やっぱり 年に 応じて、

ソーユー アンブネドガ アノ キケンナ ホラ インヂッテ  
そういう、 危ないとか あの、 危険な ほら いじって

ワリドガ フグロドガ ソーユー ャッパ ワガンネデ コンドモ  
悪いとか 袋とか、 そういう やっぱり 分からないで 子供 [が]

カブツタリ ワサϕ シックカラ ンヂヤガ ャッパ アノ イロイロ  
かぶつたり 遊び [を] するから だから やっぱり、 あの いろいろ

アンヅゲデ ワサϕ サセンニワ ャッパ アンブナグ ネーモン  
預けて 遊び [を] させるには、 やっぱり 危なく ないもの

ソーユーノオ デギ コンドモワ クーガラ  
そういうのを そのうち 子供は 食べるから、

コーヤッテ クツツア イッチモ \*\*ノ ヌゲネモノ  
こうやって 口に 入れても \*\*の 抜けないもの。

\*\* ソノ イロイロナ モヨーϕ アットゴノ コーヤッテ  
\*\* その いろいろな 模様 [が] あるところの こうやって

ナメット \*\* ヌゲッペ ヤヤノ \*\* クーガラ ホード  
舐めると \*\* 抜けるでしょ。 赤ん坊の \*\* 食べるから そうすると

ソーユーノワ ワガンネデ コーヤッテ ナニ クレーヤッチャ ワカ<sup>。</sup> ϕ  
そういうのは 分からないで こうやって 何 ////////////// 自分 [で]

クッタッテ ホンヂャガ オラ ϕ アルグヨーンナット ホゴラヘンノ  
食べたって。 それだから 私 [は] 歩くようになると そこら辺の

ゴミ ϕ メッケデモ ヒヨイット クツツア  
ゴミ [を] 見つけても ひよいつと 口に

イレンベ ホンヂャガラ イロイロ ソノ一 アソビバ  
入れるでしょ。 それだから いろいろ その 遊び場

ヤヤンドギワ アソビバッテ \*\* ソゴンドゴサワ ゴミノ  
赤ん坊の時は 遊び場って \*\* そこのところには ゴミの

クツツグ モノワ ヤッパ オガネホーカ<sup>。</sup> イイ ウン オライノ  
くつ付く ものは やっぱり 置かないほうが いい。 うん。 私の家の

アンチャン ϕ イッカイ オレ ϕ ナニ ヤッテダガナー  
お兄ちゃん [は] 一回 私 [が] 何 やっていたかなあ

ナカ<sup>。</sup> シダッケガ ナニガ センタグダッケ ヤッテダンダ  
流しだったか 何か 洗濯だったか やっていたんだ。

リョーリ シシー ホッテ コンダ イッタドギ  
料理 しながら。 そして 今度は 行ったとき

ホラ シュード デーチャン ϕ イダッタガラ ンヂャガラ  
ほら 舅 おじいさん [が] いたから だから

サンサイマデ イダベ シュード デーチャン ϕ チョゴット  
三歳まで いたでしょ。 舅 おじいさん [が]。 ちょこっと

アレ シッカラ ナニガ リョーリ シテ カワサ イッテ アラッテ  
あれ するから 何か 料理 して 川に 行って 洗って

キタラナー トンデッテ ソノ \*\*ニ  
来たんだなあ。 飛んでいって、 その \*\* に

ハッテ \*\*シテ アルッテダッケ \*\* オラφ  
這って \*\*して 歩いていたら \*\* 私 [は]

ヤヤφ      イッカラ ソドワ デネーガラ      ソーシタラ デサマカ°  
赤ん坊 [が]    いるから 外は 出ないから、 そうしたら おじいさんが、

シュードサマカ°    ナーニφ オモッタノガ デューエンドッガφ  
舅様が、        何 [を] 思ったのか 十円銅貨 [を]

アンヅゲダダド    ゾノ デューエンドガφ ヨロゴンデ  
預けたんだって。 その 十円銅貨 [を] 喜んで

ナンドガ ワガンネンダワイ    クイモンダ\*\* クイモンダド  
なんだか 分からないんだよ。 食べ物だ\*\* 食べ物だと

オモッテ クッタベ      ホータ      ハカ° ッチマッタノ  
思って 食べたでしょ。 そうしたら はまってしまったの。

ホーシテ ナンダ コンダ コワサ キテンダ      \*\*ツテ  
そして なんだ 今度は 川に 来ているんだ。 \*\*って

ナイデ    デサマモ      ナントモ ショーネヤベ  
泣いて。 おじいさんも なんとも しようがないでしょ。

シタッケガ°    ホーラ ホーラ ホーラ ホーラッテ ミッタケダ  
そうしたら ほら ほら ほら ほらって みたら、

ホータ    ヤヤワ コーヤッテ ハサマッテ イデベー  
そしたら 赤ん坊は こうやって 挟まって 痛いでしょ。

デューエンドッガダモン ソエ ナニシタノッテ コンダ アンマ  
十円銅貨だもの。 それ 何したのって 今度は、 あんまり

ナクカラ ハンパンシテ キタノ トンデ ホーシタッケ コゴ イダイヨー  
泣くから 半端にして 来たの。 飛んで。 そしたら ここ 痛いよ。

イダイヨーッテ ミツツダガ シャンベンダ \*\* イシャサ \*\*  
痛いよって 三つだから、 しゃべるんだ。 \*\* 医者に \*\*

ショーネーガラ モケ° ダッテ イード オモッテ コンダ オモイギッテ  
しようがないから もげたって いいと 思って 今度は 思い切って、

\*\*ツト トッタワイ コゴφ チット アイダッペゲンヂョ  
\*\*つと 取ったよ。 ここ [が] ちょっと 空いたみたいだけど。

125R : オレナカッタ  
折れなかった?

126G : ウーン トッチャ ャット トッタ ナイデ マックログナッテ  
うん。 とれた。 やっと 取った。 泣いて 真っ黒になって

ナイッタッテ マー ノンダラ タイヘンダガラ カマネデ グーット  
泣いたって まあ 飲んだら 大変だから、 構わないで グーっと

トッタワイ ウエサ ソーシタ コゴφ  
取ったよ。 上に。 そうしたら ここ [が]

チット アイデ チーφ デダッケナ ウーン ソノママ  
ちょっと 空いて 血 [が] 出たつけな。 うん。 そのまま

カマネンデ オイダ シバラグ ナイッタ イデガッタ {笑}  
構わないで 置いた。 しばらく 泣いていたよ。 痛かった。 {笑}

ソンナドギ アッタ ウーン ナンダッテ イロイロ シタガラ コンドモノ  
そんなとき あった。 うん。 なんだって いろいろ したから 子供の

アソビバッテ ツグッテ オゲンベー ヘヤ ヒトヅナ ソンドギワ  
遊び場って 作って 置けるでしょ。 部屋、 一つな。 そのときは

ヤッパ イヅも キレニ シテ アノ  
やっぱり いつも きれいに して、 あの、

コンナ チーチェー コンナ \*\* ゴミデモ  
こんな 小さい こんな \*\* ゴミでも

ナンデモ メッケダラ クーンダガラ ヤヤッテ ナンツーダモン  
何でも 見つけたら、 食べるんだから 赤ん坊って。 なんていうんだもの。

ヂギ コーヤッテ タガグ シテ アルッテ デギ コーヤッテ  
そのうち こうやって 高く して 歩いて そのうち こうやって

クツツアイデンダ ナンナンナー ソーユーノ キーφ  
口に入れるんだ。 なんなんなんあ。 そういうの 気 [を]

ツケンナンネ ウーン ウーン {笑}  
付けなければならない。 うん。 うん。 {笑}

127R : ハワ ダイヂョーブダッタンデスカ?  
歯は 大丈夫だったんですか?

128G : ウーン  
うん。

(中略)

136G : ンダナー シタガラ オレワ ソノー アシφ キッテガラ コンダ  
そうだなあ。 それから 私は、 その 足 [を] 切ってから、 今度は  
リハビリ ヤッタソベ イマモ ソーダゲン シタッケガ° リハビリ φ  
リハビリ やったでしょ。 今も そうだけど そうしたら リハビリ [に]  
インカラ (同居人の発話:省略)  
行くから

137G : リハビリガラ コンド オワッテガラ ゴセンエン シタノ  
リハビリから、 今度 終わってから、 五千円 したの。

ホンヂヤガラ コンダ コー コーナッタベ  
それだから 今度は、 こう こうなつたでしょ。

ンダガ アダンネヨニ チートト オッキー コーユー<sup>一</sup>  
だから あたらないように、 ちょっと 大きい こういう  
ダンブラシタ アソゴニ アンダ アレ チヤッポイノ ミエンベ  
ダンブラした あそこに あるんだ。 あれ 茶っぽいの 見えるでしょ?

マックレーノンノ ソンバφ チヤッポイノ アレφ オレノ  
真っ黒いのの そば [に] 茶っぽいの。 あれ [が] 私の。

クヅ ンデ イマワ イマワ ホラ コンナ コナクレーンデ コーナッテ  
靴 それで 今は、 今は ほら こんな こんなくらいで こうなつて  
インノφ ハゲネ ウン ンヂヤガラ リハビリノ アシノ  
いるの [は] 履けない。 うん。 だから リハビリの 足の

ワルイ ヒトワ チッヂエノンネグッテ ユックラシタ  
悪い 人は、 小さいのでなくって、 ゆったりした

コー ダップリシタ ソレオ ハイデ サギノホー コー  
こう だっぷりした それを 履いて、 先のほう こう

バンド ソーインデ ホゴφ シメンノ コー カガトダベ  
バンド、 そういうので ここ [を] しめるの。 こう かかとでしょ。

ホット ハイデ ンデ サギφ マルイベ ダ サギノ  
そうすると 履いて、 それで 先 [が] 丸いでしょ。 だから 先の

ツットカ。 ッタノワ ハガネーノ アシノ ワルイ ヒトφ サギノ  
尖ったのは 履かないの。 足の 悪い 人 [は] 先の

マルケーノ ソレオ ハグゴド ウン ホッテ  
丸いの、 それを 履くこと。 うん。 そして

ナリタケ コゴノ ウエニ バンドφ アンベ  
なるだけ、 ここに 上に、 バンド [が] あるでしょ。

ホット ユルグッテ コノ バンドデ ギュット シメッカラ コレナ  
そうすると 緩くって、 この バンドで ぎゅっと しめるから これな

コンバン コレワ カガドダ ソンヂャガラ アルグニ トッテモ イイノ  
////// これは かかとだ。 それだから 歩くのに とっても いいの。

サギノ ツットカ。 ッタノワ アシφ ナンモネーヨ ワリグ シッチャ  
先の、 尖ったのは、 足 [は] 何にもないよ。 悪く してしまう。

ウンヂャガ マルイノカ。 イー サギφ マルイノ ウン ソレオ  
だから 丸いのが いい。 先 [が] 丸いの。 うん。 それを

カンケ。 一テ チットワ イヅツ ムツツ タメンナッタナー  
考えて。 ちょっとは 五つ 六つ ためになったな。

ミナヅルヒメダベシナー ソレガラ コンダ イロイロナ ナンダッケガ  
ミナヅル姫だしな。 それから 今度は、 いろいろな 何だっけ

イヅツク。 レー ユッタヨ (同居人参入：省略)  
五つくらい 言ったよ。

(中略)

140G : ンーダナー ワダシワ イツモ ナニカニ ナニカニト ミンナワ コレ  
  そうだな。 私は いつも 何かに 何かにと、 みんなは これ  
  
  クスリ φ ヘルバーサンニ モラッテンノ ンダゲンヂョ オレワ ミンナ  
  薬 [を] ヘルパーさんに もらっているの。 だけど 私は みんな  
  
  ヂンブンデ ヤンノ デンブンデ ナリタケ カラダオ ウコ。ガスノ  
  自分で やるの。 自分で。 なるだけ 体を 動かすの。  
  
  ンヂャガラ アサ コゴデ ゴハンφ タベデッタラ、  
  だから 朝 ここで ご飯 [を] 食べていいたら  
  
  コンダ ヘヤニ コノ コシカゲガ。 アンダ コレヨッカ  
  今度は 部屋に この 腰掛が あるんだ。 これより  
  
  ヤ コレヨッカ ヤッコグッテ ホゴサ ヨー ノッカガラレンノ  
  や これより 柔らかくて、 そこに こう 乗りかかれるの。  
  
  ヨー ヨーナッテ コゴサ ヨー シカグデ デ ウシロサ ヨー ソレサ  
  こう こうなって ここに こう 四角で で 後ろに こう それに  
  
  ノッカガッテ マンヅ クスリオ ノンダリ ソレガラ コンドワ  
  乗りかかって まず 薬を 飲んだり、 それから 今度は  
  
  イロイロナ アノ ソノ キヨーノ ヤリガダドガ キンナノ ヤッタゴド  
  いろいろな あの その 今日の、 やり方とか、 昨日の やつたこと  
  
  マンダ イヂヂカンハンク。 レー コーヤッテ カンケ。一デ ソレガラ  
  また 一時間半くらい こうやって 考えて、 それから  
  
  コンダ メク。スリ φ サシテ ソレガラ コンダ  
  今度は 目薬 [を] さして、 それから 今度は  
  
  マイニヂノ コンダ オラ φ チーット ケジアヅ φ  
  毎日の、 今度は 私 [は] ちょっと 血圧 [が]  
  
  アレダーナンッタガラ タガグワ ネーゲンヂョ ソレ ヤッパリ  
  あれだなんて言ったから、 高くは ないけど それ やっぱり

ツンヅゲロツツワッチャガラ ソレオ コンダ アサノ ギヨーンヂニ ゴハンφ  
続けろって言われたから、それを 今度は 朝の、行事に ご飯 [が]

オワッテガラ イヂヂガンク。 レー タヅゲンヂョ コンダ クスリ  
終わってから 一時間ぐらい 経つけど、 今度は 薬

ノンデ ヤー コンダ オワッテガラ コンダ  
飲んで、やあ 今度は、終わってから 今度は

イローンナゴド コーヤッテ ニッカ カンケ。 一ノ ウン  
いろんなこと こうやって、日課 考えるの。 うん。

チノー ソゴノ マンナガシダヒトφ アノ シタサ ハグ アノ  
昨日 そこの 真中にいた人 [が]、あの 下に 穿く、あの

パンヂヤマノ アノ コンナ チッヂエッケンダ オレφ ヨッテ  
パヂヤマの あの こんな 小さいんだ。 私 [が] 寄って

ア一 コンヂワ \*\*ヒト ホラ トニヨンデ クンダφ イッチ アノ  
ああ これでは \*\*人 ほら、糖尿で 管 [を] 入れて あの

クルマイスンダ ダガ オレφ チョイチョイ メンド ミデ ソーシテ  
車椅子だ。 だから 私 [は] ちょいちょい 面倒 みて、 そうして

コンダ コーヤッタケガ。 コンナ マルケーンダ  
今度は こうやつたら こんな 丸いんだ。

イヤ コーヤッテ コナク。 レネード ショーカ。 ネーベッタッケガ。  
いや こうやって こんなくらないないと しょうがないでしょって言つたら、

アノ ソーナ ンヂャ オレφ マエニモ グホン  
あの そうだ、じやあ 私 [が] 前にも グボン

フタツ ナオシタノ ウン \*\* オドゴノヒトノ ホーシタラ  
二つ 直したの。 うん。 \*\* 男の人の。 そうしたら

ンヂャ コレ ゴムφ イマット コナク。 レーネード ショーネガラ  
じやあ これ ゴム [を] もう少し こんなくらないないと しょうがないから

イッチクレッカラ ホンヂ イマ ソレφ ヤッカナード オモッテ  
入れてあげるから それで 今 それ [を] やるかなあと 思つて

ノヘート シテ イヂヂカンハンク<sup>。</sup> レー コンナシテ イタッケガ<sup>。</sup> ホラ  
のへんと して 一時間半ぐらい こんなして いたら、 ほら

デンワ キタベ ンヂヤ ゴンゼンチューニ ャッチマウガド  
電話 来たでしょ。 じゃあ 午前中に やってしまうかと

オモッタゲンヂョ ヤイヨーネガッタ アナタド オアイシタガラ  
思ったけど、 やりようがなかった。 あなたと お会いしたから。

141R : アー スイマセン  
ああ すいません。

142G : デヤ ゴコ<sup>。</sup> ャッチマウワイ ウン ゴムカ<sup>。</sup> ナンナンナン  
じゃあ 午後 やってしまうよ。 うん。 ゴムが なんなんなん

コンナ チッチャグッテ ウン ンヂヤ コンダ  
こんな 小さくて うん。 じゃあ 今度は

ノンバスト コー シレンダ オヂヤ  
伸ばすと こう 広いんだ。 お茶を

ノンデッタノ アイ オヂヤ ノンデッタノ {笑} ナー  
飲んで行ったの。 あい お茶 飲んで行ったの。 {笑} なあ。

キューンデューイヂダモン タイヘンダワイ ャッパ コナイダ マンマ<sup>。</sup>  
九十一だもの。 大変だよ。 やっぱり。 こないだ ご飯 [が]

クワンニグッテ ナンナ チョーシ ワリグッテ マンマ<sup>。</sup>  
食べられなくって なんだか 調子 悪くって、 ご飯 [を]

コナク<sup>。</sup> レーシカ クッテ ネガッタノ ソンヂヤガラ  
このぐらいしか 食べて なかったの。 それだから

イマ ヤット フヅガ イッテキタベ  
今 やっと、 二日 行ってきたでしょ。

テンテギ ンヂヤガ コンドワ ヤット マンマ<sup>。</sup> クッテ ホーッテ  
点滴。 だから 今度は やっと、 ご飯 [を] 食べて そうして

ノンボラエルヨーニ ナッタンダ \*\* イマ ヨッポンド チカラ<sup>。</sup>  
のぼることができるようになつたんだ。 \*\* 今 よっぽど 力 [が]

デダンベー ンヂヤガ オレφ ゼニダガバッカ タカ<sup>。</sup> ッテネーデ  
出たでしょ。だから 私 [は]、 お金ばっかり 稼いでないで

カネモチサマダベ ゼニダガバッカ タカ<sup>。</sup> ッテネーデ エーヨーモノ  
お金持ちでしょ。 お金ばっかり 稼いでないで 栄養のあるものを

ドンドンクエ ソバニ イッカラ ユーナ ホーシタラ オレニ  
どんどん食べろ。 そばに いるから、 言うんだ。 そうしたら 私に

ユワッチャッケ コンナ ヴネー ツブノ スンヅコφ オレゴド  
言われたら こんな 大きな 粒の すじこ [を] 私に

クエツツーノ オレφ チライダベ オレφ アノ  
食べろって言うの。 私 [は] 嫌いでしょ。 私 [は] あの

タラノコワ クーゲンヂョ スンヅコワ ヤダ  
タラのコは 食べるけど、 すじこは やだ。

ナマク<sup>。</sup> セーガラ ウン ンヂヤ コンナ ヴネーノ アレ タゲワイ ソレ  
生臭いから。 うん。 だから こんな 大きいの あれ 高いよ。 それ

コンダ オレφ ユワッチャッケ<sup>。</sup> ニカイク<sup>。</sup> レー クッタナー ウン  
今度は 私 [に] 言われたら、 二回ぐらい 食べたなあ。 うん。

ニモ コゴデ イロイロ ケッコー オガソジ アッカラ ネードギモ  
// ここで いろいろ 結構、 おかげ あるから、 ないときも

アッケンヂョ {笑} チットワ イロイロ タメンナッタ?  
あるけど。 {笑} ちょっとは いろいろ ためになった?

1434R : ナリマシター  
なりました。

144G : イヅヅクレーワ イーゴド ュッタモンナー {笑}  
五つぐらいは いいこと 言ったもんな。 {笑}

(中略)

162G : ウン ソンダナー マー アシコシφ イデゲンヂョ カンタンナ  
うん。 そうだなあ。 まあ 足腰 [が] 痛いけど 簡単な

シコ<sup>。</sup> ドダラ アノ オレワ ナンデモ ヤッテキタガラ オモダグネー  
仕事なら、あの 私は 何でも やってきたから、重たくない

カンタンナ シコ<sup>。</sup> トダラ ヤルヨ オレ<sup>φ</sup> コゴデ コナイダ  
簡単な 仕事なら、やるよ。 私 [は] ここで、こないだ、

オミセ<sup>φ</sup> デダカ<sup>。</sup> ンチャゲンヂョ コナイダ  
お店 [に] 出たものだけど、こないだ

シャヂョサンニ タノマッチ コンナ ウエンナ ヌイク<sup>。</sup> ルミ  
社長さんに 賴まれて、こんな // ぬいぐるみ

ソレ ツグッテ ヨーチエンサ シャヂョサンカ<sup>。</sup> キフシンドド  
それ、作って、幼稚園に、社長さんが 寄付したんだって。

コンダ コナク<sup>。</sup> レーノ ナス ソレ<sup>φ</sup> ワダイッチ ソシテ  
今度は このぐらいの ナス。 それ [に] 縫を入れて そして、

アノ コーユーフーニ カエシバリングッテ カンザリツケダ アノ  
あの、 こういう風に 返し針////////// 飾り付けた あの

ギャグバリ ソレオ ツクッテ ナンダッテ ヒニヂ カガッタヨー  
逆針、それを 作って、何だって 日にち かかったよ。

イッカケ<sup>。</sup> グク<sup>。</sup> レー ソレ ソゴニ アッケンヂョ ソナクレー \*\*  
一ヶ月くらい。 それ そこに あるけど、そのぐらい \*\*

デギッカツツーガラ オレ<sup>φ</sup> ヒトンヂ ヤッタ デギガツツーガラ  
できるかって言うから、私 [が] 一人でやった。できるかって言うから、

オレ<sup>φ</sup> ヨーサイヤッテ イロイロ ヤッテッカラ ヤッテミマショッテ  
私 [が] 洋裁をやって いろいろ やっているから、やってみまよって。

ムンヅガシガッタゲンヂョ ヤッタ ウン ウン ウン  
難しかったけど、やった。 うん。 うん。 うん。

163R : ナライコ<sup>。</sup> ト<sup>φ</sup> シタナカデワー (G : ン?)  
習い事 [を] したなかでは ( ん? )

ナライコ<sup>。</sup> ト<sup>φ</sup> シタナカデワー ソノ ヨーサイカ<sup>。</sup> イチバン  
習い事 [を] したなかでは その 洋裁が 一番

トクイナンデスカ?  
得意なんですか?

164G: ヨーサイノ イチバン  
洋裁の 一番

165R: ヨーサイガ° アノ リョーリトカヨリモ トクイナンデスカ?  
洋裁が あの 料理とかよりも 得意なんですか?

166G: リョーリドガ ヨーサイ  
料理とか、 洋裁

167R: ヨーサイガ° イチバン トクイナンデスカ?  
洋裁が 一番 得意なんですか?

168G: アー ヤッパ オレワー ワサインダナ  
ああ、 やっぱり 私は、 和裁だな。

169R: アー ワサイ  
ああ 和裁。

170G: ウン ワサイカ° ヤッパ センセーϕ ヤッテキタガラ ヤッパ  
うん。 和裁が やっぱり 先生〔を〕 やってきたから、 やっぱり  
イヂバン トグインダ イマ ダンダン イソカ° シノϕ  
一番 得意だ。 今 だんだん 忙しいの〔が〕  
ネグナット アミモノ シテ  
なくなると、 編物 して

171R: アー アミモノ  
ああ 編物

172G: ウン アミモノϕ ヤラエル ヤッパ ヨーサイϕ シッテックカラ  
うん。 編物〔が〕 できる。 やっぱり 洋裁〔を〕 知っているから、  
アミモノϕ ヤッテ ソーシテ コンダ マ イロイロナ ギヨーンヂϕ  
編物〔を〕 やって そうして 今度は ま いろいろな 行事〔が〕

ネグナッテガラ ホンダ ポカーント シコ° トϕ  
なくなってから それじゃあ ポカーンと 仕事〔が〕

ナッタドギ オレワ ターンダ イネーダ  
なくなったとき、私は ただ いないんだ。

ヒマゆ アット コレダベ ホノ ノート スル ホンヂダッテ  
暇 [が] あると これでしょ。 その ノート する。 それで いたって  
ターンダ イネーダ ネゴロンダゴド ネーダ ホンヂ コシ カゲデ  
ただ いないんだ。 寝ころんданこと ないんだ。 それで 腰 掛けて、

チ一 カギオ ャッテミダリ ソゴラヘン チット セーリ シテミダリ  
字 書きを やってみたり、 そこら辺 ちょっと 整理 してみたり、

ソナンシテルウヂ デギ オヒルンナッチマウンダモン トイレサ  
そんなことしているうち そのうち お昼になってしまふんだもの。 トイレに

イッタリ ナッガナガ イソカ<sup>。</sup> シンダ ンヂヤガ イマ チット  
行ったり、 なかなか 忙しいんだ。 だから 今 ちょっと

ヒマンナッテガラ ンダ ケード モラッタガラ アミモノデモ ユックリド  
暇になってから、 そうだ 毛糸 もらったから、 編物でも、 ゆっくり

テワサニ ャッテ ミナ デブンデ ソンデナシダノ フユ キテンダ  
手遊びに やって、 みんな 自分で 袖なしだの 冬、 着ているんだ。

ホンヂヤガラ ボーンデ アムド テマ カガッカラ ツノデ ツノデ  
それだから、 棒で 編むと 手間かかるから、 つので、 つので

コーヤッテ ツノバリワ カンタンダガラ アノ  
こうやって つの針は 簡単だから、 あの

ボーンデ アムノワ ナガナガ カダモ シンケーモ ツカガラ  
棒で 編むのは、 なかなか 肩も 神経も 使うから、

ムスイガラ ンヂヤ ツノンデ ヤンノワ コーヤッテヤット  
///から だから つので やるのは こうやってやると

ハヤインダ ソーッテ アノ キーモ ツカネダ キコ<sup>。</sup> キコ<sup>。</sup> ゴロ  
早いんだ。 そうして あの 気も 使わないんだ。 ×× 気心、

キコ<sup>。</sup> ゴロ φ ツカレネンダ ボーンデ アムノワ ソレモ ヒトヅ  
気心 [が] 疲れないんだ。 それで 編むのは それも 一つ

タメンナツタベ ボーンデ アムノワ アノ シンケーカ° アノ  
ためになったでしょ。 棒で 編むのは、あの 神経が、あの

コマカグ コー ヤンナンネガラ ツカレル  
細かく こう やらなければならぬから 疲れる。

ツノンデ コーヤッテ ヤンノワ ナンニモ テーセー  
つので こうやって やるのは、何にも 手さえ

ンコ° ガシテット アダマφ ツカネッテ シンケーφ ツカンニンダ  
動かしていれば 頭〔を〕 使わなくて、神経〔が〕 疲れないんだ。

ダ ソレ ツノ アッカラ コーヤッテ ャッカド オモッテ  
だから それ つの あるから、 こうやって やるかと 思って。

173R : ナンカ イッポンノホーカ° タイヘンナヨーナ カンヂカ°  
なんか 一本のほうが、 大変なような 感じが。

(G : ン? ン?) ヤルコトデキナイト  
( ん? ん?) やることができないと、

イッポンデ ヤルホーカ° アノ ニホンヨリモ  
一本で やるほうが あの 二本よりも

ムヅカシソーナ カンヂカ° シマスケド チカ° ウン  
難しそうな 感じが、 しますけど 違うん

174G : ウン ャッパ ボーンデ ヤンノワ ナガナガ コマケガラ  
うん。 やっぱり 棒で やるのは、なかなか 細かいから、

ツカレッカラ ムンヅガシ ウン ャッチゲンヂョ ムンヅガシ  
疲れるから 難しい。 うん。 やりたいけど 難しい。

ソーシテ コンダ ボーンデ ヤンノワ ムスインダ タマンノカ° ウン  
そうして 今度は 棒で やるのは // / んだ。 たまるのが。 うん。

175R : ムスイッテ  
ムスイって?

176G : ムスイッテワ マノルイノ ハヤグ ュード マノルイノ  
ムスイっては、 間鈍いの。 早く 言うと 間鈍いの。

ムスイツツーゴド ウーン ヤッパ イマノモンダガ  
ムスイって言うこと。 うん。 やっぱり 今の人だから

ワガソネワナー マノルイノ ムスイツツーゴド サササード  
分からぬわなあ。 間鈍いの。 ムスイっていうこと。 サササーって

デギネガラ マー ハヤグ ュード イマノ コドバデ  
できないから まあ 早く 言うと 今の 言葉で

ユード マノルイ マノルイ オレワ ナンデモ サササード ヤル  
言うと 間鈍い、 間鈍い、 私は 何でも サササーっと やる

セーカクダベ ホンヂャガ アンマ ノロイノワ ヤンダ ソレガ ツノンデ  
性格でしょ。 それだから あんまり 鈍いのは やだ。 それが つので

ヤンノワ ダンダン ダンダン カサナンド ボーンデ ヤルヨッカ  
やるのは、 だんだん だんだん 重なるんだ。 棒で やるより

カサナルヨ ボーンデ ヤンノワ コナク<sup>。</sup> レーシカ  
重なるよ。 棒で やるのは このぐらいしか

メー<sup>ゆ</sup> イッカイニ コー デギネモン \*\*\*ット  
目 [が] 一回に、 こう できないもの。 \*\*\*と

コー ツマンノカ<sup>。</sup> ハダオリ アレド オンナヂ  
こう つまるのが、 機織、 あれと 同じ。

ハダオリワ ホソイ イド<sup>ゆ</sup> コーヤッテ コーヤッテ オンベ  
機織は 細い 糸 [を] こうやって こうやって 織るでしょ。

カラーカラーッテ コーヤッテ アレワ ナガナガ シランヅシランヅ  
カラーカラーって こうやって。 あれは なかなか、 知らず知らず

ヤッテルウヂニ コーユーフーニ ハンバニ タマッテッケンヂョ オライノ  
やっているうちに こういう風に、 幅に たまっていくけど、 私の家の

オッカサン ハダオリ ヤッテダンダ タイヘンダナード オモッテ  
お母さんは 機織を やっていたんだ。 大変だなあと 思って

ミッタ イドンダガラ イド ソレ<sup>ゆ</sup> コー  
見ていた。 糸だから、 糸 それ [を] こう

オンダガラ ウーン ホーッテ ダンダン  
織るんだから。 うん。 そうして だんだん

コナク。 レー コナク。 レー コナク。 レー コナク。 レーッテ  
このぐらい このぐらい このぐらい このぐらいって、

ヤッテク。 ダガラ ハダオリ ヤッテダダガラ コーヤッテ  
やっていくから 機織 やっていたから こうやって

トン コーヤッテ トンッテ ウーン ナンデモ ソーユーノ ϕ  
トン、 こうやって トンって。 うん。 何でも そういうの [を]、

ミデキタシ ウカ。 デモ イローンナ クローϕ ヤッテキタ  
見てたし、 自分でも いろんな 苦労 [を] やってきた。

#### 4. おわりに

今回はコーパス作成を主にし、そこから読み取れる若干の特徴を述べた。今後さらに詳細な分析を試みていきたい。

#### 参考文献

- 早田輝洋 1985:『博多方言のアクセント・形態論』九州大学出版会 福岡
- 日高水穂 2000:「秋田方言の文法」秋田県教育委員会編『秋田のことば』無明舎出版 pp.74-134
- 井上史雄 1994:「鶴岡方言の音韻」国立国語研究所『国立国語研究所報告 109-1 鶴岡方言の記述的研究－第3次鶴岡調査 報告1-』国立国語研究所 pp.37-79
- 2003:『日本語は年速一キロで動く』講談社 東京
- 菅野宏 1982:「福島県の方言」豊毅一他編『講座方言学4—北海道・東北地方の方言—』国書刊行会 pp.363-397
- 児玉卯一郎 1974:『福島県方言辞典』国書刊行会 東京
- 国立国語研究所 1994:『方言文法全国地図3』 東京
- 国立国語研究所 1999:『方言文法全国地図4』 東京
- 国立国語研究所 (2003)『全国方言談話データベース日本のふるさとことば集成(第7巻)群馬・新潟』国書刊行会 東京
- 森下喜一 1996:「福島方言のアクセント」『東北方言のアクセントの研究』おうふう pp.233-289
- NHK放送文化研究所編 1998:『NHK日本語発音アクセント辞典新版』日本放送出版会 東京
- 日本放送協会 1966:『全国方言資料1巻東北・北海道編』東京
- 大橋勝男 1992:「福島県方言」平山輝男編『現代日本語方言大辞典第1巻』明治書院 pp.100-104
- 佐々木冠 2004,『日本語研究叢書16 水海道方言における格と文法関係』くろしお出版 東京